



JAEA-Testing

2024-003

DOI:10.11484/jaea-testing-2024-003

α 固体廃棄物 A 管理システムの構築

Development of the α Solid Waste A Management System

下村 祐介 杉山 達也 阿部 和幸

Yusuke SHIMOMURA, Tatsuya SUGIYAMA and Kazuyuki ABE

大洗研究所

環境技術開発センター

環境保全部

Waste Management Department

Waste Management and Decommissioning Technology Development Center

Oarai Research and Development Institute

January 2025

Japan Atomic Energy Agency

日本原子力研究開発機構

JAEA-Testing

本レポートは国立研究開発法人日本原子力研究開発機構が不定期に発行する成果報告書です。本レポートはクリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。本レポートの成果（データを含む）に著作権が発生しない場合でも、同ライセンスと同様の条件で利用してください。（<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>）
なお、本レポートの全文は日本原子力研究開発機構ウェブサイト（<https://www.jaea.go.jp>）より発信されています。本レポートに関しては下記までお問合せください。

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 研究開発推進部 科学技術情報課
〒319-1112 茨城県那珂郡東海村大字村松4番地49
E-mail: ird-support@jaea.go.jp

This report is issued irregularly by Japan Atomic Energy Agency.
This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License (<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.en>).
Even if the results of this report (including data) are not copyrighted, they must be used under the same terms and conditions as CC-BY.
For inquiries regarding this report, please contact Library, Institutional Repository and INIS Section, Research and Development Promotion Department, Japan Atomic Energy Agency.
4-49 Muramatsu, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki-ken 319-1112, Japan
E-mail: ird-support@jaea.go.jp

α 固体廃棄物 A 管理システムの構築

日本原子力研究開発機構 大洗研究所
環境技術開発センター 環境保全部

下村 祐介、杉山 達也、阿部 和幸

(2024 年 9 月 20 日受理)

日本原子力研究開発機構 大洗研究所 廃棄物管理施設では、大洗研究所及び近隣の他事業所から発生する放射性廃棄物を受け入れ、焼却、圧縮、詰替等の処理を行ったのち、廃棄容器に封入し保管管理している。これら廃棄物の性状並びに処理及び保管に関する情報を管理するため、廃棄物区分ごとに情報管理システムを整備する計画である。

第 1 弾として、令和元年度から令和 3 年度までの 3 か年で、α 固体廃棄物 A を対象とした情報管理システムを構築した。

本書は、構築した α 固体廃棄物 A の情報管理システムの機能について述べると共に、実際の廃棄物処理におけるシステムの運用（利用）についてまとめたものである。

Development of the α Solid Waste A Management System

Yusuke SHIMOMURA, Tatsuya SUGIYAMA and Kazuyuki ABE

Waste Management Department
Waste Management and Decommissioning Technology Development Center
Oarai Research and Development Institute
Japan Atomic Energy Agency
Oarai-machi, Higashiibaraki-gun, Ibaraki-ken

(Received September 20, 2024)

At the Waste Management Facilities of the Japan Atomic Energy Agency Oarai Research and Development (R & D) Institute, radioactive waste generated from the Oarai R & D Institute and nearby facilities is accepted, incinerated, compressed, repackaged, and then sealed in disposal containers for storage and management. To manage information on the properties, processing, and storage of this waste, an information management system is planned to be developed for each waste category.

As the first phase, an information management system for α solid waste A was developed over three years from FY 2019 to FY 2021.

This document describes the functions of the constructed information management system for α solid waste A and summarizes its operation in actual waste processing.

Keywords: Waste Management Facilities, Radioactive Solid Waste, Information Management System

目次

1. 序論	1
2. α 固体廃棄物Aの受入れ、処理及び管理	2
2.1 放射性廃棄物の区分	2
2.2 α 固体廃棄物Aの受入れ、処理及び管理の方法	2
2.2.1 α 固体廃棄物Aの受入れ	2
2.2.2 α 固体廃棄物Aの減容及び詰替処理	2
2.3 旧計算コードについて	3
3. α 固体廃棄物A管理システムの構築及び運用	4
3.1 システムの概要	4
3.2 システムの構成	4
3.2.1 ログイン認証	4
3.2.2 データ管理	4
3.2.3 データ出力	8
3.2.4 メンテナンス	11
3.3 データベース仕様	11
3.4 システムの運用及びその利点	11
4. 結論	12
謝辞	12
付録 1 α 固体廃棄物A管理システムにおける管理番号及び処理年月日の体系的整理	81
付録 2 α 固体廃棄物A情報出力機能における各種帳票・出力データの内部処理過程	82
付録 3 α 固体廃棄物Aの払出し方法の改善について	128

Contents

1. Introduction	1
2. Acceptance, Processing, and Management of α Solid Waste A	2
2.1 Classification of Radioactive Waste	2
2.2 Methods for Acceptance, Processing, and Management of α Solid Waste A	2
2.2.1 Acceptance of α Solid Waste A	2
2.2.2 Volume Reduction and Repackaging of α Solid Waste A	2
2.3 About the Calculation Code of the Previous Work	3
3. Construction and Operation of the α Solid Waste A Management System	4
3.1 System Overview	4
3.2 System Configuration	4
3.2.1 Login Authentication	4
3.2.2 Data Management	4
3.2.3 Data Output	8
3.2.4 Maintenance	11
3.3 Database Specifications	11
3.4 System Operation and Its Advantage	11
4. Conclusion	12
Acknowledgements	12
Appendix 1 Systematic Organization of Management Numbers and Processing Dates in the α Solid Waste A Management System	81
Appendix 2 Internal Processing Procedure of Various Reports and Output Data in the α Solid Waste A Information Output Function	82
Appendix 3 Improvement of Disposal Procedure Methods for α Solid Waste A.....	128

表リスト

Table 2.1	放射性廃棄物の区分基準	13
Table 2.2	放射性廃棄物の受入れ基準	14
Table 2.3	α 固体廃棄物 A 受入れ時の確認事項 (固体廃棄物)	17
Table 2.4	放射性廃棄物の表示 (固体廃棄物)	17
Table 3.1	α 固体廃棄物 A 管理システムの機能構成	18
Table 3.2	α 固体廃棄物 A 管理システムの画面一覧	20
Table 3.3	主要な入力制限・入力規制リスト	21
Table 3.4	データベース仕様 (テーブル一覧)	27
Table 3.5	データベース仕様 (テーブル定義一覧)	28
Table 3.6	データ入力とデータベース (テーブル) の関係	38

図リスト

Fig. 2.1	α 固体廃棄物 A の受入れ、処理及び保管の系統	41
Fig. 2.2	α 固体廃棄物 A 記録票	42
Fig. 2.3	α 固体廃棄物 A の処理風景図	43
Fig. 3.1	機能構成図	45
Fig. 3.2	システムメニュー画面及び呼び出し機能	46
Fig. 3.3	廃棄物情報一覧画面	47
Fig. 3.4	搬入・分類情報一覧画面	48
Fig. 3.5	焼却処理情報一覧画面	49
Fig. 3.6	焼却灰回収・保管情報一覧画面	50
Fig. 3.7	固化・装填処理情報一覧画面	51
Fig. 3.8	圧縮・装填処理情報一覧画面	52
Fig. 3.9	パッケージ封入情報一覧画面	53
Fig. 3.10	廃棄物情報入力画面	54
Fig. 3.11	入力条件に適合しないデータ入力を行った場合のエラーメッセージの例	54
Fig. 3.12	廃棄物情報修正画面	55
Fig. 3.13	修正理由の入力画面（廃棄物情報及び処理情報の修正時に表示）	55
Fig. 3.14	回収・受取情報入力画面	56
Fig. 3.15	搬入・分類情報入力画面	57
Fig. 3.16	焼却処理情報入力画面	57
Fig. 3.17	焼却灰回収・保管情報入力画面	58
Fig. 3.18	固化・装填処理情報入力画面	58
Fig. 3.19	圧縮・装填処理情報入力画面	59
Fig. 3.20	パッケージ封入情報入力画面	59
Fig. 3.21	パッケージ運搬情報入力画面	60
Fig. 3.22	履歴比較画面	61
Fig. 3.23	【 α 固体廃棄物 A 記録票】の入力確認表	62
Fig. 3.24	α 固体廃棄物 A 回収・受取票	63
Fig. 3.25	α 固体廃棄物 A 受入記録一覧表	65
Fig. 3.26	α 固体廃棄物 A 分類記録一覧表	66
Fig. 3.27	α 固体廃棄物 A 焼却処理装置運転記録一覧表	67
Fig. 3.28	α 固体廃棄物 A 焼却灰回収記録一覧表	68
Fig. 3.29	α 固体廃棄物 A（焼却灰）固化・装填記録一覧表	69
Fig. 3.30	α 固体廃棄物 A（不燃等）圧縮・装填記録一覧表	70
Fig. 3.31	α 固体廃棄物 A 管理台帳	71
Fig. 3.32	α 固体廃棄物 A 廃棄物パッケージ封入・保管記録	72

Fig. 3.33	α 固体廃棄物 A 在庫表〔作業エリア〕	73
Fig. 3.34	α 固体廃棄物 A 処理記録〔処理装置別〕	74
Fig. 3.35	α 固体廃棄物 A 搬入記録〔年度集計〕	75
Fig. 3.36	α 固体廃棄物 A 処理記録〔年度集計〕	76
Fig. 3.37	α 固体廃棄物 A 廃棄物パッケージ記録	77
Fig. 3.38	α 固体廃棄物 A 廃棄物パッケージ記録一覧表	78
Fig. 3.39	メンテナンス機能画面とコード修正例	80

This is a blank page.

1. 序論

日本原子力研究開発機構 大洗研究所 廃棄物管理施設では、大洗研究所及び近隣の他事業所から発生する放射性廃棄物を受け入れ、焼却、圧縮、詰替等の処理を行ったのち、廃棄容器（ドラム缶型、ブロック型、角型鋼製又はステンレス鋼製）に封入し保管管理している。大洗研究所 廃棄物管理施設における放射性廃棄物の管理では、廃棄物の性状、放射性物質の含有量及び容器表面の線量当量率を基準として、 α 固体廃棄物（A及びB）、 $\beta \cdot \gamma$ 固体廃棄物（A及びB）及び液体廃棄物（放出前廃液、A、B及びC）に区分している。実際の廃棄物処理においては、 α 固体廃棄物A、 α 固体廃棄物B、 $\beta \cdot \gamma$ 固体廃棄物A、 $\beta \cdot \gamma$ 固体廃棄物B及び液体廃棄物の5系統で放射性廃棄物を受け入れ、それぞれの処理施設で処理を行っている。

これら廃棄物の性状並びに処理及び保管に関する情報は、手順書等に定められた各種記録を作成すると共に、平成25年3月までは大型計算機で動作する「放射性廃棄物帳票管理コード」（以下「旧計算コード」という。）により管理していた。しかしながら、平成25年3月で大型計算機が廃止され、それに伴い旧計算コードも運用を停止したことから、それ以降は Excel、Word 等のオフィスソフトによるデータ管理（旧計算コードの機能の一部に限定）及び書類作成を行っている。

これら廃棄物処理に関する情報を管理するためのシステム整備を、廃棄物区分ごとに全4回に分けて計画している。

今回その第一弾として、令和元年度から令和3年度までの3か年で、 α 固体廃棄物Aを対象とした情報管理システム（以下「 α 固体廃棄物A管理システム」という。）を構築した。

本書は、構築した α 固体廃棄物A管理システムの機能について述べると共に、実際の廃棄物処理におけるシステムの運用（利用）についてまとめたものである。

2. α 固体廃棄物Aの受入れ、処理及び管理

2.1 放射性廃棄物の区分

大洗研究所 廃棄物管理施設における放射性廃棄物の管理では、廃棄物の性状、放射性物質の含有量及び容器表面の線量当量率を基準として、 α 固体廃棄物（A及びB）、 $\beta \cdot \gamma$ 固体廃棄物（A及びB）及び液体廃棄物（放出前廃液、A、B及びC）に区分している。Table 2.1 に放射性廃棄物の区分基準を Table 2.2 に放射性廃棄物の受入れ基準をそれぞれ示す。

α 固体廃棄物Aは、 α 放射性物質の含有量が 3.7×10^4 Bq/容器以上 3.7×10^7 Bq/容器未満であって、容器表面の線量当量率が $500 \mu\text{Sv/h}$ 未満の放射性廃棄物が該当する。主に、原子炉で照射した燃料や材料の照射後試験を行う施設（照射燃料試験施設（AGF）、照射燃料集合体試験施設（FMF）、燃料研究棟（PFRF）及び照射材料試験施設（MMF））及びそれらの施設から廃棄物を受け取り分別・解体・減容処理を行う施設（固体廃棄物前処理施設（WDF）及び廃棄物管理施設）から発生する。

2.2 α 固体廃棄物Aの受入れ、処理及び管理の方法

廃棄物発生施設より払い出された α 固体廃棄物Aは、廃棄物管理施設の受入れ施設である α 一時格納庫に搬入される。その後、処理施設にて減容処理又は詰替処理が行われ、廃棄容器である 200 L ドラム缶（オープンドラム及びコンクリート内張りドラム）*に封入されたのち、固体集積保管場で保管される。 α 固体廃棄物Aの受入れ、処理及び保管の系統を Fig. 2.1 に示す。

* 1999 年まではコンクリート内張りドラムを用いていたが、2000 年よりオープンドラムを用いている。

2.2.1 α 固体廃棄物Aの受入れ

廃棄物発生施設は、施設の維持管理又は研究開発によって発生した α 固体廃棄物Aについて、内容物、放射性物質、線量当量率等の廃棄物の性状を記した「 α 固体廃棄物A記録票」（Fig. 2.2、以下「廃棄物記録票」という。）を作成する。 α 固体廃棄物Aの払出しが行われる前に、廃棄物管理施設では廃棄物発生施設から廃棄物記録票を受け取り、容器・包装ごとの内容積当たりの放射性物質・プルトニウム・核分裂性物質の含有量、容器表面の線量当量率、封入容器等の記載事項が受入れ基準を満足することを確認する。

受入れ依頼が受理された α 固体廃棄物Aについては、廃棄物発生施設の所定の場所で、受入れ側による廃棄物個々の安全に係る確認及び運搬用コンテナ車への荷積みを行う（Fig. 2.3 (a)、(b)）。確認内容を Table 2.3 に示す。

廃棄物管理施設に運搬した廃棄物は、受入れ施設である α 一時格納庫（ α 固体廃棄物Aの場合）にて処理までの間一時保管する（Fig. 2.3 (c)、(d)）。

2.2.2 α 固体廃棄物Aの減容及び詰替処理

α 一時格納庫で一時保管している α 固体廃棄物Aは、次の方法により処理される。

可燃廃棄物は、 α 固体処理棟 (Fig. 2.3 (e)) の廃棄物分類用ボックス (Fig. 2.3 (f)) に搬入され、そこで可燃物と不燃物に分類される (可燃廃棄物は不燃性の PVC バックに梱包され更に可燃性のカートンボックスに梱包されているため)。可燃廃棄物及びカートンボックスは焼却装置 (Fig. 2.3 (g)) で焼却され、発生した焼却灰は灰出しボックス (Fig. 2.3 (h)) にて PVC バックに梱包される。焼却灰 PVC バックは、 α ホール設備で廃棄容器 (ドラム缶) に封入される。また、現在は行われていないが、過去には焼却灰をセメントで固型化し、固化した焼却灰を廃棄容器に装填した上でアスファルトを充填し保管体としていた。

不燃廃棄物は、 α 固体処理棟の α ホール設備に搬入され、 α ホール内の分類テーブルにて可燃物と不燃物に分類される (不燃廃棄物は可燃性のカートンボックスに梱包されているため、Fig. 2.3 (i))。不燃廃棄物は、圧縮装置 (Fig. 2.3 (j)) で減容されたのち廃棄容器 (200 L ドラム缶) に封入されるか、若しくは減容せず詰替処理としてそのまま封入される。なお、過去には可燃廃棄物と同様に、廃棄容器内に不燃廃棄物を装填した上でアスファルトを充填し保管体としていた。

廃棄物を封入した廃棄物パッケージは、固体集積保管場に運搬され保管管理される (Fig. 2.3 (k))。

2.3 旧計算コードについて

旧計算コードは、大型計算機 (旧計算コード導入初期 : FACOM M-380) をホストとして、大型計算機と接続された計算機システム上で動作する廃棄物処理用計算コードである。昭和 57 年に導入の検討がなされ、昭和 58 年から計算機システムの整備及び次に示す各種計算コードの構築が行われた。

- ・低レベル $\beta \cdot \gamma$ 固体廃棄物処理用計算コード
- ・高レベル $\beta \cdot \gamma$ 固体廃棄物処理用計算コード
- ・低レベル α 固体廃棄物処理用計算コード
- ・高レベル α 固体廃棄物処理用計算コード
- ・液体廃棄物処理用計算コード
- ・放射性廃棄物統括管理コード

低レベル α 固体廃棄物処理用計算コード (以下「 α -A 旧計算コード」という。) は、放射性廃棄物の性状及び受入れ情報、焼却、圧縮、詰替等の処理情報並びに廃棄容器の保管管理に関する情報を補完管理すると共に、廃棄物処理計画の立案、管理データの集計等を迅速、かつ適確に実施することを目的として、昭和 63 年に整備された。

3. α 固体廃棄物 A 管理システムの構築及び運用

3.1 システムの概要

α 固体廃棄物 A 管理システムは、大洗地区から発生する放射性廃棄物の受入れ、処理及び保管に関する情報を登録・管理するシステムとして、 α -A 旧計算コードの後継として整備したものである。システムに登録された管理データを用いて、記録帳票や各種集計表を出力する機能を有する。

システム構築環境として、システム本体は Visual Basic .Net、データベースは SQL Server により開発している。システムは、Windows OS を搭載したパーソナルコンピュータで動作する。

3.2 システムの構成

α 固体廃棄物 A 管理システムは、システム制御、データ管理、データ出力及びメンテナンスの 4 つの機能構成となっている。Table 3.1 に α 固体廃棄物 A 管理システムの機能構成を、Table 3.2 に画面一覧を、Fig. 3.1 に機能構成図をそれぞれ示す。

3.2.1 ログイン認証

α 固体廃棄物 A 管理システムは、 α 固体廃棄物 A に関する廃棄物情報、処理及び保管情報を一元管理するシステムであり、不正な操作及び予期せぬデータ改変を防止することは、データ品質を維持管理する上で特に重要である。そのため、システム利用者を制限するためのログイン認証機能を設けている。

ログイン認証機能は、システムに登録されたユーザ管理情報に基づいて利用者の認証確認を行う。認証確認に際しては、システムに登録されたユーザ ID 及びパスワード（長さ、煩雑さ、使用履歴及び有効期限に関するセキュリティーポリシーが設定されたもの）と照合する。ログイン認証が完了すると、「システムメニュー画面」（Fig. 3.2）が表示される。各機能のシステム制御は本画面から行う。

ログイン認証によって、システム利用者を制限すると共に、データ登録及び修正時の利用者を記録する。

3.2.2 データ管理

α 固体廃棄物 A 管理システムにおけるデータ管理は、管理情報一覧表示機能、廃棄物情報管理機能、処理情報管理機能及び履歴管理機能の 4 つのメイン機能で行われる。

(1) 管理情報一覧表示機能

管理情報一覧表示機能は、システムに登録された廃棄物情報及び処理情報を一覧で表示する。この一覧画面より、登録データの検索・閲覧、廃棄物情報及び処理情報に関する入力画面・修正画面への移行等の操作を行う。廃棄物情報、搬入・分類情報、焼却処理情報、焼却灰回収・保管情報、固化・装填処理情報、圧縮・装填処理情報及びパッケージ封入情報の 7

つの管理情報について、一覧画面を設定している。Fig. 3.3～Fig. 3.9に7つの管理情報に対する一覧画面を示す。

(2) 廃棄物情報管理機能

廃棄物情報管理機能は、廃棄物記録票を基に、廃棄物の性状等に関する情報の管理を行う。廃棄物情報の入力を行う「廃棄物情報入力画面」(Fig. 3.10)は、「廃棄物情報一覧画面」(Fig. 3.3)より呼び出される。「廃棄物情報入力画面」は様々な入力制御・入力規制機能を設けており (Table 3.3を参照)、受入れ基準に適合していない廃棄物の受入れ防止や廃棄物情報に不備のあるデータの入力防止に寄与する。Fig. 3.11に入力条件に適合しないデータ入力を行った場合のエラーメッセージの例を示す。

「廃棄物情報入力画面」では、廃棄物データの入力に加えて、電子ファイルを添付しシステム上で管理する機能を有している。これは、廃棄物発生施設との廃棄物受入れに関する事前相談の記録等、廃棄物情報と紐付けして管理しておくべき記録 (電子媒体情報) を、システム上で管理するものである。

システム上に登録が完了した廃棄物データの情報に不備があった場合に備えて、登録データの修正機能を有している。登録データの修正は、「廃棄物情報一覧画面」(Fig. 3.3)より、「廃棄物情報修正画面」(Fig. 3.12)を呼び出して行う。データの修正に際しては、データの修正に併せて修正理由の入力を必須としている (Fig. 3.13)。データ修正を行った日時、修正実施者及び修正理由をシステム上に記録することにより、不正な操作及び予期せぬデータ改変の防止を図っている。なお、登録データの修正機能は、次項の処理情報管理機能でも同様に設けている。

α 固体廃棄物Aは年間に数百個程度発生し、全ての廃棄物情報を廃棄物記録票から本システムに入力することは容易ではない。そこで、所定の文字配列で作成された CSV ファイルを読み込むことで、廃棄物情報の入力の手間を軽減する機能を有している。この機能は、「廃棄物情報一覧画面」(Fig. 3.3)の「取込」より行う。CSV ファイルの読み込みにおいても入力制御・入力規制機能を設けており、不備のあるデータの登録防止を図っている。所定の文字配列の CSV ファイルの作成は、廃棄物発生側で専用のシステムを設けており、現在は CSV ファイルの取込みによる運用を主として行っている。

(3) 処理情報管理機能

① 回収・受取情報管理機能

回収・受取情報管理機能は、廃棄物発生施設からの廃棄物の回収 (受取り) 状況に関する情報の管理を行う。廃棄物回収情報の入力を行う「回収・受取情報入力画面」(Fig. 3.14)は、「システムメニュー画面」(Fig. 3.2)より呼び出される。廃棄物発生施設より廃棄物を受け入れ、廃棄物管理施設の受入れ施設である α 一時格納庫に搬入したのち、システムに回収情報の登録を行う。

回収・受取情報管理機能においても、入力制御・入力規制機能 (Table 3.3) 及び登録データの修正機能を有している。

② 搬入・分類情報管理機能

搬入・分類情報管理機能は、 α 一時格納庫に保管されている放射性廃棄物を α 固体処理棟へ搬入し、 α 固体処理棟で行われる分類処理に関する情報の管理を行う。「搬入・分類情報入力画面」(Fig. 3.15) は、「搬入・分類情報一覧画面」(Fig. 3.4) より呼び出される。廃棄物を α 固体処理棟へ搬入し、可燃廃棄物と不燃廃棄物の分類処理を行ったのち、システムに搬入・分類情報の登録を行う。

搬入・分類情報管理機能においても、入力制御・入力規制機能 (Table 3.3) 及び登録データの修正機能を有している。

③ 焼却処理情報管理機能

焼却処理情報管理機能は、 α 固体処理棟で行われる可燃廃棄物の焼却処理に関する情報の管理を行う。「焼却処理情報入力画面」(Fig. 3.16) は、「焼却処理情報一覧画面」(Fig. 3.5) より呼び出される。 α 固体処理棟内の焼却装置において可燃廃棄物の焼却処理を行ったのち、システムに焼却処理情報の登録を行う。

焼却処理情報管理機能においても、入力制御・入力規制機能 (Table 3.3) 及び登録データの修正機能を有している。

④ 焼却灰回収・保管情報管理機能

焼却灰回収・保管情報管理機能は、焼却処理後の焼却灰の回収用バックへの回収及び保管に関する情報の管理を行う。「焼却灰回収・保管情報入力画面」(Fig. 3.17) は、「焼却灰回収・保管情報一覧画面」(Fig. 3.6) より呼び出される。 α 固体処理棟内の焼却装置において可燃廃棄物を焼却処理し、発生した焼却灰を灰出しより回収用バックへ回収したのち、システムに焼却灰回収・保管情報の登録を行う。

焼却灰回収・保管情報管理機能においても、入力制御・入力規制機能 (Table 3.3) 及び登録データの修正機能を有している。

⑤ 固化・装填処理情報管理機能

固化・装填処理情報管理機能は、焼却灰回収バックの廃棄容器 (ドラム缶) への装填及び固化処理に関する情報の管理を行う。「固化・装填処理情報入力画面」(Fig. 3.18) は、「固化・装填処理情報一覧画面」(Fig. 3.7) より呼び出される。焼却灰回収バックを廃棄容器に装填したのち、システムに焼却灰回収・装填情報の登録を行う。なお、現在は行われていないが、過去には廃棄容器内にセメントを注入して固化体としていた。この固化処理に関する処理情報についても、本機能より登録可能である。

固化・装填処理情報管理機能においても、入力制御・入力規制機能 (Table 3.3) 及び登録データの修正機能を有している。

⑥ 圧縮・装填処理情報管理機能

圧縮・装填処理情報管理機能は、不燃廃棄物の圧縮及び廃棄容器（ドラム缶）への装填に関する情報の管理を行う。「圧縮・装填処理情報入力画面」（Fig. 3.19）は、「圧縮・装填処理情報一覧画面」（Fig. 3.8）より呼び出される。不燃廃棄物を圧縮し廃棄容器に装填したのち若しくは圧縮処理をせず廃棄容器に詰替のみを行ったのち、システムに圧縮・装填情報の登録を行う。

圧縮・装填処理情報管理機能においても、入力制御・入力規制機能（Table 3.3）及び登録データの修正機能を有している。

⑦ パッケージ封入情報管理機能

パッケージ封入情報管理機能は、廃棄物を装填した廃棄容器（ドラム缶）の封入に関する情報の管理を行う。「パッケージ封入情報入力画面」（Fig. 3.20）は、「パッケージ封入情報一覧画面」（Fig. 3.9）より呼び出される。廃棄物を装填した廃棄容器の封入処理（廃棄容器に蓋をする操作）を行ったのち、システムにパッケージ封入情報の登録を行う。

パッケージ封入情報管理機能においても、入力制御・入力規制機能（Table 3.3）及び登録データの修正機能を有している。

⑧ パッケージ運搬情報管理機能

パッケージ（廃棄物を廃棄容器に封入したもの）の運搬に関する情報の管理を行う。「パッケージ運搬情報入力画面」（Fig. 3.21）は、「システムメニュー画面」（Fig. 3.2）より呼び出される。パッケージを固体集積保管場へ搬入又は固体集積保管場内でのパッケージの保管場所を移動したのち、システムにパッケージ運搬情報の登録を行う。

パッケージ運搬情報管理機能においても、入力制御・入力規制機能（Table 3.3）及び登録データの修正機能を有している。

(4) 履歴管理機能

登録データの変更に係る履歴を確認するための機能として、履歴管理機能を設けている。変更履歴を確認する「履歴比較画面」（Fig. 3.22）は、廃棄物情報及び処理情報の一覧画面、又は廃棄物情報及び処理情報の修正画面より呼び出される。本システムでは、データ変更が行われた際に履歴（レビジョン）として変更の情報が記録されており、「履歴比較画面」（Fig. 3.22）では過去の変更データ情報を比較して表示することができる。この履歴管理機能によって、どのデータが、いつ、誰によって、どういった理由で変更されたかをたどることができる。

(5) その他機能

① バックアップ機能

α 固体廃棄物A管理システムを搭載するハードウェアの故障等による登録データの予期せぬ消失を防ぐため、データベースのバックアップ機能を有している。このバックアッ

ブ機能を用いた定期的なバックアップの実施により、データ品質の維持及びデータ消失の防止が図られている。

② 管理者機能

システムの正常運用に影響を及ぼしかねない操作やデータベースの直接的なアクセスを防止するため、システム利用者の通常の操作範囲と異なる管理者機能を設けている。3.2.1 項に記した「ログイン認証」において、管理者として設定された者か否かで、システム内の操作範囲に制限がかけられる。

システム利用者は、廃棄物情報及び処理情報の登録、閲覧及び出力等、通常操作の範囲に限定されるが、システム管理者は、それらに加えてシステムのメンテナンスに関する操作も実行することができる。

また、ソフト的な対応として、利用者用の説明書と管理者用の説明書を別々に作成・運用しており、利用者が必要以上にシステムに関する情報を取得できないようシステム利用環境を整備している。

3.2.3 データ出力

(1) α 固体廃棄物 A 情報出力機能

α 固体廃棄物 A 情報出力機能は、システムに登録された廃棄物情報及び処理情報を基に、廃棄物の管理記録や処理記録等の帳票を出力する機能である。

帳票の出力は、「システムメニュー画面」(Fig. 3.2) の「帳票出力」より行う。

① 【α 固体廃棄物 A 記録票】 の入力確認表

「【α 固体廃棄物 A 記録票】 の入力確認表」(Fig. 3.23) は、登録した廃棄物情報を確認する際に使用する帳票である。「廃棄物情報入力画面」(Fig. 3.10) で入力したデータの確認時に出力する。

付録 2 に、「【α 固体廃棄物 A 記録票】 の入力確認表」で出力するデータの内部処理過程を示す。

② α 固体廃棄物 A 回収・受取票

「α 固体廃棄物 A 回収・受取票」(Fig. 3.24) は、α 固体廃棄物 A の受取り時の確認の際に使用する帳票である。発生施設から廃棄物を受け入れる前に出力する。

付録 2 に、「α 固体廃棄物 A 回収・受取票」で出力するデータの内部処理過程を示す。

③ α 固体廃棄物 A 受入記録一覧表

「α 固体廃棄物 A 受入記録一覧表」(Fig. 3.25) は、受入済廃棄物の廃棄物情報を XLSX ファイル形式の一覧データとして出力する帳票である。登録年月日、回収・受取年月日又は搬入年月日を起点として、帳票を出力する。

付録 2 に、「α 固体廃棄物 A 受入記録一覧表」で出力するデータの内部処理過程を示す。

④ α 固体廃棄物 A 分類記録一覧表

「α 固体廃棄物 A 分類記録一覧表」(Fig. 3.26) は、搬入・分類処理に関するデータを XLSX ファイル形式の一覧データとして出力する帳票である。廃棄物の搬入・分類処理後に出力する。

付録 2 に、「α 固体廃棄物 A 分類記録一覧表」で出力するデータの内部処理過程を示す。

⑤ α 固体廃棄物 A 焼却処理装置運転記録一覧表

「α 固体廃棄物 A 焼却処理装置運転記録一覧表」(Fig. 3.27) は、可燃廃棄物の焼却処理に関するデータを XLSX ファイル形式の一覧データとして出力する帳票である。廃棄物の焼却処理後に出力する。

付録 2 に、「α 固体廃棄物 A 焼却処理装置運転記録一覧表」で出力するデータの内部処理過程を示す。

⑥ α 固体廃棄物 A 焼却灰回収記録一覧表

「α 固体廃棄物 A 焼却灰回収記録一覧表」(Fig. 3.28) は、焼却灰の回収処理に関するデータを XLSX ファイル形式の一覧データとして出力する帳票である。焼却灰を回収用バッグ (PVC バッグ) へ回収後に出力する。

付録 2 に、「α 固体廃棄物 A 焼却灰回収記録一覧表」で出力するデータの内部処理過程を示す。

⑦ α 固体廃棄物 A (焼却灰) 固化・装填記録一覧表

「α 固体廃棄物 A (焼却灰) 固化・装填記録一覧表」(Fig. 3.29) は、焼却灰回収バッグ等のパッケージ装填及び固化処理に関するデータを XLSX ファイル形式の一覧データとして出力する帳票である。焼却灰回収バッグ等のパッケージ装填・固化後に出力する。

付録 2 に、「α 固体廃棄物 A (焼却灰) 固化・装填記録一覧表」で出力するデータの内部処理過程を示す。

⑧ α 固体廃棄物 A (不燃等) 圧縮・装填記録一覧表

「α 固体廃棄物 A (不燃等) 圧縮・装填記録一覧表」(Fig. 3.30) は、不燃等廃棄物 (不燃及びフィルタ) の圧縮処理及びパッケージ装填に関するデータを XLSX ファイル形式の一覧データとして出力する帳票である。不燃等廃棄物の圧縮・パッケージへの装填後に出力する。

付録 2 に、「α 固体廃棄物 A (不燃等) 圧縮・装填記録一覧表」で出力するデータの内部処理過程を示す。

⑨ α 固体廃棄物 A 管理台帳

「α 固体廃棄物 A 管理台帳」(Fig. 3.31) は、廃棄物の処理 (管理) 状況に関するデー

タを XLSX ファイル形式の一覧データとして出力する帳票である。任意のタイミングで出力する。

付録 2 に、「α 固体廃棄物 A 管理台帳」で出力するデータの内部処理過程を示す。

⑩ α 固体廃棄物 A 廃棄物パッケージ封入・保管記録

「α 固体廃棄物 A 廃棄物パッケージ封入・保管記録」(Fig. 3.32) は、廃棄物の封入・保管状況に関するデータを XLSX ファイル形式の一覧データとして出力する帳票である。任意のタイミングで出力する。

付録 2 に、「α 固体廃棄物 A 廃棄物パッケージ封入・保管記録」で出力するデータの内部処理過程を示す。

⑪ α 固体廃棄物 A 在庫表〔作業エリア〕

「α 固体廃棄物 A 在庫表〔作業エリア〕」(Fig. 3.33) は、廃棄物の処理工程ごとの保管(管理)状況に関するデータを確認する際に使用する帳票である。任意のタイミングで出力する。

付録 2 に、「α 固体廃棄物 A 在庫表〔作業エリア〕」で出力するデータの内部処理過程を示す。

⑫ α 固体廃棄物 A 処理記録〔処理装置別〕

「α 固体廃棄物 A 処理記録〔処理装置別〕」(Fig. 3.34) は、廃棄物の処理装置別の処理状況に関するデータを確認する際に使用する帳票である。任意のタイミングで出力する。

付録 2 に、「α 固体廃棄物 A 処理記録〔処理装置別〕」で出力するデータの内部処理過程を示す。

⑬ α 固体廃棄物 A 搬入・処理記録

「α 固体廃棄物 A 搬入記録」(Fig. 3.35) 及び「α 固体廃棄物 A 処理記録」(Fig. 3.36) は、廃棄物の搬入量・処理量を四半期集計及び年度集計として確認する際に使用する帳票である。α 固体廃棄物 A の搬入量及び処理量の四半期報告時及び年度報告時に出力する。

付録 2 に、「α 固体廃棄物 A 搬入・処理記録」で出力するデータの内部処理過程を示す。

⑭ α 固体廃棄物 A 廃棄物パッケージ記録

「α 固体廃棄物 A 廃棄物パッケージ記録」(Fig. 3.37) は、廃棄物パッケージの情報を記録保管する際に使用する帳票である。紙媒体の記録として保管時に出力する。

「α 固体廃棄物 A 廃棄物パッケージ記録一覧表」(Fig. 3.38) は、廃棄物パッケージの情報を XLSX ファイル形式の一覧データとして出力する帳票である。任意のタイミングで出力する。

付録 2 に、「α 固体廃棄物 A 廃棄物パッケージ記録」で出力するデータの内部処理過程を示す。

3.2.4 メンテナンス

「3.2.2 データ管理」で記した廃棄物情報及び処理情報の登録において、本システムではデータ入力の正確性と効率性の観点から、事業者、担当者、主要内容物等の一部の管理情報については、対応コードを割当てたコード入力により行っている。

メンテナンス機能では、本システムで使用するコードデータ並びにユーザ情報の追加・修正・削除に関する操作を行う。

コード修正のメンテナンスは、「システムメニュー画面」(Fig. 3.2)の「メンテナンス」より行う。Fig. 3.39にメンテナンス機能画面とコード修正例を示す。

3.3 データベース仕様

α 固体廃棄物A管理システムでは、廃棄物情報及び処理情報を管理するため、8個のメインテーブルと14個のコード用テーブルでデータベースを構成している。Table 3.4及びTable 3.5にデータベースの仕様を、Table 3.6にデータ入力とデータベース(テーブル)の関係を示す。

3.4 システムの運用及びその利点

令和元年度から令和3年度までの3か年で構築した α 固体廃棄物A管理システムは、システムの基本機能の構築及び操作が可能となった令和3年3月より試運用を開始し、全ての機能整備が完了した令和3年12月より本格運用を行っている。

本システムの運用によって以下の成果(運用による利点)が挙げられる。

- ① α -A旧計算コードの運用停止以降、廃棄物パッケージ記録や廃棄物の搬入・処理量の集計に係る記録は、Word、Excel等によるオフィスソフトを用いて手作業で集計しており、手間を要していた。本システムの運用により、これら記録を自動作成することができ、集計及び記録作成の手間が大幅に削減された。
- ② α -A旧計算コードが運用されていた当時は、廃棄物発生施設から提出された廃棄物記録票(紙媒体の記録)を基に、廃棄物管理施設の要員が手入力で α -A旧計算コードにデータ登録を行っていた。一方、本システムにおいては、CSVファイルの読み込み機能の搭載により(3.2.2項(2))、廃棄物発生側から提出されたCSVファイルから廃棄物情報を自動で取り込むことができ、要員が手入力する手間がなくなり利便性が向上した(付録3を参照)。
- ③ 上記②のほか、本システムで新たに追加された機能として、ログイン認証機能及び履歴管理機能がある。これら機能により、本システムを操作できる要員が制限され、登録データの変更履歴が全て記録されるようになった。これは、予期せぬデータ改変を防止し、管理データ品質の維持・向上に寄与する。

以上、今回構築した α 固体廃棄物A管理システムは、 α -A旧計算コードの設計思想を受け継ぎつつ、データ品質及び利便性の向上のための様々な追加機能が搭載されている。今後においても、 α 固体廃棄物Aの情報管理はこのシステムを基本として行い、要求事項の変更に伴う改修や利便性向上のための改善を行い、本システムの継続的な運用を図っていく予定である。

4. 結論

廃棄物の性状並びに処理及び保管に関する情報を管理するためのシステム整備を廃棄物区分ごとに計画している。今回その第一弾として、令和元年度から令和3年度までの3か年で、 α 固体廃棄物A管理システムを構築した。

α 固体廃棄物A管理システムは、 α -A旧計算コードの設計思想を受け継ぎつつ、データ品質及び利便性の向上のための様々な追加機能を搭載し、今後の機能拡張の可能性を踏まえた設計・製作を行っている。

α 固体廃棄物A管理システムを運用することで、廃棄物の受入れから処理及び保管に関する情報を一括管理することができ、これら管理情報のデータ品質の維持・向上が期待できる。

今後の計画として、 β ・ γ 固体廃棄物A及びB並びに α 固体廃棄物Bを対象とした情報管理システムを構築する予定である。

今回構築した α 固体廃棄物A管理システムは、廃棄物発生施設より受け入れた α 固体廃棄物Aを減容・詰替処理して固体集積保管場で保管管理するまでの範囲を対象としている。一方、現在保管している放射性廃棄物（廃棄体）を埋設処分するには、廃棄体が埋設処分を行う上での技術情報の基準に適合することを証明する必要があり、今後廃棄体の性能に係る情報を調査・収集する計画である。今後の展望として、埋設処分に向けて収集した廃棄体性能に係る情報の管理を本システムに統合させ、廃棄物の発生から埋設処分に至るまでの一連の工程を統合的に管理するシステムへと拡張していくことを目指している。

謝辞

本システムを構築するに当たり、 α -A旧計算コードの仕様調査及び過去の廃棄物処理情報の調査でご協力頂いた原子力施設検査室の尾曾智重氏及び核燃料サイクル工学研究所保安管理部危機管理課の根本俊行氏に謝意を表す。

また、実際のシステム構築において、利用者視点での様々なシステム仕様のご提案と高品質なシステム構築を頂いた株式会社 NESI にこの場で謝意を表す。

Table 2.1 放射性廃棄物の区分基準

区分	β・γ		α	
	容器表面の線量当量率	容器*1当たりの放射性物質の含有量 β・γ 放射性物質*2	容器表面の線量当量率	容器*1当たりの放射性物質の含有量 β・γ 放射性物質*2
固体廃棄物	A	2 mSv/h 未満	500 μ Sv/h 未満	3.7×10 ⁴ Bq/容器 以上 3.7×10 ⁷ Bq/容器 未満
	B	2 mSv/h 以上	500 μ Sv/h 以上	3.7×10 ¹³ Bq/容器 未満 3.7×10 ⁷ Bq/容器 以上 3.7×10 ¹² Bq/容器 未満
備考	容器表面の線量当量率と容器*1 当たりの放射性物質の含有量については、いずれか上位の区分になる基準を適用する。 プルトニウムについては、1 g/容器*1 未満、核分裂性物質*4 については、4 g/容器*1 未満とする。			
液体廃棄物	適用基準	トリチウム以外のβ・γ放射性物質*2の水中濃度	トリチウムの水中濃度	α 放射性物質*3の水中濃度
	放出前廃液	3.7×10 ⁻¹ Bq/cm ³ 未満	3.7×10 ³ Bq/cm ³ 未満	1.0×10 ⁻² Bq/cm ³ 未満
	A	3.7×10 ¹ Bq/cm ³ 未満*5		
	B	3.7×10 ¹ Bq/cm ³ 以上 3.7×10 ⁴ Bq/cm ³ 未満		
C	_____	3.7×10 ³ Bq/cm ³ 以上 3.7×10 ⁵ Bq/cm ³ 未満		
備考	トリチウムとトリチウム以外のβ・γ 放射性物質が混在する場合は、上位の区分になる基準を適用する。			

*1：容器の基準容積；20 L。

*2：*3に示す以外の放射性物質。

*3：超ウラン元素であって、アルファ線を放出する放射性物質。

*4：「核燃料物質等の工場又は事業所の外における運搬に関する規則」の第4条第9号の核分裂性物質で、ウラン233、ウラン235、プルトニウム239及びプルトニウム241をいう。

*5：主な放射性物質が短半減期であって、100時間以内にその濃度が3.7×10¹ Bq/cm³ 未満になることが明らかなものを含む。

Table 2.2 放射性廃棄物の受入れ基準 (1/3)

区分	容器種類	容器容積 (L)	放射性物質の量 (Bq)			プルトニウム量 (g)	核分裂性物質質量 (g)	容器表面の線量当量率 (mSv/h)
			$\beta \cdot \gamma$	α^{*1}	^{60}Co 換算			
β \cdot γ 固 体 廃 棄 物	紙バケツ	18.4	3.4×10^{13} 未満	3.4×10^4 未満	—	—	—	2 未満
	ペーパー缶	20.9	3.7×10^{13} 未満	3.7×10^4 未満	—	—	—	
	不定形 (フィルタ)	18.6*2	3.4×10^{13} 未満	3.4×10^4 未満	—	—	—	
	不定形 (フィルタ)	6.1*2	1.1×10^{13} 未満	1.1×10^4 未満	—	—	—	
	不定形 (フィルタ)	27.1*2						
	不定形 (フィルタ)	108.6*2						
	不定形 (フィルタ)	135.7*2						
	50 L ドラム缶	51.5	3.7×10^{13} 未満	3.7×10^4 未満	—	—	—	
	100 L ドラム缶	103.0						
	200 L ドラム缶	207.9						
	角型鋼製容器	1,000.0						
	B	A 型キヤン	12.5	2.3×10^{13} 未満	2.3×10^4 未満	—	—	
R 型キヤン		14.6	2.7×10^{13} 未満	2.7×10^4 未満	—	—	—	
C 型キヤン		10.9	2.0×10^{13} 未満	2.0×10^4 未満	—	—	—	

*1：超ウラン元素であって、アルファ線を放出する放射性物質の量。

*2：容器と仮定した場合の容積。

Table 2.2 放射性廃棄物の受入れ基準 (2/3)

区分	容器種類	容器容積 (L)	放射性物質の量 (Bq)			プルトニウム量 (g)	核分裂性物質 (g)	容器表面の線量当 量率 (mSv/h)	
			$\beta \cdot \gamma$	α^{*1}	^{60}Co 換算				
α 固体 廃棄物	紙バケツ	18.4	3.4×10^{13} 未満	3.4×10^4 以上 3.4×10^7 未満	—	0.9 未満	3.6 未満	0.5 未満	
			3.7×10^{13} 未満	3.7×10^4 以上 3.7×10^7 未満	—				1.0 未満
	不定形 (フィルタ)	18.6 ^{*2}	3.4×10^{13} 未満	3.4×10^4 以上 3.4×10^7 未満	—	0.9 未満	3.7 未満		
			1.1×10^{13} 未満	1.1×10^4 以上 1.1×10^7 未満	—				0.3 未満
	不定形 (フィルタ)	27.1 ^{*2}	3.7×10^{13} 未満	3.7×10^4 以上 3.7×10^7 未満	—	1.0 未満	4.0 未満		
				108.6 ^{*2}	—				—
	100 L ドラム缶	70.8	—	—	—	—	—		
	B ^{*3}	S 型	30.5	5.6×10^{13} 未満	5.6×10^7 以上 5.6×10^{12} 未満	1.1×10^{13} 未満	4.0 未満		0.5 以上
		L 型	112.2	2.0×10^{14} 未満	2.0×10^8 以上 2.0×10^{13} 未満	2.2×10^{12} 未満	4.0 未満		
				3.5×10^{13} 未満	3.5×10^7 以上 3.5×10^{12} 未満	1.4×10^{12} 未満	3.8 未満		

*1：超ウラン元素であって、アルファ線を放出する放射性物質の量。

*2：容器と仮定した場合の容積。

*3：表面の線量当量率と放射性物質の量については、いずれか上位の区分になる基準を採用する。

Table 2.2 放射性廃棄物の受入れ基準 (3/3)

区分	トリチウム以外の $\beta \cdot \gamma$ 放射性物質の水中濃度 (Bq/cm ³)	トリチウムの水中濃度 (Bq/cm ³)	α 放射性物質*1の水中濃度 (Bq/cm ³)
液体廃棄物	放出前廃液	3.7×10 ¹ 未満	1×10 ⁻² 未満
	液体廃棄物 A	3.7×10 ¹ 未満*2	
	液体廃棄物 B	3.7×10 ¹ 以上 3.7×10 ⁴ 未満	
	液体廃棄物 C	—	
備考	トリチウムとトリチウム以外の $\beta \cdot \gamma$ 固体廃棄物が混在する場合は、上位の区分になる基準を適用する。		

*1：超ウラン元素であって、アルファ線を放出する放射性物質。

*2：主な放射性物質が短半減期であって、100 時間以内にその濃度が 3.7×10¹ Bq/cm³ 未満になることが明らかなものを含む。

Table 2.3 α 固体廃棄物 A 受入れ時の確認事項（固体廃棄物）

確認事項
<p>(1) 所定の容器等に封入又は梱包されていること。</p> <p>(2) 容器又は包装の密封性及び健全性に異常がなく、爆発その他有害な化学反応を起こさないよう取扱上の注意を要する容器には注意票の添付等の措置が講じられていること。</p> <p>(3) 依頼元から交付される放射性廃棄物に関する記録と一致するものであり「表 放射性廃棄物の区分基準」(Table 2.1) に掲げる基準に従って区分され、放射能濃度等に係る区分上限値を満足していること。</p> <p>(4) 放射性廃棄物は、(3) に規定する記録に記載された事項と照合できる整理番号及び「表 放射性廃棄物の表示 (固体廃棄物)」(Table 2.4) に掲げる事項が容器等に表示されていること。</p> <p>(5) 線量当量率等に異常がないこと。</p> <p>(6) 外観等に異常がないこと。</p> <p>(7) 発火性・爆発性物質等使用履歴の有無を確認し、有りの場合は、安定化処理の方法等を記載した「発火性物質を含む放射性廃棄物の安定化処理記録票」が添付されていること。</p>

Table 2.4 放射性廃棄物の表示（固体廃棄物）

表示項目
イ 分類及び区分
ロ 主な核種
ハ 推定放射性物質の量
ニ 容器表面の線量当量率
ホ 表面密度
へ 主要内容物
ト 取扱い者名
チ 発生場所
リ 封入年月日
ヌ 発火性・爆発性物質等使用履歴の有無
ル その他必要な事項

Table 3.1 α 固体廃棄物A管理システムの機能構成 (1/2)

No.	機能名		機能概要
	システム制御	ログイン認証機能	
1	システム制御	ログイン認証機能 システムメニュー機能	ユーザ管理情報に基づきログイン認証を行い、システムメニュー画面を表示する。 ログイン認証後に表示される本システムのメニュー画面であり、各機能のシステム制御を行う。
2	データ管理	管理情報一覧表示機能 廃棄物情報管理機能 回収・受取情報管理機能 搬入・分類情報管理機能 焼却処理情報管理機能 焼却灰回収・保管情報管理機能 固化・装填処理情報管理機能 圧縮・装填処理情報管理機能	システムに登録された廃棄物情報及び処理情報を一覧で表示する。この画面より、登録データの検索・閲覧、廃棄物情報及び処理情報に関する入力画面・修正画面への移行等の操作を行う。 廃棄物記録票を基に入力された、廃棄物の性状等に関する情報の管理を行う。 データ入力は、発生施設から廃棄物を受け入れる前に行う。 発生施設からの廃棄物の回収（受取り）状況に関する情報の管理を行う。 データ入力は、廃棄物の受取り後に行う。 廃棄物の α 固体処理棟への搬入及び廃棄物の分類に関する情報の管理を行う。 データ入力は、廃棄物の α 固体処理棟への搬入・分類後に行う。 可燃廃棄物の焼却処理に関する情報の管理を行う。 データ入力は、廃棄物の焼却処理後に行う。 焼却灰の回収用バックへの回収及び保管に関する情報の管理を行う。 データ入力は、焼却灰の回収用バックへの回収後に行う。 可燃廃棄物の固化及び廃棄容器（ドラム缶）装填に関する情報の管理を行う。 データ入力は、焼却灰回収バックの廃棄容器への装填後に行う。 不燃廃棄物の圧縮及び廃棄容器（ドラム缶）装填に関する情報の管理を行う。 データ入力は、圧縮処理後又は詰替処理として廃棄容器に装填後に行う。

Table 3.1 α 固体廃棄物A管理システムの機能構成 (2/2)

No.	機能名		機能概要
	データ管理	パッケージ封入情報管理機能	
2 (続き)		パッケージ封入情報管理機能	廃棄容器（ドラム缶）の封入情報の管理を行う。 データ入力は、廃棄物を装填した廃棄容器の封入後（廃棄容器に蓋をする操作）に行う。
		パッケージ運搬情報管理機能	廃棄容器（ドラム缶）の運搬情報の管理を行う。 データ入力は、パッケージ（廃棄物を廃棄容器に封入したもの）の運搬後に行う。
		履歴管理機能	廃棄物情報管理機能、搬入・分類情報管理機能、焼却処理情報管理機能、焼却灰回収・保管情報管理機能、固化・装填処理情報管理機能、圧縮・装填処理情報管理機能及びびパッケージ封入情報管理機能にて管理するデータの履歴比較を行う。また、表示した履歴データの出力を行う。
3	データ出力	α 固体廃棄物A情報出力機能	工程前後の確認用・記録用の帳票、廃棄物情報の保管状況確認用の帳票及びび四半期・年度ごとの集計表の出力を行う。
4	メンテナンス	メンテナンス機能	本システムで利用する固定値等のコードデータの管理を行う。

Table 3.2 α 固体廃棄物A管理システムの画面一覧

No.	機能名	機能概要
1	システム制御	ログイン認証画面 (パスワード情報編集画面含む)
	データ管理	システムメニュー画面 管理情報一覧画面 廃棄物情報管理機能 回収・受取情報管理機能 搬入・分類情報管理機能 焼却処理情報管理機能 焼却灰回収・保管情報管理機能 固化・装填処理情報管理機能 圧縮・装填処理情報管理機能 パッケージ封入情報管理機能 パッケージ運搬情報管理機能 履歴管理機能
3	データ出力	α 固体廃棄物A情報出力画面
4	メンテナンス	メンテナンス画面

Table 3.3 主要な入力制限・入力規制リスト (1/6)

入力画面 (記号)	No.	項目名	入力方法 (cmb:コンボボックス) (chk:チェックボックス)	文字数	入力必須	主要な入力制御・入力規制 (数値条件は数式を満たさないエラー)	備考
IN-01	1	事業体	選択_cmb	1	○		
IN-01	2	JobNo.	選択_cmb	3	○	・ JobNo.&TagNo.がDBに登録済でないか	JobNo.は3桁固定入力
IN-01	3	TagNo.	入力_文字列	6	○	・ JobNo.&TagNo.がDBに登録済でないか	TagNo.は6桁固定入力
IN-01	4	区分	選択_cmb	1	○		
IN-01	5	内容物コード_1~6	選択_cmb	2	1組以上	・ コードと率の両方が入力されているか (不燃及びフィルタが対象)	
IN-01	6	内容物率_1~6	入力_数値	-	1組以上	・ 合計が100%となるか (不燃及びフィルタが対象)	可燃は焼却処理するので入力不要
IN-01	7	その他	入力_文字列	30	-		
IN-01	8	$\beta \cdot \gamma$ 核種コード_1~5	選択_cmb	2	1組以上	・ コードと量の両方が入力されているか	
IN-01	9	$\beta \cdot \gamma$ 核種量_1~5	入力_数値	-	1組以上	・ 各量の合算が全量より10%以上の差がないか	
IN-01	10	$\beta \cdot \gamma$ 核種量以下_1~5	選択_chk	-	-	・ チェックした場合、コード&量も入力されているか	
IN-01	11	$\beta \cdot \gamma$ 核種全量	入力_数値	-	○	・ 容器容量(管理値用)が20 L以上の場合は、 $\beta \cdot \gamma$ 全量 $< 3.7 \times 10^{13}$ ・ 容器容量(管理値用)が20 L未満の場合は、 $\beta \cdot \gamma$ 全量 $< (3.7 \times 10^{13} \times \text{管理値用}/20)^*$	*有効数字2桁とし、3桁目を切り捨て 例. 01_カートンボックス (管理値用18.4L) 全量 $< (3.7 \times 10^{13} \times 18.4/20) = 3.4 \times 10^{13}$
IN-01	12	$\beta \cdot \gamma$ 核種全量以下	選択_chk	-	-		
IN-01	13	α 核種コード_1~5	選択_cmb	2	1組以上	・ コードと量の両方が入力されているか	
IN-01	14	α 核種量_1~5	入力_数値	-	1組以上	・ 各量の合算が全量より10%以上の差がないか	
IN-01	15	α 核種量以下_1~5	選択_chk	-	-	・ チェックした場合、コード&量も入力されているか	
IN-01	16	α 核種全量	入力_数値	-	○	・ 容器容量(管理値用)が20 L以上の場合は、 $3.7 \times 10^4 \leq \alpha$ 全量 $< 3.7 \times 10^7$ ・ 容器容量(管理値用)が20 L未満の場合は、 $(3.7 \times 10^4 \times \text{管理値用}/20)^* \leq \alpha$ 全量 $< (3.7 \times 10^7 \times \text{管理値用}/20)^*$	*有効数字2桁とし、3桁目を切り捨て 例. 01_カートンボックス (管理値用18.4L) (3.4×10^4) \leq 全量 $< (3.4 \times 10^7)$
IN-01	17	α 核種全量以下	選択_chk	-	-		
IN-01	18	評価方法	選択_cmb	-	○		
IN-01	19	別紙参照	選択_chk	-	-		
IN-01	20	線量当量率(表面)	入力_数値	-	○	・ 線量当量率_表面 $\leq 500 \mu\text{Sv/h}$ となっているか	
IN-01	21	線量当量率(表面)以下	選択_chk	-	-		
IN-01	22	線量当量率(1m位置)	入力_数値	-	○	・ 線量当量率_1m位置 $\leq 100 \mu\text{Sv/h}$ となっているか	
IN-01	23	線量当量率(1m位置)以下	選択_chk	-	-		
IN-01	24	容器・梱包	選択_cmb	2	○		
IN-01	25	重量	入力_文字列	4	○	・ 容器・梱包が01_カートンボックスの場合、重量 $\leq 5 \text{ kg}$ ・ 容器・梱包が06_20 Lベール缶の場合、重量 $\leq 10 \text{ kg}$	これ以外の容器・梱包はチェックしない

Table 3.3 主要な入力制限・入力規制リスト (2/6)

入力画面 (記号)	No.	項目名	入力方法 (cmb:コンボボックス) (chk:チェックボックス)	文字数	入力必須	主要な入力制御・入力規制 (数値条件は数式を満たさないとエラー)	備考
IN-01	26	容器容量(管理値用)	入力_数値	-	○	・ 容器・梱包が01_カートンボックスの場合、容量 = 18.4 (完全一致) ・ 容器・梱包が05_100Lドラム缶の場合、容量 = 70.8 (完全一致) ・ 容器・梱包が06_20Lペール缶の場合、容量 = 20.9 (完全一致)	これ以外の容器・梱包はチェックしない
IN-01	27	容器容量(集計用)	入力_数値	-	○	・ 容器・梱包が01_カートンボックスの場合、容量 = 20 (完全一致) ・ 容器・梱包が05_100Lドラム缶の場合、容量 = 100 (完全一致) ・ 容器・梱包が06_20Lペール缶の場合、容量 = 20 (完全一致)	これ以外の容器・梱包はチェックしない
IN-01	28	封入年月日	入力_数値	-	○	・ 封入年月日 ≦ 登録年月日となっているか	
IN-01	29	$\alpha < 0.04\text{Bq/cm}^2$	選択_chk	-	○		
IN-01	30	$\beta (\gamma) < 0.4\text{Bq/cm}^2$	選択_chk	-	○		
IN-01	31	PVCバッグに密封	選択_chk	-	○		
IN-01	32	密封性・健全性 - 良	選択_chk	-	○		
IN-01	33	注意票の有無	選択_chk	-	○		
IN-01	34	安定化処理の有無	選択_chk	-	○		
IN-01	35	金属混入の有無	選択_chk	-	○		
IN-01	36	国際規制物資の有無	選択_chk	-	○		国際規制物資「有」の場合は、 α 固体廃棄物Bとして払出し
IN-01	37	グルトニウム重量	入力_文字列	4	○		
IN-01	38	核分裂性物質重量	入力_文字列	4	○		
IN-01	39	備考	入力_文字列	100	-		
IN-01	40	登録年月日	入力_数値	-	○	・ システム日付1か月前の翌日 ≦ 登録年月日 ≦ システム日付の範囲に収まっているか ・ 登録年月日 ≦ 回収・受取年月日となっているか	
IN-02		JobNo.	入力_文字列	3	○	・ JobNo.がDBにて照合可能か	JobNo.は3桁固定入力
IN-02	1	回収・受取年月日	入力_数値	-	○	・ 回収・受取年月日 ≧ 受付年月日となっているか	
IN-02	2	回収・受取担当者	選択_cmb	4	○		
IN-02	3	場所	入力_文字列	2	登録箇所*	・ 1A, 1B, 1C, BA, BB, BCのいずれかになっているか ・ DBに登録済でないか ・ 先頭1文字がS, H以外の文字になっていないか ・ 搬入年月日 ≧ 回収・受取年月日となっているか	* 場所が入力されたTagNo.だけ登録 BatchNo.は6桁固定入力 S: 可燃、H: 不燃又はフィルタを表す
IN-03	1	BatchNo.	入力_文字列	6	○		
IN-03	2	搬入年月日	入力_数値	-	○		
IN-03	3	搬入担当者	選択_cmb	4	○		
IN-03	4	分類年月日	入力_数値	-	○	・ 分類年月日 ≧ 搬入年月日となっているか	
IN-03	5	分類担当者	選択_cmb	4	○		
IN-03	6	Tag個数	入力_数値	-	○	・ Tag個数とLot個数(LS)-(LZ)の合計が一致するか	

Table 3.3 主要な入力制限・入力規制リスト (3/6)

入力画面 (記号)	No.	項目名	入力方法 (cmb:コンボボックス) (chk:チェックボックス)	文字数	入力必須	主要な入力制御・入力規制 (数値条件は数式を満たさないとエラー)	備考
IN-03	7	LotNo_(LS)~(LZ) & Lot個数(LS)~(LZ)	入力_文字列 & 入力_数値	7 & (-)	1組以上	<ul style="list-style-type: none"> LotNo.&Lot個数がDBに登録済でないか 先頭2文字が項目名の識別子と一致しているか 	LotNo.は7桁固定入力 LS:可燃、LP:不燃又はファイルを表す
IN-03	8	JobNo.	入力_文字列	3	○	<ul style="list-style-type: none"> JobNo.&TagNo.の回収・受取年月日が登録済であるか JobNo.&TagNo.の区分がBatchNo.及びLotNo.の識別子が示す区分と同一か 	JobNo.は3桁固定入力
IN-03	9	TagNo.	入力_文字列	6	○	<ul style="list-style-type: none"> JobNo.&TagNo.の回収・受取年月日が登録済であるか JobNo.&TagNo.の区分がBatchNo.及びLotNo.の識別子が示す区分と同一か 	TagNo.は6桁固定入力
IN-03	10	備考	入力_文字列	100	-		
IN-04	1	RunNo.	入力_文字列	8	○	DBに登録済でないか	RunNo.は8桁固定入力
IN-04	2	焼却年月日	入力_数値	-	○	焼却年月日≧分類年月日となっているか	
IN-04	3	焼却担当者	選択_cmb	4	○		
IN-04	4	装置運転時間	入力_数値	-	○		
IN-04	5	焼却処理時間	入力_数値	-	○		
IN-04	6	LPG量	入力_数値	-	○		
IN-04	7	LotNo._1~10 & Lot処理個数_1~10	入力_文字列 & 入力_数値	7 & (-) & (-)	1組以上	<ul style="list-style-type: none"> LotNo.がDBにて照合可能か 当該LotNo.の処理個数が0か、DB上の個数(全数)より多くなっていないか 可燃(LS)以外のLotNo.が入力されていないか 	LotNo.は7桁固定入力
IN-04	8	備考	入力_文字列	100	-		
IN-05	1	BagNo.及びその量 (BagNo. & Bag重量)	入力_文字列 & 入力_数値	7 & (-)	○	<ul style="list-style-type: none"> BagNo.&Bag重量がDBに登録済でないか 先頭2文字がBG以外の文字になっていないか 	BagNo.は7桁固定入力
IN-05	2	回収年月日	入力_数値	-	○	回収年月日≧焼却年月日となっているか	
IN-05	3	回収担当者	選択_cmb	4	○		
IN-05	4	保管年月日	入力_数値	-	○	保管年月日≧回収年月日となっているか	
IN-05	5	保管担当者	選択_cmb	4	○		
IN-05	6	線量当量率	入力_数値	-	○		
IN-05	7	性状	選択_cmb	2	○		
IN-05	8	発生場所	選択_cmb	2	○		
IN-05	9	RunNo._1~30	入力_文字列	8	1組以上	<ul style="list-style-type: none"> DBにて照合可能か 既にほかのBagNo.で使用済となっているか 	RunNo.は8桁固定入力
IN-05	10	備考	入力_文字列	100			

Table 3.3 主要な入力制限・入力規制リスト (4/6)

入力画面 (記号)	No.	項目名	入力方法 (cmb:コンボボックス) (chk:チェックボックス)	文字数	入力必須	主要な入力制御・入力規制 (数値条件は数式を満たさないとエラー)	備考
IN-06	1	パッケージNo.	入力_文字列	8	○	・5桁目は1-9, O, X, Zのいずれかになっているか ・パッケージNo.&固化容器No.がDBに登録済でないか ・パッケージNo.の先頭2文字がAS以外の文字になっていないか	パッケージNo.は8桁固定入力 5桁目は月を表す
IN-06	2	固化容器No.	入力_文字列	6	○		固化容器No.は6桁固定入力
IN-06	3	装填年月日	入力_数値	-	○	・装填年月日≧回収年月日となっているか	
IN-06	4	装填担当者	選択_cmb	4	○		
IN-06	5	固化年月日	入力_数値	-	○	・固化年月日≧回収年月日となっているか	
IN-06	6	固化担当者	選択_cmb	4	○		
IN-06	7	浄水	入力_数値	-	*		* 固化年月日を入力した場合必須
IN-06	8	ドレン水	入力_数値	-	*		* 固化年月日を入力した場合必須
IN-06	9	セメント	入力_数値	-	*		* 固化年月日を入力した場合必須
IN-06	10	容器種類	選択_cmb	2	-		
IN-06	11	固化概要	選択_cmb	2	-		
IN-06	12	容器(ドラム缶)No.	入力_文字列	8	○		容器(ドラム缶)No.は8桁固定入力
IN-06	13	内容器No.	入力_文字列	8	○		内容器No.は8桁固定入力
IN-06	14	BagNo.及びその量 (BagNo. & Bag重量)	入力_文字列 & 入力_数値	7 & (-) 1組以上		・BagNo.がDBにて照合可能か ・当該BagNo.の重量がDB上の重量(全重量)よりも大きくなっていないか	BagNo.は7桁固定入力
IN-06	15	備考	入力_文字列	100	-		
IN-07	1	パッケージNo.	入力_文字列	8	○	・5桁目は1-9, O, X, Zのいずれかになっているか ・パッケージNo.がDBに登録済でないか ・パッケージNo.の先頭2文字がAP以外の文字になっていないか	パッケージNo.は8桁固定入力 5桁目は月を表す
IN-07	2	装填年月日	入力_数値	-	○	・装填年月日≧分類年月日となっている場合) 装填年月日≧圧縮年月日となっているか ・(圧縮年月日が入力されている場合) 装填年月日≧圧縮年月日となっているか	
IN-07	3	装填担当者	選択_cmb	4	○		
IN-07	4	圧縮年月日	入力_数値	-	*	・圧縮LotNo.及び処理個数の入力に併せて圧縮年月日も入力されているか ・圧縮年月日≧分類年月日となっているか	* 圧縮LotNo.及び処理個数を入力した場合必須
IN-07	5	圧縮担当者	選択_cmb	4	*		* 圧縮LotNo.及び処理個数を入力した場合必須
IN-07	6	容器種類	選択_cmb	2	-		
IN-07	7	固化概要	選択_cmb	2	-		
IN-07	8	容器(ドラム缶)No.	入力_文字列	8	○		容器(ドラム缶)No.は8桁固定入力
IN-07	9	内容器No.	入力_文字列	8	○		内容器No.は8桁固定入力

Table 3.3 主要な入力制限・入力規制リスト (5/6)

入力画面 (記号)	No.	項目名	入力方法 (cmb:コンボボックス) (chk:チェックボックス)	文字数	入力必須	主要な入力制御・入力規制 (数値条件は数式を満たさないエラー)	備考
IN-07	10	圧縮LotNo._1~5 & 圧縮Lot処理個数_1~5	入力_文字列 & 入力_数値	7 & (-)	*	<ul style="list-style-type: none"> ・ 圧縮LotNo.又は装填LotNo.のいずれかが入力されているか ・ LotNo.がDBにて照合可能か ・ 当該LotNo.の処理個数が0か、DB上の個数(全数)より多くなっていないか ・ 不燃又はフィルタ(LP)以外のLotNo.が入力されていないか 	LotNo.は7桁固定入力 * 圧縮LotNo.又は装填LotNo.の入力は必須
IN-07	11	装填LotNo._1~5 & 装填Lot処理個数_1~5	入力_文字列 & 入力_数値	7 & (-)	*	<ul style="list-style-type: none"> ・ 圧縮LotNo.又は装填LotNo.のいずれかが入力されているか ・ LotNo.がDBにて照合可能か ・ 当該LotNo.の処理個数が0か、DB上の個数(全数)より多くなっていないか ・ 不燃又はフィルタ(LP)以外のLotNo.が入力されていないか 	LotNo.は7桁固定入力 * 圧縮LotNo.又は装填LotNo.の入力は必須
IN-07	12	備考	入力_文字列	100	-		
IN-08	1	パッケージNo.	入力_文字列	8	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ パッケージNo.がDBにて照合可能か ・ パッケージNo.の封入年月日が登録済でないか 	パッケージNo.は8桁固定入力
IN-08	2	封入年月日	入力_数値	-	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 封入年月日≧装填年月日となっているか 	
IN-08	3	封入担当者	選択_cmb	4	○		
IN-08	4	測定年月日	入力_数値	-	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 測定年月日≧封入年月日となっているか 	
IN-08	5	線量当量率(上面)	入力_数値	-	○		
IN-08	6	線量当量率(側面)	入力_数値	-	○		
IN-08	7	線量当量率(下面)	入力_数値	-	○		
IN-08	8	線量当量率(1m位置)	入力_数値	-	○		
IN-08	9	重量	入力_数値	-	○		
IN-08	10	固化素材(セメント)	入力_数値	-	-		
IN-08	11	固化素材(砂利)	入力_数値	-	-		
IN-08	12	固化素材(砂)	入力_数値	-	-		
IN-08	13	固化素材(水)	入力_数値	-	-		
IN-08	14	調合回数	入力_数値	-	-		
IN-08	15	パッケージ個数	入力_数値	-	-		
IN-08	16	備考	入力_文字列	100	-		

Table 3.3 主要な入力制限・入力規制リスト (6/6)

入力画面 (記号)	No.	項目名	入力方法 (cmb:コンボボックス) (chk:チェックボックス)	文字数	入力必須	主要な入力制御・入力規制 (数値条件は数式を満たさないとエラー)
IN-09	1	パッケージNo.	入力_文字列	8	○	・パッケージNo.がDBにて照合可能か
IN-09	2	移動(保管)先施設	入力_文字列	1	○	
IN-09	3	移動(保管)先アドレス	選択_cmb	3 or 2	○	
IN-09	4	移動(保管)年月日	入力_数値	-	○	・保管年月日 ≧ 測定年月日 となっているか ・移動年月日 ≧ 保管年月日 となっているか
IN-09	5	移動(保管)担当者	選択_cmb	4	○	

IN-01	廃棄物情報入力 (修正) 画面
IN-02	回収・受取情報入力画面
IN-03	搬入・分類情報入力 (修正) 画面
IN-04	焼却処理情報入力 (修正) 画面
IN-05	焼却灰回収・保管情報入力 (修正) 画面
IN-06	固化・装填処理情報入力 (修正) 画面
IN-07	圧縮・装填処理情報入力 (修正) 画面
IN-08	パッケージ封入情報入力 (修正) 画面
IN-09	パッケージ運搬情報入力画面

Table 3.4 データベース仕様 (テーブル一覧)

No.	テーブル名称	テーブル概要
1	latag	廃棄物の性状及び廃棄物の回収に関する情報を管理するテーブル
2	labat	廃棄物の搬入及び分類に関する情報を管理するテーブル
3	lalot	Lot No.と Batch No.の関連 (紐付け) を管理するテーブル
4	larun	可燃廃棄物の焼却処理に関する情報を管理するテーブル
5	labag	焼却灰の回収に関する情報を管理するテーブル
6	lapac_1	廃棄物パッケージへの廃棄物装填及びパッケージ封入に関する情報を管理するテーブル
7	lapac_2	廃棄物パッケージの線量情報及び保管情報を管理するテーブル
8	lapac_3	廃棄物パッケージへの焼却灰装填に関する情報を管理するテーブル
9	C_01_事業体	コード用テーブル
10	C_02_課室名	コード用テーブル
11	C_03_場所	コード用テーブル
12	C_04_担当者	コード用テーブル
13	C_05_区分	コード用テーブル
14	C_06_主要内容物	コード用テーブル
15	C_07_容器梱包	コード用テーブル
16	C_08_主要核種	コード用テーブル
17	C_10_保管施設	コード用テーブル
18	C_15_容器種類	コード用テーブル
19	C_18_固化概要	コード用テーブル
20	C_21_性状	コード用テーブル
21	C_98_保管アドレス	コード用テーブル
22	C_99_システムユーザ	コード用テーブル

Table 3.5 データベース仕様 (テーブル定義一覧) (1/10)

テーブル名	No	論理属性名	物理属性名	データ型	表示形式	主キー	一意	必須	インデックス	デフォルト		説明	備考
										外置キー	属性		
latag	1	受付番号	受付番号	nvarchar(10)	9999999999	1	1	○		テラブル	-	登録日の年 (4桁) + 通番 (6桁)	
latag	2	事業体	事業体	nchar(1)	-	-	-	-		C_01_事業体	コード	事業体	
latag	3	jobNo	jobNo	nchar(3)	-	-	○	1		C_02_課室名	コード	課室名(jobNo)	
latag	4	TagNo	TagNo	nchar(6)	-	-	○	2		-	-	-	
latag	5	区分	区分	nchar(1)	-	-	-	-		C_05_区分	コード	区分 (旧「職性」)	
latag	6	内容物コード_1	内容物コード_1	nchar(2)	-	-	-	-		C_06_主要内容物	コード	主要内容物	
latag	7	内容物率_1	内容物率_1	int	999	-	-	-		-	-	-	
latag	8	内容物コード_2	内容物コード_2	nchar(2)	-	-	-	-		C_06_主要内容物	コード	主要内容物	
latag	9	内容物率_2	内容物率_2	int	999	-	-	-		-	-	-	
latag	10	内容物コード_3	内容物コード_3	nchar(2)	-	-	-	-		C_06_主要内容物	コード	主要内容物	
latag	11	内容物率_3	内容物率_3	int	999	-	-	-		-	-	-	
latag	12	内容物コード_4	内容物コード_4	nchar(2)	-	-	-	-		C_06_主要内容物	コード	主要内容物	
latag	13	内容物率_4	内容物率_4	int	999	-	-	-		-	-	-	
latag	14	内容物コード_5	内容物コード_5	nchar(2)	-	-	-	-		C_06_主要内容物	コード	主要内容物	
latag	15	内容物率_5	内容物率_5	int	999	-	-	-		-	-	-	
latag	16	内容物コード_6	内容物コード_6	nchar(2)	-	-	-	-		C_06_主要内容物	コード	主要内容物	
latag	17	内容物率_6	内容物率_6	int	999	-	-	-		-	-	-	
latag	18	その他	その他	nchar(30)	-	-	-	-		-	-	-	
latag	19	β γ 核種コード_1	β γ 核種コード_1	nchar(2)	-	-	-	-		C_08_主要核種	コード	主要核種	
latag	20	β γ 核種量_1	β γ 核種量_1	float	9.9999E±99	-	-	-		-	-	-	
latag	21	β γ 核種量以下_1	β γ 核種量以下_1	nchar(1)	-	-	-	-		-	-	NULL: チェック無(検出限界以下ではない) 1: チェック有(検出限界以下である)	1は文字列
latag	22	β γ 核種コード_2	β γ 核種コード_2	nchar(2)	-	-	-	-		C_08_主要核種	コード	主要核種	
latag	23	β γ 核種量_2	β γ 核種量_2	float	9.9999E±99	-	-	-		-	-	-	
latag	24	β γ 核種量以下_2	β γ 核種量以下_2	nchar(1)	-	-	-	-		-	-	NULL: チェック無(検出限界以下ではない) 1: チェック有(検出限界以下である)	1は文字列
latag	25	β γ 核種コード_3	β γ 核種コード_3	nchar(2)	-	-	-	-		C_08_主要核種	コード	主要核種	
latag	26	β γ 核種量_3	β γ 核種量_3	float	9.9999E±99	-	-	-		-	-	-	
latag	27	β γ 核種量以下_3	β γ 核種量以下_3	nchar(1)	-	-	-	-		-	-	NULL: チェック無(検出限界以下ではない) 1: チェック有(検出限界以下である)	1は文字列
latag	28	β γ 核種コード_4	β γ 核種コード_4	nchar(2)	-	-	-	-		C_08_主要核種	コード	主要核種	
latag	29	β γ 核種量_4	β γ 核種量_4	float	9.9999E±99	-	-	-		-	-	-	
latag	30	β γ 核種量以下_4	β γ 核種量以下_4	nchar(1)	-	-	-	-		-	-	NULL: チェック無(検出限界以下ではない) 1: チェック有(検出限界以下である)	1は文字列
latag	31	β γ 核種コード_5	β γ 核種コード_5	nchar(2)	-	-	-	-		C_08_主要核種	コード	主要核種	
latag	32	β γ 核種量_5	β γ 核種量_5	float	9.9999E±99	-	-	-		-	-	-	
latag	33	β γ 核種量以下_5	β γ 核種量以下_5	nchar(1)	-	-	-	-		-	-	NULL: チェック無(検出限界以下ではない) 1: チェック有(検出限界以下である)	1は文字列
latag	34	β γ 核種全量	β γ 核種全量	float	9.9999E±99	-	-	-		-	-	-	
latag	35	β γ 核種全量以下	β γ 核種全量以下	nchar(1)	-	-	-	-		-	-	NULL: チェック無(検出限界以下ではない) 1: チェック有(検出限界以下である)	1は文字列
latag	36	α 核種コード_1	α 核種コード_1	nchar(2)	-	-	-	-		C_08_主要核種	コード	主要核種	
latag	37	α 核種量_1	α 核種量_1	float	9.9999E±99	-	-	-		-	-	-	
latag	38	α 核種量以下_1	α 核種量以下_1	nchar(1)	-	-	-	-		-	-	NULL: チェック無(検出限界以下ではない) 1: チェック有(検出限界以下である)	1は文字列

Table 3.5 データベース仕様 (テーブル定義一覧) (2/10)

テーブル名	No	論理属性名	物理属性名	データ型	表示形式	主キー	一意	必須	インデックス	外部キー		説明	備考
										デフォルト	テーブル		
latag	39	α 核種コード_2	α 核種コード_2	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	C.08_主要核種	属性 コード	主要核種
latag	40	α 核種量_2	α 核種量_2	float	9.9999E±99	-	-	-	-	-	-	-	NULL:チェック無(検出限界以下ではない) 1:チェック有(検出限界以下である)
latag	41	α 核種量以下_2	α 核種量以下_2	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	NULL:チェック無(検出限界以下ではない) 1:チェック有(検出限界以下である)
latag	42	α 核種量以下_3	α 核種コード_3	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	C.08_主要核種	コード	主要核種
latag	43	α 核種量_3	α 核種量_3	float	9.9999E±99	-	-	-	-	-	-	-	NULL:チェック無(検出限界以下ではない) 1:チェック有(検出限界以下である)
latag	44	α 核種量以下_3	α 核種量以下_3	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	NULL:チェック無(検出限界以下ではない) 1:チェック有(検出限界以下である)
latag	45	α 核種コード_4	α 核種コード_4	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	C.08_主要核種	コード	主要核種
latag	46	α 核種量_4	α 核種量_4	float	9.9999E±99	-	-	-	-	-	-	-	NULL:チェック無(検出限界以下ではない) 1:チェック有(検出限界以下である)
latag	47	α 核種量以下_4	α 核種量以下_4	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	NULL:チェック無(検出限界以下ではない) 1:チェック有(検出限界以下である)
latag	48	α 核種コード_5	α 核種コード_5	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	C.08_主要核種	コード	主要核種
latag	49	α 核種量_5	α 核種量_5	float	9.9999E±99	-	-	-	-	-	-	-	NULL:チェック無(検出限界以下ではない) 1:チェック有(検出限界以下である)
latag	50	α 核種量以下_5	α 核種量以下_5	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	NULL:チェック無(検出限界以下ではない) 1:チェック有(検出限界以下である)
latag	51	α 核種全量	α 核種全量	float	9.9999E±99	-	-	-	-	-	-	-	NULL:チェック無(検出限界以下ではない) 1:チェック有(検出限界以下である)
latag	52	α 核種全量以下	α 核種全量以下	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	NULL:チェック無(検出限界以下ではない) 1:チェック有(検出限界以下である)
latag	53	評価方法	評価方法	nvarchar(20)	-	-	-	-	-	-	-	-	NULL:チェック無(別紙参照無し) 1:チェック有(別紙参照有り)
latag	54	別紙参照	別紙参照	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	NULL:チェック無(別紙参照無し) 1:チェック有(別紙参照有り)
latag	55	総量当量率_表面	総量当量率_表面	float	999.9999	-	-	-	-	-	-	-	NULL:チェック無(検出限界以下ではない) 1:チェック有(検出限界以下である)
latag	56	総量当量率_表面以下	総量当量率_表面以下	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	NULL:チェック無(検出限界以下ではない) 1:チェック有(検出限界以下である)
latag	57	総量当量率_1m位置	総量当量率_1m位置	float	999.9999	-	-	-	-	-	-	-	NULL:チェック無(検出限界以下ではない) 1:チェック有(検出限界以下である)
latag	58	総量当量率_1m位置以下	総量当量率_1m位置以下	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	NULL:チェック無(検出限界以下ではない) 1:チェック有(検出限界以下である)
latag	59	容器梱包	容器梱包	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	C.07_容器梱包	コード	容器梱包
latag	60	封入年月日	封入年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-	0:無 1:有 NULL:未入力
latag	61	重量	重量	float	999.9	-	-	-	-	-	-	-	0:無 1:有 NULL:未入力
latag	62	容量_管理用	容量_管理用	float	9999.99	-	-	-	-	-	-	-	0:無 1:有 NULL:未入力
latag	63	容量_集計用	容量_集計用	float	9999.99	-	-	-	-	-	-	-	0:無 1:有 NULL:未入力
latag	64	表面密度_ α	表面密度_ α	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	0:無 1:有 NULL:未入力
latag	65	表面密度_ β γ	表面密度_ β γ	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	0:無 1:有 NULL:未入力
latag	66	PVC封入	PVC封入	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	0:無 1:有 NULL:未入力
latag	67	密封性	密封性	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	0:無 1:有 NULL:未入力

Table 3.5 データベース仕様 (テーブル定義一覧) (3/10)

テーブル名	No	論理属性名	物理属性名	データ型	表示形式	主キー	一意	必須	インデックス	デフォルト	外部キー		説明	備考
											テーブル	属性		
latag	68	注意票	注意票	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	0:無 1:有 NULL:未入力	0.1は文字列
latag	69	安定化処理	安定化処理	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	0:無 1:有 NULL:未入力	0.1は文字列
latag	70	金属混入	金属混入	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	0:無 1:有 NULL:未入力	0.1は文字列
latag	71	国規物	国規物	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	0:無 1:有 NULL:未入力	0.1は文字列
latag	72	ブルトニウム重量	ブルトニウム重量	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
latag	73	核分裂性物質重量	核分裂性物質重量	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
latag	74	備考	備考	nvarchar(100)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
latag	75	修正理由	修正理由	nvarchar(100)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
latag	76	登録年月日	登録年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-	Rev0時のみ値を新規に設定 Rev1以降はRev0の値を設定	-
latag	77	回収受取年月日	回収受取年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-	-	-
latag	78	回収受取担当者	回収受取担当者	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	C_04_担当者	コード	-	担当者
latag	79	保管場所	保管場所	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	紐づくテーブルはない。
latag	80	BatchNo	BatchNo	nchar(6)	-	-	-	-	1	-	labat	BatchNo	-	-
latag	81	修正年月日	修正年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	○	-	-	-	Rev0時は登録年月日と同じ値を設定 Rev1以降はデータ修正年月日を設定	-
latag	82	登録担当者	登録担当者	nvarchar(20)	-	-	-	-	○	-	-	-	システムログイン時のユーザ名を設定	-
latag	83	履歴番号	Rev	tinyint	99	2	2	○	-	-	-	-	Rev0~9の10世代を管理 Rev99を削除データとして管理	-
labat	1	受付番号	受付番号	nvarchar(10)	9999999999	1	1	○	-	-	-	-	登録日の年(4桁) + 連番(6桁)	-
labat	2	BatchNo	BatchNo	nchar(6)	-	-	-	○	1	-	-	-	-	-
labat	3	Tag個数	Tag個数	int	99	-	-	○	-	-	-	-	-	-
labat	4	搬入年月日	搬入年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-	-	-
labat	5	搬入担当者	搬入担当者	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	C_04_担当者	コード	-	担当者
labat	6	分類年月日	分類年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-	-	-
labat	7	分類担当者	分類担当者	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	C_04_担当者	コード	-	担当者
labat	8	備考	備考	nvarchar(100)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
labat	9	修正理由	修正理由	nvarchar(100)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
labat	10	登録年月日	登録年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-	Rev0時のみ値を新規に設定 Rev1以降はRev0の値を設定	-
labat	11	修正年月日	修正年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	○	-	-	-	Rev0時は登録年月日と同じ値を設定 Rev1以降はデータ修正年月日を設定	-
labat	12	登録担当者	登録担当者	nvarchar(20)	-	-	-	-	○	-	-	-	システムログイン時のユーザ名を設定	-
labat	13	履歴番号	Rev	tinyint	99	2	2	○	-	-	-	-	Rev0~9の10世代を管理 Rev99を削除データとして管理	-

Table 3.5 データベース仕様 (テーブル定義一覧) (4/10)

テーブル名	No	論理属性名	物理属性名	データ型	表示形式	主キー	一意	必須	インデックス	デフォルト		説明	備考
										外部キー	属性		
labot	1	受付番号	受付番号	nvarchar(10)	9999999999	1	1	○			-		labotの同一BatchNoの受付番号を設定
labot	2	LotNo	LotNo	nchar(7)	-	2	2	○	1		-		
labot	3	Lot内全数	Lot内全数	nchar(2)	-	-	-	○			-		
labot	4	BatchNo	BatchNo	nchar(6)	-	-	-	○	2	labat	BatchNo		
labot	5	修正理由	修正理由	nvarchar(100)	-	-	-	-			-		
labot	6	登録年月日	登録年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-			-	Rev0時のみ値を新規に設定 Rev1以降はRev0の値を設定	
labot	7	修正年月日	修正年月日	date	YYYYMMDD	-	-	○			-	Rev0時は登録年月日と同じ値を設定 Rev1以降はデータ修正年月日を設定	
labot	8	登録担当者	登録担当者	nvarchar(20)	-	-	-	○			-	システムログイン時のユーザー名を設定	
labot	9	履歴番号	Rev	tinyint	99	3	3	○			-	Rev0~9の10世代を管理 Rev99を削除データとして管理	
larun	1	受付番号	受付番号	nvarchar(10)	9999999999	1	1	○			-		
larun	2	RunNo	RunNo	nchar(8)	-	-	-	○	1		-		
larun	3	焼却年月日	焼却年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-			-		
larun	4	焼却担当者	焼却担当者	nchar(4)	-	-	-	-		C_04_担当者	コード		担当者
larun	5	装置運転時間	装置運転時間	float	99.99	-	-	-			-		
larun	6	焼却処理時間	焼却処理時間	float	99.99	-	-	-			-		
larun	7	LPG量	LPG量	float	99.9	-	-	-			-		
larun	8	LotNo_1	LotNo_1	nchar(7)	-	-	-	-		labot	LotNo		
larun	9	Lot内処理回数_1	Lot内処理回数_1	nchar(2)	-	-	-	-		labot	Lot内全数		
larun	10	Lot内全数_1	Lot内全数_1	nchar(2)	-	-	-	-		labot	LotNo		
larun	11	LotNo_2	LotNo_2	nchar(7)	-	-	-	-			-		
larun	12	Lot内処理回数_2	Lot内処理回数_2	nchar(2)	-	-	-	-		labot	Lot内全数		
larun	13	Lot内全数_2	Lot内全数_2	nchar(2)	-	-	-	-		labot	LotNo		
larun	14	LotNo_3	LotNo_3	nchar(7)	-	-	-	-			-		
larun	15	Lot内処理回数_3	Lot内処理回数_3	nchar(2)	-	-	-	-		labot	Lot内全数		
larun	16	Lot内全数_3	Lot内全数_3	nchar(2)	-	-	-	-		labot	LotNo		
larun	17	LotNo_4	LotNo_4	nchar(7)	-	-	-	-		labot	Lot内全数		
larun	18	Lot内処理回数_4	Lot内処理回数_4	nchar(2)	-	-	-	-		labot	LotNo		
larun	19	Lot内全数_4	Lot内全数_4	nchar(2)	-	-	-	-		labot	Lot内全数		
larun	20	LotNo_5	LotNo_5	nchar(7)	-	-	-	-		labot	LotNo		
larun	21	Lot内処理回数_5	Lot内処理回数_5	nchar(2)	-	-	-	-		labot	Lot内全数		
larun	22	Lot内全数_5	Lot内全数_5	nchar(2)	-	-	-	-		labot	LotNo		
larun	23	LotNo_6	LotNo_6	nchar(7)	-	-	-	-		labot	Lot内全数		
larun	24	Lot内処理回数_6	Lot内処理回数_6	nchar(2)	-	-	-	-		labot	LotNo		
larun	25	Lot内全数_6	Lot内全数_6	nchar(2)	-	-	-	-		labot	Lot内全数		
larun	26	LotNo_7	LotNo_7	nchar(7)	-	-	-	-		labot	LotNo		
larun	27	Lot内処理回数_7	Lot内処理回数_7	nchar(2)	-	-	-	-		labot	Lot内全数		
larun	28	Lot内全数_7	Lot内全数_7	nchar(2)	-	-	-	-		labot	LotNo		
larun	29	LotNo_8	LotNo_8	nchar(7)	-	-	-	-		labot	Lot内全数		
larun	30	Lot内処理回数_8	Lot内処理回数_8	nchar(2)	-	-	-	-		labot	LotNo		
larun	31	Lot内全数_8	Lot内全数_8	nchar(2)	-	-	-	-		labot	Lot内全数		
larun	32	LotNo_9	LotNo_9	nchar(7)	-	-	-	-		labot	LotNo		
larun	33	Lot内処理回数_9	Lot内処理回数_9	nchar(2)	-	-	-	-		labot	Lot内全数		
larun	34	Lot内全数_9	Lot内全数_9	nchar(2)	-	-	-	-		labot	LotNo		

Table 3.5 データベース仕様 (テーブル定義一覧) (5/10)

テーブル名	No	論理属性名	物理属性名	データ型	表示形式	主キー	一意	必須	インデックス	デフォルト	外部キー		説明	備考
											テーブル	属性		
larun	35	LotNo_10	LotNo_10	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	lotot	LotNo		
larun	36	Lot内処理個数_10	Lot内処理個数_10	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	-		
larun	37	Lot内全数_10	Lot内全数_10	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	lotot	Lot内全数		
larun	38	備考	備考	nvarchar(100)	-	-	-	-	-	-	-	-		
larun	39	修正理由	修正理由	nvarchar(100)	-	-	-	-	-	-	-	-		
larun	40	登録年月日	登録年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-	Rev0時のみ値を新規に設定 Rev1以降はRev0の値を設定	
larun	41	修正年月日	修正年月日	date	YYYYMMDD	-	-	○	-	-	-	-	Rev0時は登録年月日と同じ値を設定 Rev1以降はデータ修正年月日を設定	
larun	42	登録担当者	登録担当者	nvarchar(20)	-	-	-	○	-	-	-	-	システムログイン時のユーザー名を設定	
larun	43	履歴番号	Rev	tinyint	99	2	2	○	-	-	-	-	Rev0-9の10世代を管理 Rev99を削除データとして管理	
labag	1	受付番号	受付番号	nvarchar(10)	9999999999	1	1	○	-	-	-	-	登録日の年 (4桁) + 通番 (6桁)	
labag	2	BagNo	BagNo	nvarchar(7)	-	-	-	○	1	-	-	-		
labag	3	Bag重量	Bag重量	nchar(4)	-	-	-	○	2	-	-	-		
labag	4	総量当量率	総量当量率	float	9999.999	-	-	-	-	-	-	-		
labag	5	回収年月日	回収年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-		
labag	6	回収担当者	回収担当者	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	-	-		
labag	7	保管年月日	保管年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-		担当者
labag	8	保管担当者	保管担当者	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	-	-		担当者
labag	9	性状	性状	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	-		性状
labag	10	発生場所	発生場所	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	-		場所 (受入、引渡、排出)
labag	11	RunNo_1	RunNo_1	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	12	RunNo_2	RunNo_2	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	13	RunNo_3	RunNo_3	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	14	RunNo_4	RunNo_4	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	15	RunNo_5	RunNo_5	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	16	RunNo_6	RunNo_6	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	17	RunNo_7	RunNo_7	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	18	RunNo_8	RunNo_8	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	19	RunNo_9	RunNo_9	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	20	RunNo_10	RunNo_10	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	21	RunNo_11	RunNo_11	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	22	RunNo_12	RunNo_12	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	23	RunNo_13	RunNo_13	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	24	RunNo_14	RunNo_14	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	25	RunNo_15	RunNo_15	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	26	RunNo_16	RunNo_16	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	27	RunNo_17	RunNo_17	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	28	RunNo_18	RunNo_18	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	29	RunNo_19	RunNo_19	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	30	RunNo_20	RunNo_20	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	31	RunNo_21	RunNo_21	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	32	RunNo_22	RunNo_22	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	33	RunNo_23	RunNo_23	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	34	RunNo_24	RunNo_24	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	35	RunNo_25	RunNo_25	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		

Table 3.5 データベース仕様 (テーブル定義一覧) (6/10)

テーブル名	No	論理属性名	物理属性名	データ型	表示形式	主キー	一意	必須	インデックス	デフォルト	外部キー		説明	備考
											テーブル	属性		
labag	36	RunNo_26	RunNo_26	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	37	RunNo_27	RunNo_27	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	38	RunNo_28	RunNo_28	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	39	RunNo_29	RunNo_29	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	40	RunNo_30	RunNo_30	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	larun	RunNo		
labag	41	備考	備考	nvarchar(100)	-	-	-	-	-	-	-	-		
labag	42	修正理由	修正理由	nvarchar(100)	-	-	-	-	-	-	-	-		
labag	43	登録年月日	登録年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-	Rev0時のみ値を新規に設定 Rev1以降はRev0の値を設定	
labag	44	修正年月日	修正年月日	date	YYYYMMDD	-	○	-	-	-	-	-	Rev0時は登録年月日と同じ値を設定 Rev1以降はデータ修正年月日を設定	
labag	45	登録担当者	登録担当者	nvarchar(20)	-	-	-	○	-	-	-	-	システムログイン時のユーザー名称を設定	
labag	46	履歴番号	Rev	tinyint	99	2	2	○	-	-	-	-	Rev0~9の10世代を管理 Rev99を削除データとして管理	
lapac_1	1	受付番号	受付番号	nvarchar(10)	9999999999	1	1	○	-	-	-	-	登録日の年 (4桁) + 連番 (6桁)	
lapac_1	2	パッケージNo	パッケージNo	nchar(8)	-	-	-	○	1	-	lapac_2	パッケージNo		
lapac_1	3	封入年月日	封入年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_1	4	封入担当者	封入担当者	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	-	C.04_担当者	コード	担当者
lapac_1	5	容器種類	容器種類	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	C.15_容器種類	コード	容器種類
lapac_1	6	固化素材セメント	固化素材セメント	float	99.9	-	-	-	-	-	-	-	-	
lapac_1	7	固化素材砂利	固化素材砂利	float	99.9	-	-	-	-	-	-	-	-	
lapac_1	8	固化素材砂	固化素材砂	float	99.9	-	-	-	-	-	-	-	-	
lapac_1	9	固化素材水	固化素材水	float	99.9	-	-	-	-	-	-	-	-	
lapac_1	10	調査回数	調査回数	int	99	-	-	-	-	-	-	-	-	
lapac_1	11	パッケージ個数	パッケージ個数	int	99	-	-	-	-	-	-	-	-	
lapac_1	12	固化概要	固化概要	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	C.18_固化概要	コード	固化概要
lapac_1	13	装填年月日	装填年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-	-	
lapac_1	14	装填担当者	装填担当者	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	-	C.04_担当者	コード	担当者
lapac_1	15	装填LotNo_1	装填LotNo_1	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labot	LotNo		
lapac_1	16	装填Lot内処理個数_1	装填Lot内処理個数_1	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
lapac_1	17	装填Lot内全数_1	装填Lot内全数_1	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	labot	Lot内全数	
lapac_1	18	装填LotNo_2	装填LotNo_2	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	-	labot	LotNo	
lapac_1	19	装填Lot内処理個数_2	装填Lot内処理個数_2	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
lapac_1	20	装填Lot内全数_2	装填Lot内全数_2	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	labot	Lot内全数	
lapac_1	21	装填LotNo_3	装填LotNo_3	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	-	labot	LotNo	
lapac_1	22	装填Lot内処理個数_3	装填Lot内処理個数_3	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
lapac_1	23	装填Lot内全数_3	装填Lot内全数_3	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	labot	Lot内全数	
lapac_1	24	装填LotNo_4	装填LotNo_4	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	-	labot	LotNo	
lapac_1	25	装填Lot内処理個数_4	装填Lot内処理個数_4	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
lapac_1	26	装填Lot内全数_4	装填Lot内全数_4	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	labot	Lot内全数	
lapac_1	27	装填LotNo_5	装填LotNo_5	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	-	labot	LotNo	
lapac_1	28	装填Lot内処理個数_5	装填Lot内処理個数_5	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
lapac_1	29	装填Lot内全数_5	装填Lot内全数_5	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	labot	Lot内全数	
lapac_1	30	圧縮年月日	圧縮年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-	-	
lapac_1	31	圧縮担当者	圧縮担当者	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	-	C.04_担当者	コード	担当者

Table 3.5 データベース仕様 (テーブル定義一覧) (7/10)

テーブル名	No	論理属性名	物理属性名	データ型	表示形式	主キー	一意	必須	インデックス	デフォルト	外部キー		説明	備考
											テーブル	属性		
lapac_1	32	圧縮LotNo_1	圧縮LotNo_1	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	lotot	LotNo		
lapac_1	33	圧縮Lot内処理個数_1	圧縮Lot内処理個数_1	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_1	34	圧縮Lot内全数_1	圧縮Lot内全数_1	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	lotot	Lot内全数		
lapac_1	35	圧縮LotNo_2	圧縮LotNo_2	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	lotot	LotNo		
lapac_1	36	圧縮Lot内処理個数_2	圧縮Lot内処理個数_2	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_1	37	圧縮Lot内全数_2	圧縮Lot内全数_2	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	lotot	Lot内全数		
lapac_1	38	圧縮LotNo_3	圧縮LotNo_3	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	lotot	LotNo		
lapac_1	39	圧縮Lot内処理個数_3	圧縮Lot内処理個数_3	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_1	40	圧縮Lot内全数_3	圧縮Lot内全数_3	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	lotot	Lot内全数		
lapac_1	41	圧縮LotNo_4	圧縮LotNo_4	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	lotot	LotNo		
lapac_1	42	圧縮Lot内処理個数_4	圧縮Lot内処理個数_4	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_1	43	圧縮Lot内全数_4	圧縮Lot内全数_4	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	lotot	Lot内全数		
lapac_1	44	圧縮LotNo_5	圧縮LotNo_5	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	lotot	LotNo		
lapac_1	45	圧縮Lot内処理個数_5	圧縮Lot内処理個数_5	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_1	46	圧縮Lot内全数_5	圧縮Lot内全数_5	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	lotot	Lot内全数		
lapac_1	47	固化容器数	固化容器数	int	9	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_1	48	容器_ドラム缶_No	容器_ドラム缶_No	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_1	49	内容器No	内容器No	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_1	50	備考	備考	nvarchar(100)	-	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_1	51	修正理由_表裏	修正理由	nvarchar(100)	-	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_1	52	修正理由_封入	修正理由	nvarchar(100)	-	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_1	53	登録年月日	登録年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-	Rev0時のみ値を新規に設定 Rev1以降はRev0の値を設定	
lapac_1	54	修正年月日	修正年月日	date	YYYYMMDD	-	-	○	-	-	-	-	Rev0時は登録年月日と同じ値を設定 Rev1以降はデータ修正年月日を設定	
lapac_1	55	登録担当者	登録担当者	nvarchar(20)	-	-	-	○	-	-	-	-	システムログイン時のユーザー名を設定	
lapac_1	56	履歴番号	Rev	tinyint	99	2	2	○	-	-	-	-	Rev0~9の10世代を管理 Rev99を削除データとして管理	
lapac_2	1	受付番号	受付番号	nvarchar(10)	9999999999	1	1	○	-	-	-	-	lapac_1の同一パッケージNo の受付番号を設定	
lapac_2	2	パッケージNo	パッケージNo	nchar(8)	-	-	-	○	1	-	lapac_1	パッケージNo		
lapac_2	3	測定年月日	測定年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_2	4	総量当量率_上面	総量当量率_上面	float	999.9999	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_2	5	総量当量率_側面	総量当量率_側面	float	999.9999	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_2	6	総量当量率_下面	総量当量率_下面	float	999.9999	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_2	7	総量当量率_1m位置	総量当量率_1m位置	float	999.9999	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_2	8	重量	重量	float	999.9	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_2	9	移管施設	移管施設	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	C.10.保管施設	コード	保管施設	
lapac_2	10	移管アドレス	移管アドレス	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_2	11	移管年月日	移管年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_2	12	移管担当者	移管担当者	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	C.04.担当者	コード	担当者	
lapac_2	13	移動施設_1	移動施設_1	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	C.10.保管施設	コード	保管施設	
lapac_2	14	移動アドレス_1	移動アドレス_1	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_2	15	移動年月日_1	移動年月日_1	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_2	16	移動担当者_1	移動担当者_1	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	C.04.担当者	コード	担当者	

Table 3.5 データベース仕様 (テーブル定義一覧) (8/10)

テーブル名	No	論理属性名	物理属性名	データ型	表示形式	主キー	一意	必須	インデックス	デフォルト	外部キー		説明	備考
											テーブル	属性		
lapac_2	17	移動施設_2	移動施設_2	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	C_10_保管施設	コード	-	保管施設
lapac_2	18	移動アドレス_2	移動アドレス_2	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
lapac_2	19	移動年月日_2	移動年月日_2	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-	-	-
lapac_2	20	移動担当者_2	移動担当者_2	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	C_04_担当者	コード	-	担当者
lapac_2	21	移動施設_3	移動施設_3	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	C_10_保管施設	コード	-	保管施設
lapac_2	22	移動アドレス_3	移動アドレス_3	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
lapac_2	23	移動年月日_3	移動年月日_3	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-	-	-
lapac_2	24	移動担当者_3	移動担当者_3	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	C_04_担当者	コード	-	担当者
lapac_2	25	移動施設_4	移動施設_4	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	C_10_保管施設	コード	-	保管施設
lapac_2	26	移動アドレス_4	移動アドレス_4	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
lapac_2	27	移動年月日_4	移動年月日_4	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-	-	-
lapac_2	28	移動担当者_4	移動担当者_4	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	C_04_担当者	コード	-	担当者
lapac_2	29	移動施設_5	移動施設_5	nchar(1)	-	-	-	-	-	-	C_10_保管施設	コード	-	保管施設
lapac_2	30	移動アドレス_5	移動アドレス_5	nchar(8)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
lapac_2	31	移動年月日_5	移動年月日_5	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-	-	-
lapac_2	32	移動担当者_5	移動担当者_5	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	C_04_担当者	コード	-	担当者
lapac_2	33	備考	備考	nvarchar(100)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
lapac_2	34	修正理由	修正理由	nvarchar(100)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
lapac_2	35	登録年月日	登録年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-	Rev0時のみ値を新規に設定 Rev1以降はRev0の値を設定	-
lapac_2	36	修正年月日	修正年月日	date	YYYYMMDD	-	-	○	-	-	-	-	Rev0時は登録年月日と同じ値を設定 Rev1以降はデータ修正年月日を設定	-
lapac_2	37	登録担当者	登録担当者	nvarchar(20)	-	-	-	○	-	-	-	-	システムログイン時のユーザー名を設定	-
lapac_2	38	履歴番号	Rev	tinyint	99	2	2	○	-	-	-	-	Rev0~9の10世代を管理	-
lapac_3	1	受付番号	受付番号	nvarchar(10)	999999999999	1	1	○	-	-	-	-	Rev99を削除データとして管理	lapac_1の同一パッケージNo の受付番号を設定
lapac_3	2	パッケージNo	パッケージNo	nchar(8)	-	-	-	-	1	-	lapac_1	パッケージNo	-	-
lapac_3	3	固化容器No	固化容器No	nchar(6)	-	2	2	○	2	-	-	-	-	-
lapac_3	4	固化年月日	固化年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-	-	-
lapac_3	5	固化担当者	固化担当者	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	C_04_担当者	コード	-	担当者
lapac_3	6	浄水量	浄水量	float	99.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
lapac_3	7	ドレン水量	ドレン水量	float	99.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
lapac_3	8	セメント量	セメント量	float	99.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
lapac_3	9	固化LotNo_1	固化LotNo_1	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	lotot	LotNo	-	-
lapac_3	10	固化Lot内処理回数_1	固化Lot内処理回数_1	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	Lot内全数	-	-
lapac_3	11	固化Lot内全数_1	固化Lot内全数_1	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	lotot	Lot内全数	-	-
lapac_3	12	固化LotNo_2	固化LotNo_2	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	lotot	LotNo	-	-
lapac_3	13	固化Lot内処理回数_2	固化Lot内処理回数_2	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	lotot	Lot内全数	-	-
lapac_3	14	固化Lot内全数_2	固化Lot内全数_2	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	lotot	Lot内全数	-	-
lapac_3	15	固化LotNo_3	固化LotNo_3	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	lotot	LotNo	-	-
lapac_3	16	固化Lot内処理回数_3	固化Lot内処理回数_3	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	Lot内全数	-	-
lapac_3	17	固化Lot内全数_3	固化Lot内全数_3	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	lotot	Lot内全数	-	-
lapac_3	18	固化LotNo_4	固化LotNo_4	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	lotot	LotNo	-	-
lapac_3	19	固化Lot内処理回数_4	固化Lot内処理回数_4	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	lotot	Lot内全数	-	-
lapac_3	20	固化Lot内全数_4	固化Lot内全数_4	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	lotot	Lot内全数	-	-

Table 3.5 データベース仕様 (テーブル定義一覧) (9/10)

テーブル名	No	論理属性名	物理属性名	データ型	表示形式	主キー	一意	必須	インデックス	デフォルト	外部キー		説明	備考
											テーブル	属性		
lapac_3	21	固化LotNo_5	固化LotNo_5	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	lotot	LotNo		
lapac_3	22	固化Lot内処理回数_5	固化Lot内処理回数_5	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_3	23	固化Lot内全数_5	固化Lot内全数_5	nchar(2)	-	-	-	-	-	-	lotot	Lot内全数		
lapac_3	24	BagNo_1	BagNo_1	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	25	Bag重量_1	Bag重量_1	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	26	BagNo_2	BagNo_2	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	27	Bag重量_2	Bag重量_2	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	28	BagNo_3	BagNo_3	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	29	Bag重量_3	Bag重量_3	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	30	BagNo_4	BagNo_4	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	31	Bag重量_4	Bag重量_4	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	32	BagNo_5	BagNo_5	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	33	Bag重量_5	Bag重量_5	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	34	BagNo_6	BagNo_6	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	35	Bag重量_6	Bag重量_6	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	36	BagNo_7	BagNo_7	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	37	Bag重量_7	Bag重量_7	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	38	BagNo_8	BagNo_8	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	39	Bag重量_8	Bag重量_8	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	40	BagNo_9	BagNo_9	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	41	Bag重量_9	Bag重量_9	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	42	BagNo_10	BagNo_10	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	43	Bag重量_10	Bag重量_10	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	44	BagNo_11	BagNo_11	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	45	Bag重量_11	Bag重量_11	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	46	BagNo_12	BagNo_12	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	47	Bag重量_12	Bag重量_12	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	48	BagNo_13	BagNo_13	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	49	Bag重量_13	Bag重量_13	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	50	BagNo_14	BagNo_14	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	51	Bag重量_14	Bag重量_14	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	52	BagNo_15	BagNo_15	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	53	Bag重量_15	Bag重量_15	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	54	BagNo_16	BagNo_16	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	55	Bag重量_16	Bag重量_16	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	56	BagNo_17	BagNo_17	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	57	Bag重量_17	Bag重量_17	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	58	BagNo_18	BagNo_18	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	59	Bag重量_18	Bag重量_18	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	60	BagNo_19	BagNo_19	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	61	Bag重量_19	Bag重量_19	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	62	BagNo_20	BagNo_20	nchar(7)	-	-	-	-	-	-	labag	BagNo		
lapac_3	63	Bag重量_20	Bag重量_20	nchar(4)	-	-	-	-	-	-	labag	Bag重量		
lapac_3	64	修正理由	修正理由	nvarchar(100)	-	-	-	-	-	-	-	-		
lapac_3	65	登録年月日	登録年月日	date	YYYYMMDD	-	-	-	-	-	-	-		Rev0時のみ値を新規に設定 Rev1以降はRev0の値を設定

Table 3.5 データベース仕様 (テーブル定義一覧) (10/10)

テーブル名	No	論理属性名	物理属性名	データ型	表示形式	主キー	一意	必須	インデックス	デフォルト	外部キー		説明	備考
											テーブル	属性		
lapac_3	66	修正年月日	修正年月日	date	YYYYMMDD	-	-	○					Rev0時は登録年月日と同じ値を設定 Rev1以降はデータ修正年月日を設定	
lapac_3	67	登録担当者	登録担当者	nvarchar(20)	-	-	-	○					システムログイン時のユーザー名を設定	
lapac_3	68	履歴番号	Rev	tinyint	99	3	3	○					Rev0～9の10世代を管理 Rev99を削除データとして管理	
C.01_事業体	1	コード	コード	nchar(1)	-	1	1	○						
C.01_事業体	2	事業体	事業体	nvarchar(20)	-	-	2	○						
C.01_事業体	3	事業体_印刷用	事業体_印刷用	nvarchar(20)	-	-	3	○						
C.02_課室名	1	コード	コード	nchar(3)	-	1	1	○						
C.02_課室名	2	課室名	課室名	nvarchar(20)	-	-	2	○						
C.03_場所	1	コード	コード	nchar(2)	-	1	1	○						
C.03_場所	2	場所	場所	nvarchar(20)	-	-	2	○						
C.04_担当者	1	コード	コード	nchar(4)	-	1	1	○						
C.04_担当者	2	担当者	担当者	nvarchar(20)	-	-	2	○						
C.05_区分	1	コード	コード	nchar(1)	-	1	1	○						
C.05_区分	2	区分	区分	nvarchar(10)	-	-	2	○					latagの「区分」	旧「燃性」
C.06_主要内容物	1	コード	コード	nchar(2)	-	1	1	○						
C.06_主要内容物	2	主要内容物	主要内容物	nvarchar(10)	-	-	2	○						
C.07_容器梱包	1	コード	コード	nchar(2)	-	1	1	○						
C.07_容器梱包	2	容器梱包	容器梱包	nvarchar(20)	-	-	2	○						
C.08_主要核種	1	コード	コード	nchar(2)	-	1	1	○						
C.08_主要核種	2	主要核種	主要核種	nvarchar(20)	-	-	2	○						
C.10_保管施設	1	コード	コード	nchar(1)	-	1	1	○						
C.10_保管施設	2	保管施設	保管施設	nvarchar(10)	-	-	2	○						
C.15_容器種類	1	コード	コード	nchar(2)	-	1	1	○						
C.15_容器種類	2	容器種類	容器種類	nvarchar(20)	-	-	2	○						lapac
C.18_固化概要	1	コード	コード	nchar(2)	-	1	1	○						
C.18_固化概要	2	固化概要	固化概要	nvarchar(40)	-	-	2	○						
C.21_性状	1	コード	コード	nchar(2)	-	1	1	○						
C.21_性状	2	性状	性状	nvarchar(10)	-	-	2	○						
C.98_保管アドレス	1	施設	施設	nchar(1)	-	1	1	○						
C.98_保管アドレス	2	タイプ	タイプ	tinyint	-	2	2	○					C_10_保管施設	コード
C.98_保管アドレス	3	アドレス位置	アドレス位置	tinyint	-	-	-	○					施設の保管タイプ識別用 (1～)	
C.98_保管アドレス	4	アドレス	アドレス	nvarchar(3)	-	3	3	○					1～3のいずれか	
C.99_システムユーザー	1	ユーザーID	ユーザーID	nvarchar(20)	-	-	-	○						
C.99_システムユーザー	2	パスワード	パスワード	nvarchar(20)	-	-	-	○						
C.99_システムユーザー	3	利用者権限	利用者権限	tinyint	-	-	-	○						0:ユーザー1:システム管理者
C.99_システムユーザー	4	ユーザー名称	ユーザー名称	nvarchar(20)	-	-	-	○						
C.99_システムユーザー	5	更新日	更新日	date	YYYYMMDD	-	-	○						

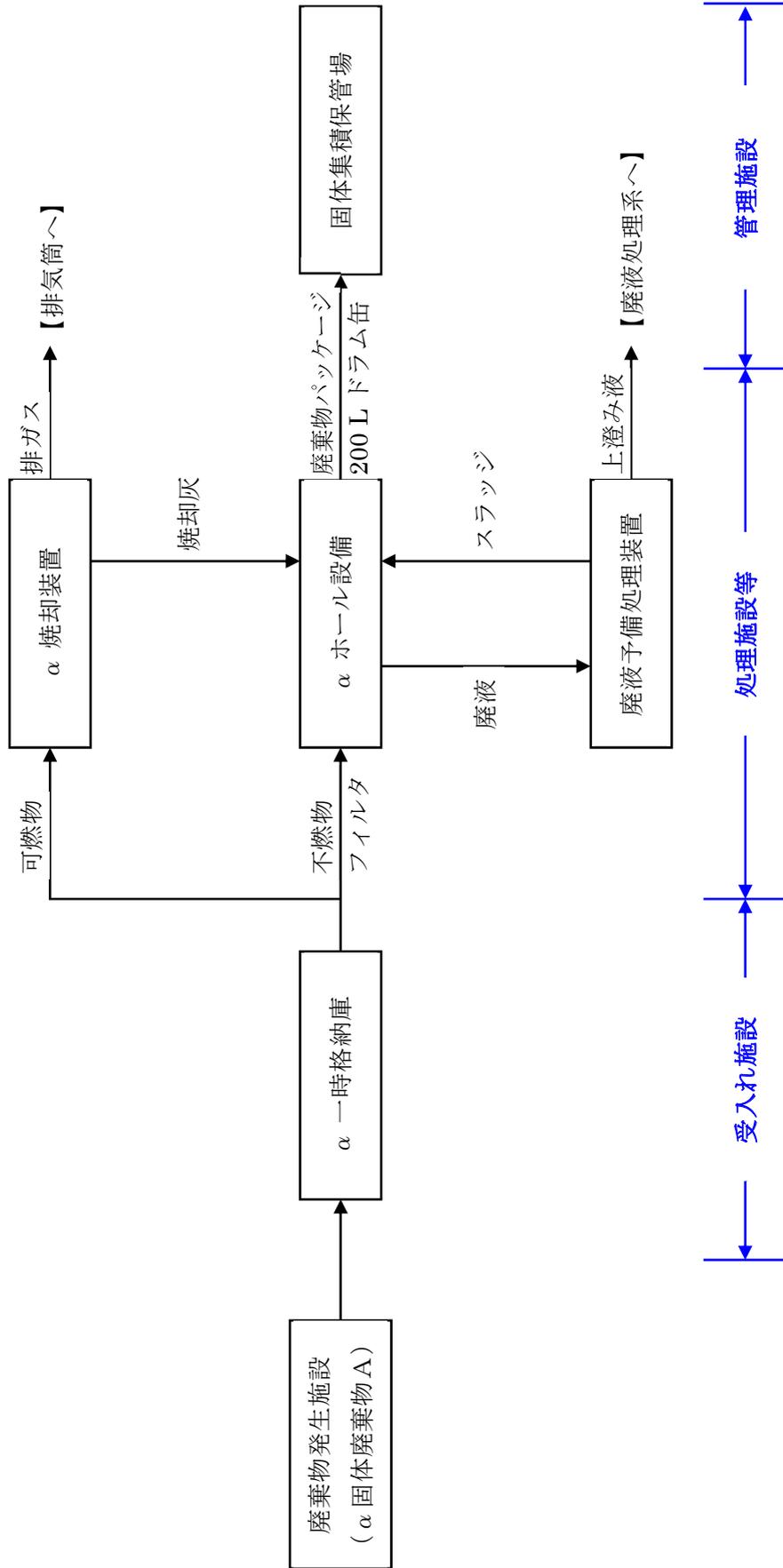


Fig. 2.1 α 固体廃棄物 A の受入れ、処理及び保管の系統

α 固体廃棄物A記録票

Job-TagNo.				廃棄物区分			
内容物&率			%				%
			%				%
			%				%
内容物詳細							
β・γ核種&量			Bq				Bq
			Bq				Bq
			Bq	全	量		Bq
α核種&量			Bq				Bq
			Bq				Bq
			Bq	全	量		Bq
放射性物質濃度の測定・評価方法 記号				<input type="checkbox"/> :別紙参照			
線量当量率	(表面)		μSv/h	(1m)			μSv/h
容器・梱包		容器容量(管理値用)				L	
重量		kg	封入年月日				
封入担当者	(名前)	(TEL)		比重			
表面密度	<input type="checkbox"/> : α < 0.04Bq/cm ²		<input type="checkbox"/> : β(γ) < 0.4Bq/cm ²				
封入状態	<input type="checkbox"/> :PVCバッグに溶封		<input type="checkbox"/> :密封性・健全性一良				
金属混入の有無			発火性・爆発性物質等使用履歴の有無				
国際規制物資の有無			運搬・保管・処理等の取扱上の注意の有無				
Pu重量		g	核分裂性物質重量			g	
発生場所							
備考							
引渡し・受入れ基準							
項目	放射性物質濃度		プルト ニウム	核分裂 性物質	線量当量率		
	α全量	β・γ全量			表面	1m位置	
	Bq/容器		g/容器		μSv/h		
基準							
依頼元(確認) 引渡基準を満足すること及び記載漏れのないことの複数名による確認							
課長		担当					
依頼元管理番号 (ある場合は記載)							
引渡し年月日	2	0		年		月	日

Fig. 2.2 α 固体廃棄物A記録票



(a) α 固体廃棄物 A カartonボックス



(b) α 固体廃棄物 A 運搬用コンテナ車



(c) α 一時格納庫 (外観)



(d) α 一時格納庫 (内部)



(e) α 固体処理棟 (外観)



(f) 廃棄物分類用ボックス

Fig. 2.3 α 固体廃棄物 A の処理風景図 (1/2)



(g) α 固体廃棄物 A 焼却装置



(h) 灰出しボックス



(i) α ホール設備での廃棄物分類作業風景



(j) α 固体廃棄物 A 圧縮装置



(k) 固体集積保管場での保管風景

Fig. 2.3 α 固体廃棄物 A の処理風景図 (2/2)

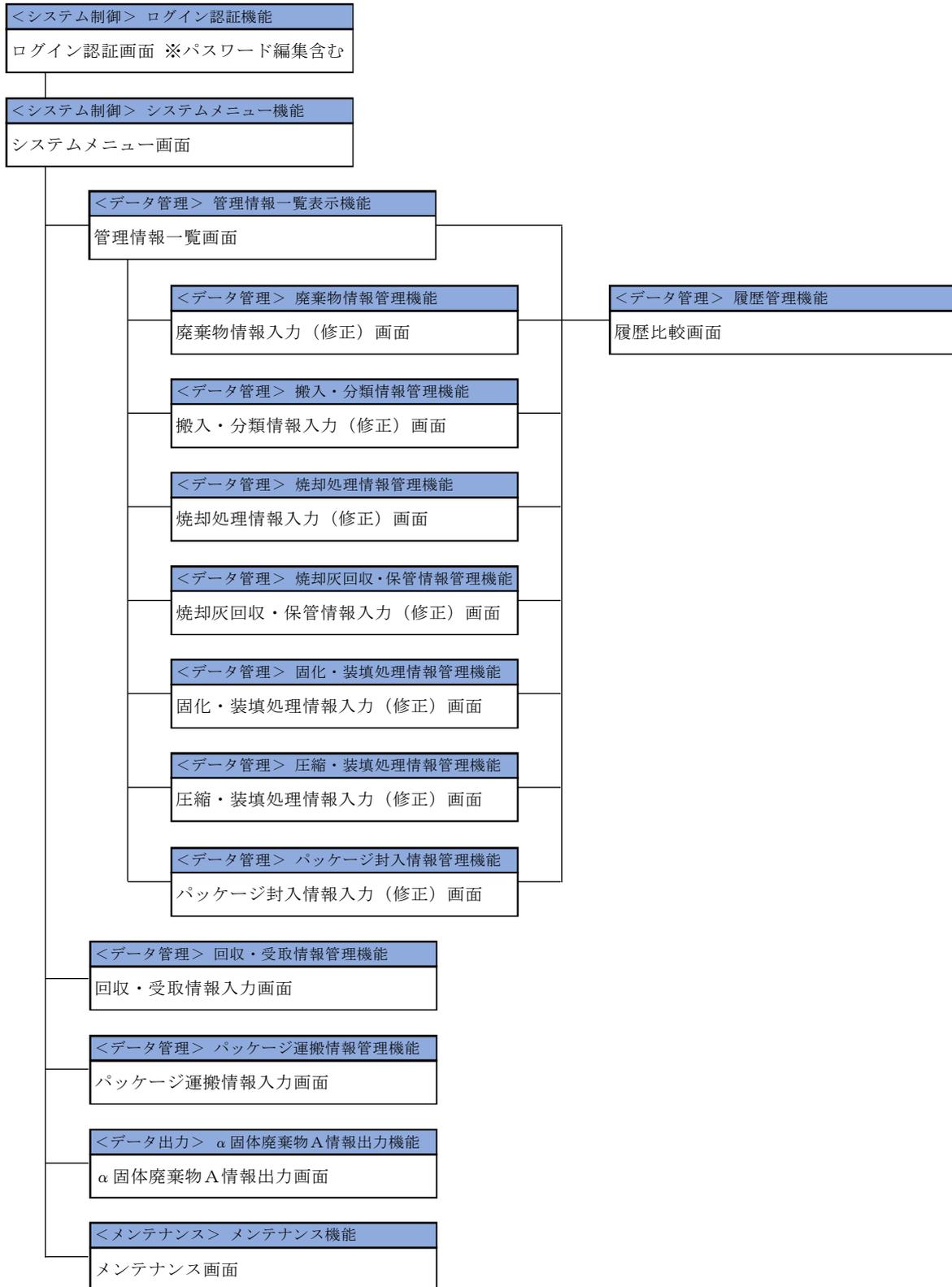
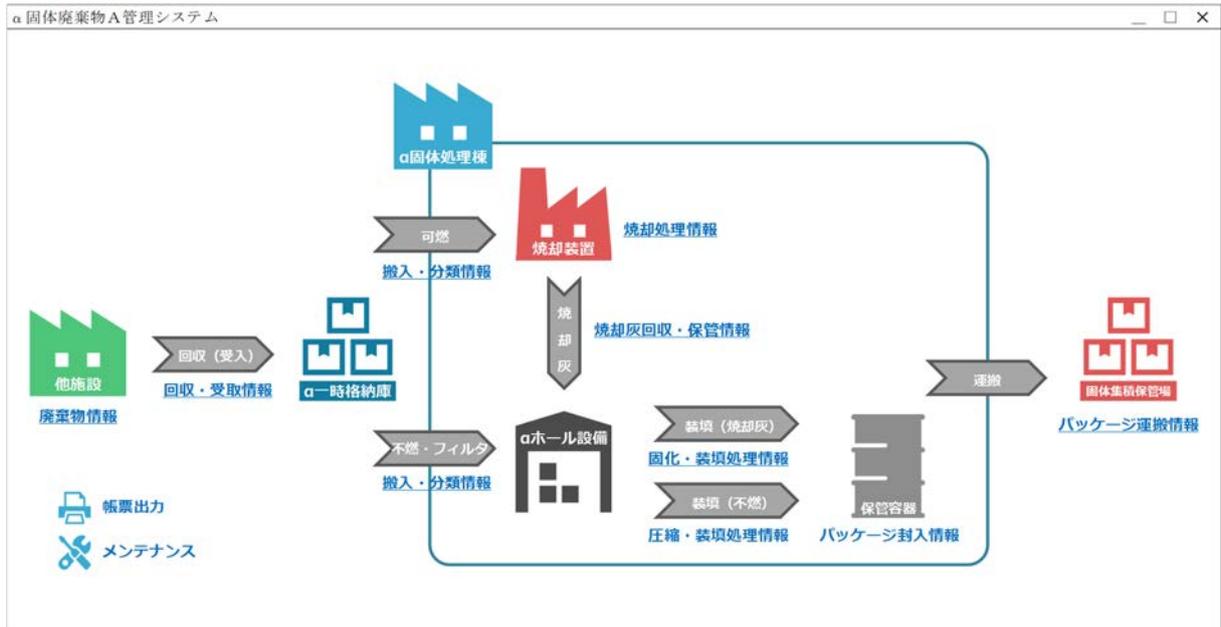


Fig. 3.1 機能構成図



システムメニュー画面		呼び出し機能
ボタン名	アイコン	
廃棄物情報		<ul style="list-style-type: none"> ・管理情報一覧表示機能（廃棄物情報一覧） ・廃棄物情報管理機能
回収・受取情報		<ul style="list-style-type: none"> ・回収・受取情報管理機能
搬入・分類情報	 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理情報一覧表示機能（搬入・分類情報一覧） ・搬入・分類情報管理機能
焼却処理情報		<ul style="list-style-type: none"> ・管理情報一覧表示機能（焼却処理情報一覧） ・焼却処理情報管理機能
焼却灰回収・保管情報		<ul style="list-style-type: none"> ・管理情報一覧表示機能（焼却灰回収・保管情報一覧） ・焼却灰回収・保管情報管理機能
固化・装填処理情報		<ul style="list-style-type: none"> ・管理情報一覧表示機能（固化・装填処理情報一覧） ・固化・装填処理情報管理機能
圧縮・装填処理情報		<ul style="list-style-type: none"> ・管理情報一覧表示機能（圧縮・装填処理情報一覧） ・圧縮・装填処理情報管理機能
パッケージ封入情報		<ul style="list-style-type: none"> ・管理情報一覧表示機能（パッケージ封入情報一覧） ・パッケージ封入情報管理機能
パッケージ運搬情報		<ul style="list-style-type: none"> ・パッケージ運搬情報管理機能
帳票出力		<ul style="list-style-type: none"> ・α 固体廃棄物A 情報出力機能
メンテナンス		<ul style="list-style-type: none"> ・メンテナンス機能

Fig. 3.2 システムメニュー画面及び呼び出し機能

o固体廃棄物A管理システム

廃棄物情報入力

事業体	JobNo.	TagNo.	区分	添付ファイル	総容量(MB) 0/10	ファイル数 0/20							
内容物	%	%	%										
その他	%	%	%										
β・γ核種 &量	&	E	Bq	<input type="checkbox"/> 以下	α核種 &量	&	E	Bq	<input type="checkbox"/> 以下				
	&	E	Bq	<input type="checkbox"/> 以下		&	E	Bq	<input type="checkbox"/> 以下				
	&	E	Bq	<input type="checkbox"/> 以下		&	E	Bq	<input type="checkbox"/> 以下				
	&	E	Bq	<input type="checkbox"/> 以下		&	E	Bq	<input type="checkbox"/> 以下				
	&	E	Bq	<input type="checkbox"/> 以下		&	E	Bq	<input type="checkbox"/> 以下				
β・γ全量	&	E	Bq	<input type="checkbox"/> 以下	α全量	&	E	Bq	<input type="checkbox"/> 以下				
評価方法	<input type="checkbox"/> 別紙参照												
線量当量率	μSv/h	<input type="checkbox"/> 以下	1m位置	μSv/h	<input type="checkbox"/> 以下	容器・梱包							
重量	kg	容器容量	(管理値用)	g	(集計用)	g							
封入年月日	年	月	日										
<input checked="" type="checkbox"/> α<0.04Bq/cm ³	<input checked="" type="checkbox"/> β(γ)<0.4Bq/cm ³	<input checked="" type="checkbox"/> PVCバッグに溶封	<input checked="" type="checkbox"/> 密封性・健全性-良										
注意票の有無	安定化処理の有無	金属混入の有無	国際規制物資の有無	0	有:1、無:0								
ブルトコウム重量	-	g	核分裂性物質重量	-	g								
備考							登録年月日	2021	年	9	月	3	日
登録													

Fig. 3.10 廃棄物情報入力画面



Fig. 3.11 入力条件に適合しないデータ入力を行った場合の
エラーメッセージの例

α固体廃棄物 A 管理システム

廃棄物情報修正

事業体 1 JobNo. 826 TagNo. 210043 区分 1

添付ファイル 総容量(MB) 0.1/10
ファイル数 2/20

内容物	02	%	%	%	%	テスト.docx	0.0 MB
その他						テスト.pdf	0.1 MB

β・γ核種 &量	98	&	1.7	E	+08	Bq	<input type="checkbox"/> 以下	α核種 &量	45	&	5.0	E	+06	Bq	<input type="checkbox"/> 以下
		&		E		Bq	<input type="checkbox"/> 以下			&		E		Bq	<input type="checkbox"/> 以下
		&		E		Bq	<input type="checkbox"/> 以下			&		E		Bq	<input type="checkbox"/> 以下
		&		E		Bq	<input type="checkbox"/> 以下			&		E		Bq	<input type="checkbox"/> 以下
		&		E		Bq	<input type="checkbox"/> 以下			&		E		Bq	<input type="checkbox"/> 以下
β・γ全量	&	1.7	E	+08	Bq	<input type="checkbox"/> 以下	α全量	&	5.0	E	+06	Bq	<input type="checkbox"/> 以下		
評価方法	<input type="checkbox"/> 別紙参照														

線量当量率	2	μSv/h	<input type="checkbox"/> 以下	1m位置	0.2	μSv/h	<input type="checkbox"/> 以下	容器・梱包	01
重量	2.6	kg	容器容量	(管理値用)	18.4	ℓ	(集計用)	20	ℓ
封入年月日	2021 年 9 月 3 日								

<input checked="" type="checkbox"/> α<0.04Bq/cm ²	<input checked="" type="checkbox"/> β(γ)<0.4Bq/cm ²	<input checked="" type="checkbox"/> PVCバッグに溶封	<input checked="" type="checkbox"/> 密封性・健全性一良					
注意票の有無	0	安定化処理の有無	0	金属混入の有無	0	国際規制物資の有無	0	有:1、無:0
ブルトウム重量	-	g	核分裂性物質重量	-	g			

備考 テスト

登録年月日 2021 年 9 月 7 日

Fig. 3.12 廃棄物情報修正画面

α固体廃棄物 A 管理システム

修正理由を入力して下さい。OKボタンでデータ修正を行います。
※修正理由を入力しない限り、OKボタンは使用可となりません。

Fig. 3.13 修正理由の入力画面（廃棄物情報及び処理情報の修正時に表示）

α 固体廃棄物 A 管理システム

回収・受取情報入力

○ 新規 ● 修正

JobNo.	825		
回収・受取年月日	2007 年 12 月 27 日	検索	
回収・受取担当者	7828		

TagNo.	重量(kg)	場所
075698	3.8	1A
075700	4.5	1A
075701	4.3	1A
075702	2.2	1A
075703	2.3	1A
075704	2.3	1A
075705	24	BB
075706	24	BB
075707	1.6	1A
075711	2.6	1A
075712	2.2	1B
075713	2.4	1B
075714	1.8	1A
075715	4.5	1A
075716	4.4	1A
075717	3	1A

回収・受取年月日	2007 年 12 月 27 日		
回収・受取担当者	7828	修正	

廃棄物表面の 線量当量率区分	格納階	α 一時格納庫格納場所【記号】		
		可燃	フィルタ	不燃
1 μ Sv/h 以下	地上 1 階 格納室	東壁側 【1A】	中央部 【1B】	西壁側 【1C】
1 μ Sv/h を超えるもの (500 μ Sv/h 未満)	地下 1 階 格納室	東壁側 【BA】	中央部 【BB】	西壁側 【BC】

Fig. 3.14 回収・受取情報入力画面

α固体廃棄物 A 管理システム

搬入・分類情報入力(不燃・フィルタ)

BatchNo.	H21006			搬入担当者	0176	Tag/個数	1
搬入年月日	2021 年	9 月	7 日	分類担当者	0176		
分類年月日	2021 年	9 月	7 日				

LotNo. 及び 個数			
直接1 (LS)		-	
直接2 (LP)	LP21006	-	01
切断 (LC)		-	
細断 (LM)		-	
脱水 (LW)		-	
その他 (LZ)		-	

JobNo.	TagNo.
826	210044

備考

登録

Fig. 3.15 搬入・分類情報入力画面

α固体廃棄物 A 管理システム

焼却処理情報入力

RunNo.	21003-01			焼却担当者	0176
焼却年月日	2021 年	9 月	7 日		
装置運転時間	1 h	焼却処理時間	1 h	LPG量	1 m ³

LotNo. 及び 個数			
LS21007	-	01	01
	-		
	-		
	-		
	-		

LotNo. 及び 個数			
	-		
	-		
	-		
	-		
	-		

備考

登録

Fig. 3.16 焼却処理情報入力画面

α固体廃棄物 A 管理システム

焼却灰回収・保管情報入力

BagNo. 及び その量	BG21005	-	1.0
回収年月日	2021 年 9 月 7 日	回収担当者	0176
保管年月日	2021 年 9 月 7 日	保管担当者	0176

RunNo.	RunNo.	RunNo.	RunNo.	RunNo.	RunNo.
21003-01					

線量当量率	1	μSv/h	性状	01	発生場所	01
-------	---	-------	----	----	------	----

備考	
----	--

Fig. 3.17 焼却灰回収・保管情報入力画面

α固体廃棄物 A 管理システム

固化・装填処理情報入力

パッケージNo.	AS219005		
装填年月日	2021 年 9 月 7 日	装填担当者	0176

BagNo. 及び その量											
BG21005	-	1.0		-				-			
	-			-				-			
	-			-				-			
	-			-				-			
	-			-				-			

固化容器No.	K21005				
固化年月日	年 月 日	固化担当者			
浄水	ℓ	ドレン水	ℓ	セメント	kg

容器種類	11	固化概要	01
容器(ドラム缶)No.	21-005	内容器No.	219-005

備考	
----	--

Fig. 3.18 固化・装填処理情報入力画面

α固体廃棄物 A 管理システム

圧縮・装填処理情報入力

パッケージNo.	AP219005		
装填年月日	2021 年 9 月 7 日	装填担当者	0176

圧 縮					装 填				
LotNo. 及び 個数					LotNo. 及び 個数				
LP21006	-	01	/	01		-		/	
	-		/			-		/	
	-		/			-		/	
	-		/			-		/	
	-		/			-		/	

圧縮年月日	2021 年 9 月 7 日	圧縮担当者	0176
-------	----------------	-------	------

容器種類	11	固化概要	01
容器(ドラム缶)No.	21-005	内容器No.	219-005

備考		登録
----	--	----

Fig. 3.19 圧縮・装填処理情報入力画面

α固体廃棄物 A 管理システム

パッケージ封入情報入力

パッケージNo.	AP219005		
封入年月日	2021 年 9 月 7 日	封入担当者	0176

線量当量率	上面	0.7	μSv/h				
	側面	2.9	μSv/h				
	下面	2.1	μSv/h				
	1m位置	0.3	μSv/h				
測定年月日	2021 年 9 月 7 日			重量	110	kg	

固化素材情報(パッケージの充填ラッピングを行った場合に入力)

セメント	kg	砂利	kg	砂	kg
水	kg	調合回数	-	パッケージ個数	-

備考		登録
----	--	----

Fig. 3.20 パッケージ封入情報入力画面

α固体廃棄物A管理システム

パッケージ運搬情報入力

新規 修正

パッケージNo.	種別	施設	アドレス				年月日	担当者
AS213001	保管		-	-			年 月 日	
	移動	4 ▾	26 ▾	- ▾	13 ▾	- ▾	1d ▾	2021年 3月 4日
	保管		-	-			年 月 日	
	移動	▾	▾	- ▾	- ▾	- ▾		年 月 日
	保管		-	-			年 月 日	
	移動	▾	▾	- ▾	- ▾	- ▾		年 月 日
	保管		-	-			年 月 日	
	移動	▾	▾	- ▾	- ▾	- ▾		年 月 日
	保管		-	-			年 月 日	
	移動	▾	▾	- ▾	- ▾	- ▾		年 月 日
	保管		-	-			年 月 日	
	移動	▾	▾	- ▾	- ▾	- ▾		年 月 日
	保管		-	-			年 月 日	
	移動	▾	▾	- ▾	- ▾	- ▾		年 月 日
	保管		-	-			年 月 日	
	移動	▾	▾	- ▾	- ▾	- ▾		年 月 日
	保管		-	-			年 月 日	
	移動	▾	▾	- ▾	- ▾	- ▾		年 月 日

登録

Fig. 3.21 パッケージ運搬情報入力画面

o国体廃棄物A管理システム

履歴比較

対象テーブル: 修正項目のみ 空白データ非表示

No.	項目	Rev.1	Rev.0
1	受付番号	2021000137	2021000137
2	事業体	1	1
3	JobNo	534	534
4	TagNo	210001	210001
5	区分	1	1
6	内容物コード_1	02	02
7	内容物率_1		
8	内容物コード_2	12	12
9	内容物率_2		
10	内容物コード_3	04	04
11	内容物率_3		
12	内容物コード_4		
13	内容物率_4		
14	内容物コード_5		
15	内容物率_5		
16	内容物コード_6		
17	内容物率_6		
18	その他		
19	βγ核種コード_1	15	15
20	βγ核種量_1	3300000	3300000
21	βγ核種量以下_1	1	1
22	βγ核種コード_2	31	31
23	βγ核種量_2	6300000	6300000
24	βγ核種量以下_2	1	1
25	βγ核種コード_3		
26	βγ核種量_3		
27	βγ核種量以下_3		
28	βγ核種コード_4		
29	βγ核種量_4		
30	βγ核種量以下_4		

Fig. 3.22 履歴比較画面

様式 1-2-3 【α 固体廃棄物 A 記録票】 の入力確認表

TL	担当
----	----

yyyy年m月d日 入力	内容物種類・割合(%)・その他				β・γ 核種及び量(Bq)			α 核種及び量(Bq)			総量当量率 (μSv/h)	容器 梱包	注意票、安定 化处理、金属 混入	封入 年月日 yyyy年 m月 d日	重量 (kg)	容器容量 (ℓ)	核燃料 (g)	受入予定 年月日	確認
	種類	割合	種類	割合	種類	量	核種	量	核種	量									
XXX	X	9	X	9	N	<9.99E±99	N	<9.99E±99	N	<9.99E±99	N	<9.9		9	9.9	Pu	-		
XXXXX	X	9	X	9	N	<9.99E±99	N	<9.99E±99	N	<9.99E±99	N	<9.9	X	9	9.9	Fis	-		
区分	X	9	X	9	N	<9.99E±99	合計	<9.99E±99	N	<9.99E±99	合計			9					
区分					合計						合計	表面 At1m							
区分					合計						合計	表面 At1m							
区分					合計						合計	表面 At1m							
区分					合計						合計	表面 At1m							
区分					合計						合計	表面 At1m							
区分					合計						合計	表面 At1m							
区分					合計						合計	表面 At1m							

Fig. 3.23 【α 固体廃棄物 A 記録票】 の入力確認表

様式 1-2-4(1/2)

α 固体廃棄物 A 回収・受取票

課長	TL	担当

回収・受取年月日 (西暦)	年	月	日
回収・受取担当者 (No.)			

Job No.	可燃 (カートン)			不燃			フィルター			合計		
	数量 (個)	容量 (m ³)	重量 (kg)									
XXX	9	9.9	9.9	9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9	9.9	9.9
XXX	9	9.9	9.9	9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9	9.9	9.9
合計	9	9.9	9.9	9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9	9.9	9.9

Fig. 3.24 α 固体廃棄物 A 回収・受取票 (1/2)

記録名		α 固体廃棄物A受入記録一覧表	
基礎年月日	yyyy年mm月d日	～	yyyy年mm月d日
条件		条件: N	
事業体	Job No.	Tag No.	区分
N	XXX	XXXXXX	N
N	XXX	XXXXXX	N
N	XXX	XXXXXX	N
N	XXX	XXXXXX	N

事業体	割合_1 (%)	内容物_1	割合_2 (%)	内容物_2	割合_3 (%)	内容物_3	割合_4 (%)	内容物_4	割合_5 (%)	内容物_5	割合_6 (%)	内容物_6	割合_7 (%)	その他
N	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9	N
N	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9	N
N	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9	N
N	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9	N

β・γ核種_1	β・γ核種_2	β・γ核種_3	β・γ核種_4	β・γ核種_5	β・γ	α核種_1	α核種_2	α核種_3
N	<9.9E±99	N	<9.9E±99	N	<9.9E±99	N	<9.9E±99	N
N	<9.9E±99	N	<9.9E±99	N	<9.9E±99	N	<9.9E±99	N
N	<9.9E±99	N	<9.9E±99	N	<9.9E±99	N	<9.9E±99	N
N	<9.9E±99	N	<9.9E±99	N	<9.9E±99	N	<9.9E±99	N

α核種_4	α核種_5	α全量 (Bq)	評価方法	別紙参照	総量当量率-表面 (μSv/h)	総量当量率-1m位置 (μSv/h)	容器・梱包	封入年月日	重量 (kg)	容量-管理備用 (ℓ)	容量-集計用 (ℓ)	表面密度 α	表面密度 β・γ
N	<9.9E±99	<9.9E±99	N	X	<9.9	<9.9	N	yyyy/mm/dd	9.9	9.9	9.9	X	X
N	<9.9E±99	<9.9E±99	N	X	<9.9	<9.9	N	yyyy/mm/dd	9.9	9.9	9.9	X	X
N	<9.9E±99	<9.9E±99	N	X	<9.9	<9.9	N	yyyy/mm/dd	9.9	9.9	9.9	X	X
N	<9.9E±99	<9.9E±99	N	X	<9.9	<9.9	N	yyyy/mm/dd	9.9	9.9	9.9	X	X

PVC封入	密封性	注意票	安定化処理	金属混入	国規物	Pu重量	Fis重量	備考	受付年月日	回収・受取年月日	回収・受取担当者	保管場所	搬入年月日	Batch No.	Batch内 Tag個数
X	X	X	X	X	X	XXXX	XXXX	N	yyyy/mm/d	yyyy/mm/d	N	XX	yyyy/mm/d	XXXXXX	9
X	X	X	X	X	X	XXXX	XXXX	N	yyyy/mm/d	yyyy/mm/d	N	XX	yyyy/mm/d	XXXXXX	9
X	X	X	X	X	X	XXXX	XXXX	N	yyyy/mm/d	yyyy/mm/d	N	XX	yyyy/mm/d	XXXXXX	9
X	X	X	X	X	X	XXXX	XXXX	N	yyyy/mm/d	yyyy/mm/d	N	XX	yyyy/mm/d	XXXXXX	9

Fig. 3.25 α 固体廃棄物A 受入記録一覧表

記録名		α 固体廃棄物 A 管理台帳									
基準年月日		yyyy年 m月 d日 ~ yyyy年 m月 d日 条件: N									
Job No.	Tag No.	区分	主要内容物	β・γ_全量 (Bq)	α_全量 (Bq)	納量当量率 (μSV/h)	容器・梱包	重量 (kg)	容量-集計用 (ℓ)		
XXX	XXXXXX	X	N, N	<9.9E±99	<9.9E±99	<9.9	X	9.9	9.9	①	
XXX	XXXXXX	X	N, N	<9.9E±99	<9.9E±99	<9.9	X	9.9	9.9		
XXX	XXXXXX	X	N, N	<9.9E±99	<9.9E±99	<9.9	X	9.9	9.9		

注意票	安定化処理	金属混入	回収・受取年月日	搬入年月日	Bac th No.	分類年月日	Lot No.及び個数	処理区分	焼却年月日
X	X	X	yyyy/m/d	yyyy/m/d	XXXXX	yyyy/m/d	XXXXXXXX-9, XXXXXX-9	X	yyyy/m/d, yyyy/m/d
X	X	X	yyyy/m/d	yyyy/m/d	XXXXX	yyyy/m/d	XXXXXXXX-9, XXXXXX-9	X	yyyy/m/d, yyyy/m/d
X	X	X	yyyy/m/d	yyyy/m/d	XXXXX	yyyy/m/d	XXXXXXXX-9, XXXXXX-9	X	yyyy/m/d, yyyy/m/d

固化年月日	圧縮年月日	装填年月日	Run No.	Bag No.及びその量	パッケージNo.	封入年月日
yyyy/m/d, yyyy/m/d	yyyy/m/d, yyyy/m/d	yyyy/m/d, yyyy/m/d	XXXXXXXX, XXXXXX	XXXXX-9, XXXXX-9	XXXXXXXX, XXXXXX	yyyy/m/d, yyyy/m/d
yyyy/m/d, yyyy/m/d	yyyy/m/d, yyyy/m/d	yyyy/m/d, yyyy/m/d	XXXXXXXX, XXXXXX	XXXXX-9, XXXXX-9	XXXXXXXX, XXXXXX	yyyy/m/d, yyyy/m/d
yyyy/m/d, yyyy/m/d	yyyy/m/d, yyyy/m/d	yyyy/m/d, yyyy/m/d	XXXXXXXX, XXXXXX	XXXXX-9, XXXXX-9	XXXXXXXX, XXXXXX	yyyy/m/d, yyyy/m/d

Fig. 3.31 α 固体廃棄物 A 管理台帳

α 固体廃棄物A廃棄物パッケージ封入・保管記録										
基礎年月日 yyyymmdd ~ yyyymmdd										
記録名	α 固体廃棄物A廃棄物パッケージ封入・保管記録									
基礎年月日	yyyymmdd ~ yyyymmdd									
パッケージNo.	総重量	封入年月日	封入担当者	装填年月日	装填担当者	内容器No.	容器 (ドラム缶)No.	固化素材 セメント (kg)	固化素材 砂利 (kg)	固化素材 砂 (kg)
XXXXXXX	9.9	yyyy/m/d	N	yyyy/m/d	N	X	X	9.9	9.9	9.9
XXXXXXX	9.9	yyyy/m/d	N	yyyy/m/d	N	X	X	9.9	9.9	9.9
XXXXXXX	9.9	yyyy/m/d	N	yyyy/m/d	N	X	X	9.9	9.9	9.9
XXXXXXX	9.9	yyyy/m/d	N	yyyy/m/d	N	X	X	9.9	9.9	9.9
XXXXXXX	9.9	yyyy/m/d	N	yyyy/m/d	N	X	X	9.9	9.9	9.9
(A)										
固化素材 水 (kg)	調査回数	パッケージ 個数	総重量 -上面 (μSv/h)	総重量 -側面 (μSv/h)	総重量 -下面 (μSv/h)	線量当量率 -1m位置 (μSv/h)	移管年月日	移管施設	移管アド레스	移管担当者
9.9	9	9	9.9	9.9	9.9	9.9	yyyy/m/d	X	XXXXXXXX	N
9.9	9	9	9.9	9.9	9.9	9.9	yyyy/m/d	X	XXXXXXXX	N
9.9	9	9	9.9	9.9	9.9	9.9	yyyy/m/d	X	XXXXXXXX	N
9.9	9	9	9.9	9.9	9.9	9.9	yyyy/m/d	X	XXXXXXXX	N
9.9	9	9	9.9	9.9	9.9	9.9	yyyy/m/d	X	XXXXXXXX	N
(B)										
移動年月日 (現在)	移動施設 (現在)	移動アド레스 (現在)	移動担当者 (現在)	移動年月日 (一ヶ月前)	移動施設 (一ヶ月前)	移動アド레스 (一ヶ月前)	移動担当者 (一ヶ月前)	移動年月日 (二ヶ月前)	移動施設 (二ヶ月前)	移動アド레스 (二ヶ月前)
yyyy/m/d	X	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX
yyyy/m/d	X	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX
yyyy/m/d	X	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX
yyyy/m/d	X	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX
yyyy/m/d	X	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX
(C)										
移動担当者 (二ヶ月前)	移動年月日 (三ヶ月前)	移動施設 (三ヶ月前)	移動アド레스 (三ヶ月前)	移動担当者 (三ヶ月前)	移動年月日 (四ヶ月前)	移動施設 (四ヶ月前)	移動アド레스 (四ヶ月前)	移動担当者 (四ヶ月前)	移動年月日 (四ヶ月前)	移動施設 (四ヶ月前)
N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N
N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N
N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N
N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N
N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N	XXXXXXXX	N	yyyy/m/d	N

Fig. 3.32 α 固体廃棄物A廃棄物パッケージ封入・保管記録

α 固体廃棄物 A 在庫表〔作業エリア〕

作業エリア	容器 (梱包) No.	基準年月日			合計 (受入可能量)
		yyyy	mm	dd	
α 一時格納庫 (Tag)	可燃: 9 個 不燃: 9 個 74#*: 9 個				9 個 (9.9 m ³)
α ホール (Lot)	XXXXXXXX-9/9, XXXXXXX-9/9, XXXXXXX-9/9, XXXXXXX-9/9				9 個
分類ボックス (Lot)	XXXXXXXX-9/9, XXXXXXX-9/9, XXXXXXX-9/9, XXXXXXX-9/9				9 個
α 焼却灰* (Bag)	XXXXXXXX-9.9/9.9, XXXXXXX-9.9/9.9, XXXXXXX-9.9/9.9, XXXXXXX-9.9/9.9, XXXXXXX-9.9/9.9				9.9 kg
パッケージ	XXXXXXXX, XXXXXXX, XXXXXXX, XXXXXXX				9 本

* 同一Bag No.はその量が合算されて表示されるので、実際の梱包と個数の差が生じることに留意すること。

Fig. 3.33 α 固体廃棄物 A 在庫表〔作業エリア〕

α 固体廃棄物 A 処理記録〔処理装置別〕

処理装置名、区分	処理数量 (個)	処理容量 (m ³)	処理重量 (kg)	焼却灰発生量*1 (kg)	減容比*1、*2 (-)	減重比*1 (-)	基準年月日	
							2020年 1月 1日	2021年 1月 1日
α 焼却装置	受入廃棄物	50	116.3	-----	-----	-----		
	二次廃棄物	15	0	-----	-----	-----		
合計	65	1	116.3	11.9	16.81	9.77		

*1 焼却灰発生量、減容比及び減重比は、指定期間内で発生した焼却灰のうち、PVCバッグに封入した焼却灰について計算。

*2 焼却灰のかさ比重を0.2t/m³(参考値)として計算。

*3 不燃廃棄物を分類して発生した可燃廃棄物を表す。

処理装置名、処理区分	処理数量 (個)	処理容量 (m ³)	処理重量 (kg)	パッケージ 発生数 (-)	減容比*1 (-)
α ホ ー ル 設 備	圧縮処理	27	198.7	3	3.30
	固化処理	0	0	0	0.00
	受入廃棄物	151	546.5	17	1.98
	焼却灰*2	17	50.3	2	1.26
合計	195	795.5	22	2.09	

*1 パッケージの内容積を0.1m³として計算。

*2 焼却灰のかさ比重を0.2t/m³(参考値)として計算。

Fig. 3.34 α 固体廃棄物 A 処理記録〔処理装置別〕

α 固体廃棄物A搬入記録〔年度集計〕

(上段：個、中段：㎡、下段：kg)

N 9 年度

	第 1 四半期			第 2 四半期			第 3 四半期			第 4 四半期			年 度 累 計		
	可燃	不燃	フィルタ												
廃棄物管理施設	9.9 (㎡)	9.9 (個)	9.9 (㎡)												
燃料研究棟															
その他 北地区															
北地区 計															
AGF															
DCA															
FMF															
MMF															
WDF															
その他 南地区															
南地区 計															
所外 計															
合計															

Fig. 3.35 α 固体廃棄物A搬入記録〔年度集計〕

α 固体廃棄物 A 処理記録 (年度集計)
 (上段：個、中段：m、下段：kg)

N 9 年度

	第 1 四半期			第 2 四半期			第 3 四半期			第 4 四半期			年度累計		
	可燃	不燃	フィルタ	可燃	不燃	フィルタ									
北地区	(個)	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
廃棄物管理施設	(m)	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9
	(kg)	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9
燃料研究棟	(m)														
	(kg)														
その他 北地区	(個)														
	(m)														
	(kg)														
北地区 計	(個)														
	(m)														
	(kg)														
AGF	(個)														
	(m)														
	(kg)														
DCA	(個)														
	(m)														
	(kg)														
FMF	(個)														
	(m)														
	(kg)														
MMF	(個)														
	(m)														
	(kg)														
WDF	(個)														
	(m)														
	(kg)														
その他 南地区	(個)														
	(m)														
	(kg)														
南地区 計	(個)														
	(m)														
	(kg)														
所外 計	(個)														
	(m)														
	(kg)														
合計	(個)														
	(m)														
	(kg)														

Fig. 3.36 α 固体廃棄物 A 処理記録 (年度集計)

記録名	α 固体廃棄物A 廃棄物パッケージ記録一覧	
基準年月日	yyyy年m月d日	～ yyyy年m月d日

パッケージNo	総重量	封入年月日	封入担当者	容器種類	廃棄物量	固化素材量	内容物_1	割合_1	内容物_2	割合_2	内容物_3	割合_3
XXXXXXXX	9.9	yyyy/m/d	N	N	9.9	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9
XXXXXXXX	9.9	yyyy/m/d	N	N	9.9	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9
XXXXXXXX	9.9	yyyy/m/d	N	N	9.9	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9
XXXXXXXX	9.9	yyyy/m/d	N	N	9.9	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9
XXXXXXXX	9.9	yyyy/m/d	N	N	9.9	9.9	N	9.9	N	9.9	N	9.9

(A)

内容物_4	割合_4	内容物_5	割合_5	装填年月日	装填担当者	圧縮年月日	圧縮担当者	固化年月日	固化担当者	Batch No.	Lot No.
N	9.9	N	9.9	yyyy/m/d	N	yyyy/m/d	N	yyyy/m/d	N	XXXXXX, XXXXXX	XXXXXXXX-9/9, XXXXXX-9/9
N	9.9	N	9.9	yyyy/m/d	N	yyyy/m/d	N	yyyy/m/d	N	XXXXXX, XXXXXX	XXXXXXXX-9/9, XXXXXX-9/9
N	9.9	N	9.9	yyyy/m/d	N	yyyy/m/d	N	yyyy/m/d	N	XXXXXX, XXXXXX	XXXXXXXX-9/9, XXXXXX-9/9
N	9.9	N	9.9	yyyy/m/d	N	yyyy/m/d	N	yyyy/m/d	N	XXXXXX, XXXXXX	XXXXXXXX-9/9, XXXXXX-9/9
N	9.9	N	9.9	yyyy/m/d	N	yyyy/m/d	N	yyyy/m/d	N	XXXXXX, XXXXXX	XXXXXXXX-9/9, XXXXXX-9/9

(A)

(B)

Bag No.	β・γ										
	核種_1	量_1 (Bq)	核種_2	核種_3	量_2 (Bq)	核種_4	核種_5	量_3 (Bq)	量_4 (Bq)	量_5 (Bq)	全量
XXXXXXXX-9, XXXXXX-9.9	N	9.9E±99	N	N	9.9E±99	N	N	9.9E±99	9.9E±99	9.9E±99	9.9E±99
XXXXXXXX-9, XXXXXX-9.9	N	9.9E±99	N	N	9.9E±99	N	N	9.9E±99	9.9E±99	9.9E±99	9.9E±99
XXXXXXXX-9, XXXXXX-9.9	N	9.9E±99	N	N	9.9E±99	N	N	9.9E±99	9.9E±99	9.9E±99	9.9E±99
XXXXXXXX-9, XXXXXX-9.9	N	9.9E±99	N	N	9.9E±99	N	N	9.9E±99	9.9E±99	9.9E±99	9.9E±99
XXXXXXXX-9, XXXXXX-9.9	N	9.9E±99	N	N	9.9E±99	N	N	9.9E±99	9.9E±99	9.9E±99	9.9E±99

(B)

(C)

(C)

Fig. 3.38 α 固体廃棄物A 廃棄物パッケージ記録一覧表 (1/2)

α															
核種_1	量_1 (Bq)		核種_2	量_2 (Bq)		核種_3	量_3 (Bq)		核種_4	量_4 (Bq)		核種_5	量_5 (Bq)		全量
	側面	下面													
N	9.9E±99	9.9E±99	9.9E±99												
N	9.9E±99	9.9E±99	9.9E±99												
N	9.9E±99	9.9E±99	9.9E±99												
N	9.9E±99	9.9E±99	9.9E±99												
N	9.9E±99	9.9E±99	9.9E±99												

α														
核種	線量当量率 (μSv/h)		測定担当者	移管年月日		移管施設	移管アドレス		移管担当者	移動年月日		移動施設	移動アドレス	
	側面	下面		側面	下面		側面	下面		側面	下面		側面	下面
9.9	9.9	9.9	N	yyyy/m/d	yyyy/m/d	N	XXXXXXXXXX	N	yyyy/m/d	yyyy/m/d	N	XXXXXXXXXX	N	XXXXXXXXXX
9.9	9.9	9.9	N	yyyy/m/d	yyyy/m/d	N	XXXXXXXXXX	N	yyyy/m/d	yyyy/m/d	N	XXXXXXXXXX	N	XXXXXXXXXX
9.9	9.9	9.9	N	yyyy/m/d	yyyy/m/d	N	XXXXXXXXXX	N	yyyy/m/d	yyyy/m/d	N	XXXXXXXXXX	N	XXXXXXXXXX
9.9	9.9	9.9	N	yyyy/m/d	yyyy/m/d	N	XXXXXXXXXX	N	yyyy/m/d	yyyy/m/d	N	XXXXXXXXXX	N	XXXXXXXXXX
9.9	9.9	9.9	N	yyyy/m/d	yyyy/m/d	N	XXXXXXXXXX	N	yyyy/m/d	yyyy/m/d	N	XXXXXXXXXX	N	XXXXXXXXXX

移動担当者	パッケージ比重	内容器No.	ドラム缶No.	備考	Job-Tag No.
N	9.9	X	X	N	XXX-XXXXXX, XXX-XXXXXX
N	9.9	X	X	N	XXX-XXXXXX, XXX-XXXXXX
N	9.9	X	X	N	XXX-XXXXXX, XXX-XXXXXX
N	9.9	X	X	N	XXX-XXXXXX, XXX-XXXXXX
N	9.9	X	X	N	XXX-XXXXXX, XXX-XXXXXX

Fig. 3.38 α 固体廃棄物A廃棄物パッケージ記録一覧表 (2/2)

コードテーブル名:

登録

コードテーブル名

C_01_事業体
C_02_課室名
C_03_場所
C_04_担当者
C_05_区分
C_06_主要内容物
C_07_容器梱包
C_08_主要核種
C_10_保管施設
C_15_容器種類
C_18_固化概要
C_21_性状

(a) メンテナンス機能画面

コードテーブル名:

コード	事業体	事業体印刷用	
1	原子力機構 北地区	北地区	削除
2	原子力機構 南地区	南地区	削除
			削除
			削除
			追加

登録

(b) 事業体コードの修正例

Fig. 3.39 メンテナンス機能画面とコード修正例

付録1 α 固体廃棄物A管理システムにおける管理番号及び処理年月日の体系的整理

廃棄物データ管理システムでは、廃棄物の受入れから処理及び保管までのデータ管理を6種類の管理番号 (Tag No.、Batch No.、Lot No.、Run No.、Bag No.、パッケージ No.) をそれぞれ紐付けしながら管理している。これら管理番号と各処理年月日を体系的に整理 (時系列の流れに沿って整理) した結果を Fig. A1-1 に示す。

入力画面 (記号)	処理年月日の流れ		管理番号の流れ	
	可燃廃棄物	不燃・フィルタ廃棄物	可燃廃棄物	不燃・フィルタ廃棄物
廃棄物情報入力画面 (IN-01)	封入年月日_Tag	封入年月日_Tag	Tag No.	Tag No.
	↓	↓	↓	↓
回収・受取情報入力画面 (IN-02)	登録年月日	登録年月日	↓	↓
	↓	↓	↓	↓
搬入・分類情報入力画面 (IN-03)	回収・受取年月日	回収・受取年月日	↓	↓
	↓	↓	↓	↓
焼却処理情報入力画面 (IN-04)	搬入年月日	搬入年月日	Batch No.	Batch No.
	↓	↓	↓	↓
焼却灰回収・保管情報入力画面 (IN-05)	分類年月日	分類年月日	Lot No.	Lot No.
	↓	↓	↓	↓
	焼却年月日	↓	Run No.	↓
	↓	↓	↓	↓
	回収年月日	↓	Bag No.	↓
	↓	↓	↓	↓
固化・装填情報入力画面 (IN-06)	保管年月日	↓	↓	↓
	↓	↓	↓	↓
	固化年月日*	↓	固化容器No.*	↓
	↓	↓	↓	↓
圧縮・装填情報入力画面 (IN-07)	装填年月日	↓	パッケージNo.	↓
	↓	↓	↓	↓
	↓	圧縮年月日	↓	↓
	↓	↓	↓	↓
パッケージ封入情報入力画面 (IN-08)	↓	装填年月日	↓	↓
	↓	↓	↓	↓
パッケージ運搬情報入力画面 (IN-09)	封入年月日_パッケージ	封入年月日_パッケージ	↓	↓
	↓	↓	↓	↓
	測定年月日	測定年月日	↓	↓
	↓	↓	↓	↓
	移管年月日	移管年月日	↓	↓
	↓	↓	↓	↓
	運搬年月日	運搬年月日	↓	↓
	↓	↓	↓	↓

* 固化処理は1998年頃まで可燃廃棄物 (焼却灰) を対象に行っていたが、現在は行っていない。

Fig A1-1 α 固体廃棄物A管理システムにおける管理番号及び処理年月日の体系的整理

付録 2 α 固体廃棄物A情報出力機能における各種帳票・出力データの内部処理過程

本編の Fig. 3.23 から Fig. 3.38 では、α 固体廃棄物A管理システムで出力可能な帳票を示した。帳票に反映されるデータは、管理番号や処理年月日などのデータベースに格納された値を直接出力するものもある一方で、廃棄物処理量の集計値や廃棄物パッケージの放射エネルギーなどはデータベースに格納された値を基にシステム内で集計（計算）し出力する。

付録 2 では、帳票を作成する際のシステム内部処理の過程を示す。

1. 【α 固体廃棄物A記録票】の入力確認表

① 基準年月日（対象：登録年月日）

- a. α 固体廃棄物A情報出力画面にて入力された日付を、基準年月日（範囲）として出力する。

② PAGE

- a. 1 から通し番号で出力する。

③ Job No.、Tag No.及び区分

- a. 登録年月日が基準年月日に一致するデータについて、Job No.、Tag No.及び区分コードを出力する。

④ 内容物種類・割合（%）・その他

- a. 「③ Job No.、Tag No.及び区分」に関連する内容物について、区分が「1（可燃）」の場合は、内容物コード及びその他を、「2（不燃）」又は「3（フィルタ）」の場合は、内容物コード、内容物率及びその他を出力する。

⑤ β・γ 核種及び量（Bq）

- a. 「③ Job No.、Tag No.及び区分」に関連する β γ 核種名（コード表から一致する No. の核種名）及び β γ 核種量並びに β γ 全量（β γ 核種量の合計）を出力する。
- b. 核種量及び全量が検出限界値以下（以下フラグの値が 1）の場合は、核種量及び全量の前に"<"（不等号）を出力する。

⑥ α 核種及び量（Bq）

- a. 「③ Job No.、Tag No.及び区分」に関連する α 核種名（コード表から一致する No. の核種名）及び α 核種量並びに α 全量（α 核種量の合計）を出力する。
- b. 核種量及び全量が検出限界値以下（以下フラグの値が 1）の場合は、核種量及び全量の前に"<"（不等号）を出力する。

- ⑦ 線量当量率 (μ Sv/h)
 - a. 「③ Job No.、Tag No.及び区分」に関連する線量当量率_表面及び線量当量率_1m 位置を出力する。
 - b. 線量当量率が検出限界値以下（以下フラグの値が 1）の場合は、線量当量率の前に"<"（不等号）を出力する。

- ⑧ 容器梱包
 - a. 「③ Job No.、Tag No.及び区分」に関連する容器梱包コードを出力する。

- ⑨ 注意票、安定化处理、金属混入
 - a. 「③ Job No.、Tag No.及び区分」に関連する注意票、安定化处理及び金属混入を出力する。値は NULL の場合は、「-（ハイフン）」を出力する。

- ⑩ 封入年月日
 - a. 「③ Job No.、Tag No.及び区分」に関連する封入年月日を出力する。

- ⑪ 重量 (kg)
 - a. 「③ Job No.、Tag No.及び区分」に関連する重量を出力する。

- ⑫ 容器容量 (ℓ)
 - a. 「③ Job No.、Tag No.及び区分」に関連する容量_管理値用及び容量_集計用を出力する。

- ⑬ 核燃料 (g)
 - a. 「③ Job No.、Tag No.及び区分」に関連する Pu にプルトニウム重量、Fis に核分裂性物質重量を出力する。

- ⑭ 受入予定年月日
 - a. 空白。

- ⑮ 確認
 - a. 空白。

2. α 固体廃棄物A回収・受取票

(1) 処理内容（表紙）

① 回収・受取年月日（西暦）

a. 空白。

② 回収・受取担当者

a. 空白。

③ 集計結果—Job No.

a. 回収・受取年月日が空白のデータについて、該当する Job No.を出力する。

④ 集計結果—可燃（カートン）（個、m³及びkg）

a. 回収・受取年月日が空白のデータについて、区分が「1（可燃）」の数量（個）、容量（m³）及び重量（kg）を集計し、出力する。

⑤ 集計結果—不燃（個、m³及びkg）

a. 回収・受取年月日が空白のデータについて、区分が「2（不燃）」の数量（個）、容量（m³）及び重量（kg）を集計し、出力する。

⑥ 集計結果—フィルター（個、m³及びkg）

a. 回収・受取年月日が空白のデータについて、区分が「3（フィルタ）」の数量（個）、容量（m³）及び重量（kg）を集計し、出力する。

⑦ 合計（個、m³及びkg）

a. Job No.別及び区分別に集計された廃棄物量（数量、容量及び重量）について、Job No.及び区分に対して更に集計し、出力する。

(2) 処理内容（詳細）

① Job No.

a. 回収・受取年月日が空白のデータについて、該当する Job No.及びコード表から一致する No.の施設名を出力する。

② PAGE

a. 1 から通し番号で出力する。

③ 確認

a. 空白。

- ④ Tag No.
- a. 回収・受取年月日が空白のデータについて、「① Job No.」に関連する Tag No.を出力する。
- ⑤ 場所
- a. 空白。
- ⑥ 重量 (kg)
- a. 「① Job No.」及び「④ Tag No.」に関連する重量を出力する。
- ⑦ 区分
- a. 「① Job No.」及び「④ Tag No.」に関連する区分名（コード表から一致する No.の区分名）を出力する。
- ⑧ 線量当量率 (μ Sv/h)
- a. 「① Job No.」及び「④ Tag No.」に関連する線量当量率を出力する。
- ⑨ 容器・梱包
- a. 「① Job No.」及び「④ Tag No.」に関連する容器梱包名（コード表から一致する No.の容器梱包名）を出力する。
- ⑩ 容量 (ℓ)
- a. 「① Job No.」及び「④ Tag No.」に関連する容量_集計用を出力する。
- b. 登録値の単位がℓのため、 m^3 に単位換算 (a.の値 / 1000) を行う。
- ⑪ 保安規定等確認状況（容器、密健、記濃、表示、線量、外観及び安支）
- a. 容器、記濃、表示、線量及び外観は全て「良」、安支は全て「無」を出力する。
- b. 密健は、「① Job No.」及び「④ Tag No.」に関連する密封性・健全性が「1」の場合は「良」を出力し、「1」以外の場合は「無」を出力する。
- ⑫ 保安規定等確認状況（安処、注票及び金混）
- a. 安処は、「① Job No.」及び「④ Tag No.」に関連する安定化処理が「NULL」の場合は「-（ハイフン）」、「0」の場合は「無」、「1」の場合は「有」を出力する。
- b. 注票は、安処と同様の処理で、注意票について出力する。
- c. 金混は、「① Job No.」及び「④ Tag No.」に関連する金属混入で、区分が「1（可燃）」で、金属混入が「NULL」の場合は「-（ハイフン）」、「0」の場合は「無」、「1」の場合は「有」を出力する。区分が「2（不燃）」又は「3（フィルタ）」の場合は「-（ハイフン）」を出力する。

3. α 固体廃棄物 A 受入記録一覧表

- ① 基準年月日（対象：受付年月日、回収・受取年月日又は搬入年月日）
 - a. α 固体廃棄物 A 情報出力画面にて入力された条件を、基準年月日（範囲）として出力する。
 - b. 条件の後に、選択した年月日を入力する。
- ② 事業体
 - a. ①で指定された年月日が基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）で、該当する事業体（コード表から一致する No.の事業体_印刷名称）を入力する。
- ③ Job No.及び Tag No.
 - a. ①で指定された年月日が基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）で、該当する Job No.及び Tag No.を入力する。
- ④ 区分
 - a. 「③ Job No.及び Tag No.」に関連する区分名（コード表から一致する No.の区分名）を入力する。
- ⑤ 内容物・割合（%）及びその他
 - a. 「③ Job No.及び Tag No.」に関連する内容物名（コード表から一致する No.の内容物名）及び内容物率を入力する。
- ⑥ $\beta \cdot \gamma$ 核種及び量 (Bq)
 - a. 「③ Job No.及び Tag No.」に関連する $\beta \gamma$ 核種名（コード表から一致する No.の核種名）及び $\beta \gamma$ 核種量並びに $\beta \gamma$ 全量を入力する。
 - b. 核種量及び全量が検出限界値以下（以下フラグの値が 1）の場合は、核種量及び全量の前に"<"（不等号）を入力する。
- ⑦ α 核種及び量 (Bq)
 - a. 「③ Job No.及び Tag No.」に関連する α 核種名（コード表から一致する No.の核種名）及び α 核種量並びに α 全量を入力する。
 - b. 核種量及び全量が検出限界値以下（以下フラグの値が 1）の場合は、核種量及び全量の前に"<"（不等号）を入力する。
- ⑧ 評価方法・別紙参照
 - a. 「③ Job No.及び Tag No.」に関連する評価方法・別紙参照を入力する。
- ⑨ 線量当量率_表面及び 1m 位置 (μ Sv/h)

- a. 「③ Job No.及び Tag No.」に関連する線量当量率_表面及び線量当量率_1m 位置を出力する。
 - b. 線量当量率が検出限界値以下（以下フラグの値が 1）の場合は、線量当量率の前に"<"（不等号）を出力する。
- ⑩ 容器・梱包
- a. 「③ Job No.及び Tag No.」に関連する容器梱包名（コード表から一致する No.の容器包装名）を出力する。
- ⑪ 封入年月日
- a. 「③ Job No.及び Tag No.」に関連する封入年月日（Excel の日付形式）を出力する。
- ⑫ 重量（kg）
- a. 「③ Job No.及び Tag No.」に関連する重量を出力する。
- ⑬ 容量_管理値用及び集計用（ℓ）
- a. 「③ Job No.及び Tag No.」に関連する容量_管理値用及び容量_集計用を出力する。
- ⑭ 表面密度 α 、表面密度 $\beta \gamma$ 、PVC 封入、密封性、注意票、安定化处理、金属混入及び国規物
- a. 「③ Job No.及び Tag No.」に関連する表面密度 α 、表面密度 $\beta \gamma$ 、PVC 封入、密封性、注意票、安定化处理、金属混入及び国規物を出力する。
 - b. 値が「NULL」の場合は「-（ハイフン）」を出力する。
- ⑮ Pu 重量及び Fis 重量（g）
- a. 「③ Job No.及び Tag No.」に関連するプルトニウム重量及び核分裂性物質重量を出力する。
- ⑯ 備考
- a. 「③ Job No.及び Tag No.」に関連する備考を出力する。
- ⑰ 登録年月日
- a. 「③ Job No.及び Tag No.」に関連する登録年月日（Excel の日付形式）を出力する。
- ⑱ 回収・受取年月日及び回収・受取担当者
- a. 「③ Job No.及び Tag No.」に関連する回収・受取年月日及び回収・受取担当者を出力する。
 - b. 年月日は Excel の日付形式、担当者はコード表から一致する No.の担当者名を出力する。

⑱ 保管場所

- a. 「③ Job No.及び Tag No.」に関連する保管場所を出力する。

⑳ 搬入年月日

- a. 「③ Job No.及び Tag No.」に関連する搬入年月日（Excelの日付形式）を出力する。

㉑ Batch No.

- a. 「③ Job No.及び Tag No.」に関連する Batch No.を出力する。

㉒ Batch 内 Tag 個数

- a. 「③ Job No.及び Tag No.」に関連する Batch 内 Tag 個数を出力する。

4. α 固体廃棄物A分類記録一覧表

① 基準年月日（対象：分類年月日）

- a. α 固体廃棄物A情報出力画面にて入力された条件を、基準年月日（範囲）として出力する。

② Batch No.

- a. labat テーブルの分類年月日が基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）にあるデータについて、Batch No.を出力する。

③ Tag 個数

- a. 「② Batch No.」に関連する Tag 個数を出力する。

④ 搬入年月日及び搬入担当者

- a. 「② Batch No.」に関連する搬入年月日及び搬入担当者を出力する。
b. 年月日は Excel の日付形式、担当者はコード表から一致する No.の担当者名を出力する。

⑤ 分類年月日及び分類担当者

- a. 「② Batch No.」に関連する分類年月日及び分類担当者を出力する。
b. 年月日は Excel の日付形式、担当者はコード表から一致する No.の担当者名を出力する。

⑥ Lot No.及び個数

- a. 「② Batch No.」に関連する Lot No.及び個数を出力する。
b. Lot No.及び個数が複数ある場合にはカンマ繋ぎ（カンマの後に半角スペース含む）とし、次の通り出力する。

出力例：LS00001-1, LP00001-7

⑦ 可燃、不燃及びフィルタ（個、m³及びkg）

- a. 可燃、不燃及びフィルタについて、以下の内容にて処理量を集計する。
a) 「② Batch No.」を用いて、labat テーブルからデータ数を取得する。
b) 「② Batch No.」を用いて、latag テーブルから Tag No.ごとの容量（容量_集計用）及び重量を取得する。
c) a) , b) で取得した Tag No.の廃棄物量（個数、容量及び重量）を、廃棄物の区分ごと（以下の内容にて分配）に集計し、Batch No.当たりの廃棄物量として出力する。
○ 区分
1：可燃
2：不燃
3：フィルタ
d) 容量は登録値の単位がℓのため、m³に単位換算（算出値 / 1000）を行う。

⑧ 備考

- a. 「② Batch No.」に関連する備考を出力する。

5. α 固体廃棄物A焼却処理装置運転記録一覧表

① 基準年月日（対象：焼却年月日）

- a. α 固体廃棄物A情報出力画面にて入力された条件を、基準年月日（範囲）として出力する。

② Run No.

- a. larun テーブルの焼却年月日が基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）にあるデータについて、Run No.を出力する。

③ 焼却年月日及び焼却担当者

- a. 「② Run No.」に関連する焼却年月日及び焼却担当者を出力する。
 b. 年月日はExcelの日付形式、担当者はコード表から一致するNo.の担当者名を出力する。

④ 運転時間（h）及び処理時間（h）

- a. 「② Run No.」に関連する運転時間及び処理時間を出力する。

⑤ Lot No.及び個数

- a. 「② Run No.」に関連するLot No.及び個数を出力する。
 b. Lot No.及び個数が複数ある場合にはカンマ繋ぎ（カンマの後に半角スペース含む）とし、次の通り出力する。

出力例：LS00001-1, LP00001-7

⑥ 可燃及び二次廃（個、m³及びkg）

- a. 基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）で、焼却装置にて処理された受入廃棄物（可燃）及び二次廃棄物（二次廃）について、以下の内容にて処理量を集計する。

- a) 「② Run No.」に関連するLot No.・Lot内処理個数・Lot内全数をlarunテーブルから取得する。

- b) a) で取得したLot No.を用いて、lalotテーブルから関連するBatch No.を取得する。

- c) b) で取得したBatch No.の頭文字が「S」の場合、受入廃棄物として分類する。

- ・ Batch No.を用いてlatagテーブルから容量（容量_集計用）及び重量を取得し、Lot No.ごとに以下の内容にて廃棄物量（数量、容量及び重量）を算出し、廃棄物量の合計を処理量として出力する。

なお、容量は登録値の単位がℓのため、m³に単位換算（算出値 / 1000）を行う。

処理量（数量）：Lot内処理個数の値

処理量（容量）：容量（容量_集計用）×（Lot内処理個数 / Lot内全数） / 1000

※ 小数点以下3桁で四捨五入し、小数点以下2桁で算出する。

処理量（重量）：重量 ×（Lot内処理個数 / Lot内全数）

※ 小数点以下2桁で四捨五入し、小数点以下1桁で算出する。

d) b) で取得した Batch No.の頭文字が「H」の場合、二次廃棄物として分類する。

- ・ a) で取得した Lot No.の個数 (Lot No.の数) を集計し出力する。
- ・ 二次廃棄物は発生個数を管理することが目的であるため、容量及び重量は0(ゼロ)とする。

⑦ 処理能力 (kg/h)

- a. 合計した可燃及び二次廃の重量を処理時間で除した値を出力する。
- b. 算出値をそのまま出力し、Excel の書式設定にて小数点以下 1 桁固定にて出力する。

⑧ LPG (m³)

- a. 「② Run No.」に関連する LPG 量を出力する。

⑨ 備考

- a. 「② Run No.」に関連する備考を出力する。

6. α 固体廃棄物A焼却灰回収記録一覧表

① 基準年月日（対象：回収年月日）

- a. α 固体廃棄物A情報出力画面にて入力された条件を、基準年月日（範囲）として出力する。

② Bag No.及びその量

- a. labag テーブルの回収年月日が基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）にあるデータについて、以下の内容にて Bag No.及びその量を出力する。

出力例：BG00001-7.0

BG00002-12.6

※ Bag No.と重量の間にハイフン（-）を設定する。

また、重量の整数部が1桁の場合はデータベース上、数値の前に半角スペースが設定されているが、半角スペースは削除して出力する。

③ 回収年月日及び回収担当者

- a. 「②の Bag No.」に関連する回収年月日及び回収担当者を出力する。
b. 年月日は Excel の日付形式、担当者はコード表から一致する No.の担当者名を出力する。

④ 保管年月日及び保管担当者

- a. 「②の Bag No.」に関連する保管年月日及び保管担当者を出力する。
b. 年月日は Excel の日付形式、担当者はコード表から一致する No.の担当者名を出力する。

⑤ 線量当量率（ μ Sv/h）

- a. 「②の Bag No.」に関連する線量当量率を出力する。

⑥ 性状

- a. 「②の Bag No.」に関連する性状を出力する。

⑦ 発生場所

- a. 「②の Bag No.」に関連する発生場所を出力する。

⑧ 可燃及び二次廃（個、 m^3 及びkg）

- a. 基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）で、PVC バッグに梱包された焼却灰（受入廃棄物（可燃）及び二次廃棄物（二次廃））について、以下の内容にて処理量を集計する。

a) 「②の Bag No.」に関連する Bag 重量・同一 Bag No.の全重量・Run No.を labag テーブルから取得する。

b) a) で取得した Run No.を用いて、larun テーブルから関連する Lot No.・Lot 内処理

個数・Lot 内全数を取得する。

c) b) で取得した Lot No.を用いて、lalot テーブルから関連する Batch No.を取得する。

d) c) で取得した Batch No.の頭文字が「S」の場合、受入廃棄物として分類する。

- ・ Batch No.を用いて latag テーブルから容量 (容量_集計用) 及び重量を取得し、Lot No.ごとに以下の内容にて算出し、算出した値を合計して廃棄物量 (数量、容量及び重量) とする。

数量 : Lot 内処理個数の値

容量 : 容量 (容量_集計用) × (Lot 内処理個数 / Lot 内全数)

重量 : 重量 × (Lot 内処理個数 / Lot 内全数)

- ・ a) で取得した Bag 重量・同一 Bag No.の全重量から Bag 重量割合 (Bag 重量 / 同一 Bag No.の全重量) を算出し、廃棄物量に乗じて、処理量として出力する。
なお、容量は登録値の単位が ℓ のため、m³ に単位換算 (算出値 / 1000) を行う。

処理量 (数量) : 廃棄物量 (数量) × Bag 重量割合

※ 小数点以下 1 桁で四捨五入し、整数で算出する。

処理量 (容量) : 廃棄物量 (容量) × Bag 重量割合 / 1000

※ 小数点以下 3 桁で四捨五入し、小数点以下 2 桁で算出する。

処理量 (重量) : 廃棄物量 (重量) × Bag 重量割合

※ 小数点以下 2 桁で四捨五入し、小数点以下 1 桁で算出する。

e) c) で取得した Batch No.の頭文字が「H」の場合、二次廃棄物として分類する。

- ・ 個数 b) で取得した Lot No.の個数 (Lot No.の数) を集計する。
- ・ Bag 個数割合 (当該 Bag No.の重量 / 同一 Bag No.の全重量) を算出する。
- ・ 以下の内容にて当該 Bag No.の処理 Lot 個数を算出する。

処理 Lot 個数 : 個数 × Bag 個数割合

- ・ 二次廃棄物は発生個数を管理することが目的であるため、容量及び重量は 0 (ゼロ) とする。

⑨ Run No.

a. 「②の Bag No.」に関連する Run No.を出力する。

b. Run No.が複数ある場合にはカンマ繋ぎ (カンマの後に半角スペース含む) とし、次の通り出力する。

出力例 : 00001-01, 00001-02

⑩ 備考

a. 「②の Bag No.」に関連する備考を出力する。

7. α 固体廃棄物 A（焼却灰）固化・装填記録一覧表

① 基準年月日（対象：装填年月日）

- a. α 固体廃棄物 A 情報出力画面にて入力された条件を、基準年月日（範囲）として出力する。

② パッケージ No.

- a. lapac_1 テーブルの装填年月日が基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）にあるパッケージ No.で、パッケージ No.の前 2 文字が「AS」のものについて、当該パッケージ No.を出力する。

③ Bag No.及びその量

- a. lapac_3 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する Bag No.及びその量を取得し、以下の内容にて出力する。

出力例：BG00001-7.0

BG00002-12.6

※ Bag No.と重量の間にハイフン（-）を設定する。

また、重量の整数部が 1 桁の場合はデータベース上、数値の前に半角スペースが設定されているが、半角スペースは削除して出力する。

- b. Bag No.が複数ある場合にはカンマ繋ぎ（カンマの後に半角スペース含む）とし、次の通り出力する。

出力例：BG00001-7.0, BG00002-12.6

④ Lot No.及び個数（固化・装填）

- a. lapac_3 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する固化 Lot No.及び個数を取得し、出力する。

- b. Lot No.及び個数が複数ある場合にはカンマ繋ぎ（カンマの後に半角スペース含む）とし、次の通り出力する。

出力例：LS00001-1, LP00001-7

⑤ 装填年月日及び装填担当者

- a. lapac_1 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する装填年月日及び装填担当者を出力する。

- b. 年月日は Excel の日付形式、担当者はコード表から一致する No.の担当者名を出力する。

⑥ 固化容器 No.

- a. lapac_3 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する固化容器 No.を出力する。

- b. 固化容器 No.が複数ある場合にはカンマ繋ぎ（カンマの後に半角スペース含む）で出力する。

出力例：K05001, K05002

⑦ 固化年月日及び固化担当者

- a. lapac_3 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する固化年月日及び固化担当者
を出力する。
- b. 年月日は Excel の日付形式、担当者はコード表から一致する No.の担当者名を出力する。
- c. 固化年月日及び固化担当者が複数ある場合にはカンマ繋ぎ（カンマの後に半角スペース
含む）で出力する。

※ 固化容器 No.が複数の場合、固化年月日及び固化担当者も同数存在するため。

※ カンマ繋ぎの際は固化容器 No.の順番に合わせて固化年月日及び固化担当者を出
力する。

出力例：2020/1/1, 2020/2/28

廃棄 太郎, 廃棄 花子

⑧ 浄水量 (ℓ)、ドレン水量 (ℓ) 及びセメント量 (kg)

- a. lapac_3 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する浄水量、ドレン水量及びセメ
ント量を出力する。
- b. 浄水量、ドレン水量及びセメント量が複数ある場合にはカンマ繋ぎ（カンマの後に半角
スペース含む）で出力する。
- c. ⑦の場合と同様に、カンマ繋ぎの際は固化容器 No.の順番に合わせて浄水量、ドレン水
量及びセメント量を出力する。

⑨ 備考

- a. lapac_1 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する備考を出力する。

8. α 固体廃棄物 A（不燃等）圧縮・装填記録一覧表

① 基準年月日（対象：装填年月日）

- a. α 固体廃棄物 A 情報出力画面にて入力された条件を、基準年月日（範囲）として出力する。

② パッケージ No.

- a. lapac_1 テーブルの装填年月日が基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）にあるパッケージ No. でパッケージ No. の前 2 文字が「AP」のものについて、当該パッケージ No. を出力する。

③ Lot No. 及び個数（装填）

- a. lapac_1 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する装填 Lot No. 及び個数をより出力する。
- b. Lot No. 及び個数が複数ある場合にはカンマ繋ぎ（カンマの後に半角スペース含む）とし、次の通り出力する。

出力例：LP00001-7, LP00002-15

④ 装填年月日及び装填担当者

- a. lapac_1 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する装填年月日及び装填担当者を出力する。
- b. 年月日は Excel の日付形式、担当者はコード表から一致する No. の担当者名を出力する。

⑤ Lot No. 及び個数（圧縮）

- a. lapac_1 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する圧縮 Lot No. 及び個数を出力する。
- b. Lot No. 及び個数が複数ある場合にはカンマ繋ぎ（カンマの後に半角スペース含む）とし、次の通り出力する。

出力例：LP00001-7, LP00002-15

⑥ 圧縮年月日及び圧縮担当者

- a. lapac_1 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する圧縮年月日及び圧縮担当者を出力する。
- b. 年月日は Excel の日付形式、担当者はコード表から一致する No. の担当者名を出力する。

⑦ Batch No.

- a. lalot テーブルより、「③ Lot No. 及び個数（装填）」及び「⑤の Lot No. 及び個数（圧縮）」に関連する Batch No. を出力する。
- b. Batch No. が複数ある場合にはカンマ繋ぎ（カンマの後に半角スペース含む）とし、次

の通り出力する。

出力例：H98008, H98043

⑧ 不燃及びフィルタ（個、 m^3 及びkg）

a. 基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）で、装填処理又は圧縮処理された廃棄物（不燃及びフィルタ）について、以下の内容にて処理量を集計する。

a) 「⑦ Batch No.」に関連する廃棄物量（容量及び重量）・区分を latag テーブルから取得する。

b) 「③ Lot No.及び個数（装填）」及び「⑤の Lot No.及び個数（圧縮）」の Lot 内処理個数・Lot 内全数を取得する。

c) b) で取得した Lot 内処理個数・Lot 内全数から、処理個数割合（Lot 内処理個数 / Lot 内全数）を算出し、廃棄物量に乗じて処理量とし、区分ごとに合計して出力する。

なお、容量は登録値の単位が l のため、 m^3 に単位換算（算出値 / 1000）を行う。

○ 区分

2：不燃

3：フィルタ

○ 処理量

処理量（数量）：Lot 内処理個数の合計

処理量（容量）：（容量 × 処理個数割合）の合計 / 1000

※ 小数点以下 3 桁で四捨五入し、小数点以下 2 桁で算出する。

処理量（重量）：（重量 × 処理個数割合）の合計

※ 小数点以下 2 桁で四捨五入し、小数点以下 1 桁で算出する。

※ 処理量（容量）・処理量（重量）は、Lot No.ごとに算出した値を区分ごとに合計する。

⑨ 備考

a. lapac_1 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する備考を出力する。

9. α 固体廃棄物A管理台帳

- ① 基準年月日（対象：回収・受取年月日又は搬入年月日）
 - a. α 固体廃棄物A情報出力画面にて入力された条件を、基準年月日（範囲）として出力する。
 - b. 条件の後に、選択した年月日を入力する。

- ② Job No.及び Tog No.
 - a. latag テーブルより、「①で指定された年月日」が基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）で、該当する Job No.及び Tag No.を出力する。

- ③ 区分
 - a. latag テーブルより、「② Job No.及び Tag No.」に関連する区分名（コード表から一致する No.の区分名）を出力する。

- ④ 主要内容物
 - a. latag テーブルより、「② Job No.及び Tag No.」に関連する内容物名（コード表から一致する No.の内容物名）を出力する。
 - b. 内容物が複数ある場合にはカンマ繋ぎ（カンマの後に半角スペース含む）で出力する。
出力例：塩化ビニル, ゴム

- ⑤ $\beta \cdot \gamma$ 全量 (Bq)
 - a. latag テーブルより、「② Job No.及び Tag No.」に関連する $\beta \gamma$ 全量を出力する。
 - b. 全量が検出限界値以下（以下フラグの値が 1）の場合は、全量の前に"<"（不等号）を出力する。

- ⑥ α 全量 (Bq)
 - a. latag テーブルより、「② Job No.及び Tag No.」に関連する α 全量を出力する。
 - b. 全量が検出限界値以下（以下フラグの値が 1）の場合は、全量の前に"<"（不等号）を出力する。

- ⑦ 線量当量率 (μ Sv/h)
 - a. latag テーブルより、「② Job No.及び Tag No.」に関連する線量当量率_表面を出力する。
 - b. 線量当量率が検出限界値以下（以下フラグの値が 1）の場合は、線量当量率の前に"<"（不等号）を出力する。

- ⑧ 容器・梱包
 - a. latag テーブルより、「② Job No.及び Tag No.」に関連する容器包装名（コード表から

一致する No.の容器包装名) を出力する。

⑨ 重量 (kg)

a. latag テーブルより、「② Job No.及び Tag No.」に関連する重量を出力する。

⑩ 容量_集計用 (ℓ)

a. latag テーブルより、「② Job No.及び Tag No.」に関連する容量_集計用を出力する。

⑪ 注意票、安定化处理及び金属混入

a. latag テーブルより、「② Job No.及び Tag No.」に関連する注意票、安定化处理及び金属混入を出力する。

b. 値が「NULL」の場合は「-」(ハイフン) を出力する。

⑫ 回収・受取年月日

a. latag テーブルより、「② Job No.及び Tag No.」に関連する回収・受取年月日 (Excel の日付形式) を出力する。

⑬ 搬入年月日

a. latag テーブルより、「② Job No.及び Tag No.」に関連する搬入年月日 (Excel の日付形式) を出力する。

⑭ Batch No.

a. latag テーブルより、「② Job No.及び Tag No.」に関連する Batch No.を出力する。

⑮ 分類年月日

a. labat テーブルより、「⑭ Batch No.」に関連する分類年月日を出力する。

⑯ Lot No.及び個数

a. lalot テーブルより、「⑭ Batch No.」に関連する Lot No.及び個数を出力する。

b. Lot No.及び個数が複数ある場合にはカンマ繋ぎ (カンマの後に半角スペース含む) で出力する。

出力例 : LS00001-7, LP00002-15

⑰ 処理区分

a. 後述する処理年月日 (焼却、固化、圧縮及び装填) が出力されたものについて焼却、固化、圧縮及び装填を出力する。

出力例 (焼却年月日及び装填年月日が出力された場合) : 焼却・装填

⑱ 焼却年月日

- a. 「⑭ Batch No.」の頭文字が「S」の場合に、当該 Lot No.及び個数を larun テーブルより探し、当該 Lot No.に関連する焼却年月日を入力する。
- b. 当該 Lot No.及び個数が確認（一致）されなかった場合は、再度 Lot No.のみで探し、関連する焼却年月日をカンマ繋ぎ（カンマの後に半角スペース含む）で全て出力する。
出力例：2020/10/3, 2020/10/20
- c. 焼却年月日が空白の場合は空白を入力する。

⑲ 固化年月日

- a. 「㉓ Bag No.及びその量」を lapac_3 テーブルより探し、当該 Bag No.及びその量が確認（一致）された場合は当該 Bag No.及びその量に関連する固化年月日を入力する。
- b. 当該 Bag No.及びその量が確認（一致）されなかった場合は、再度 Bag No.のみで探し、関連する固化年月日をカンマ繋ぎ（カンマの後に半角スペース含む）で全て出力する。
出力例：2020/10/3, 2020/10/20
- c. 固化年月日が空白の場合は空白を入力する。

⑳ 圧縮年月日

- a. 「⑭ Batch No.」の頭文字が「H」の場合に、当該 Lot No.及び個数を lapac_1 テーブルより探し、当該 Lot No.及び個数に関連する圧縮年月日を入力する。
- b. 当該 Lot No.及び個数が確認（一致）されなかった場合は、再度 Lot No.のみで探し、関連する圧縮年月日をカンマ繋ぎ（カンマの後に半角スペース含む）で全て出力する。
出力例：2020/10/3, 2020/10/20
- c. 圧縮年月日が空白の場合は空白を入力する。

㉑ 装填年月日

- a. 「⑭ Batch No.」の頭文字が「H」の場合は、「㉑ 圧縮年月日」と同様の手順で検索を行い、関連した装填年月日を入力する。
- b. 「⑭ Batch No.」の頭文字が「S」の場合は、「⑲ 固化年月日」と同様の手順で検索を行い、lapac_3 テーブルの Bag No.及びその量から関連するパッケージ No.を抽出し、lapac_1 テーブルの当該パッケージ No.に関連する装填年月日を入力する。
- c. 取得した装填年月日が複数ある場合にはカンマ繋ぎ（カンマの後に半角スペース含む）で全て出力する。
出力例：2020/10/3, 2020/10/20

㉒ Run No.

- a. 「⑭ Batch No.」の頭文字が「S」の場合に、当該 Lot No.及び個数を larun テーブルより探し、当該 Lot No.に関連する Run No.を入力する。
- b. 当該 Lot No.及び個数が確認（一致）されなかった場合は、再度 Lot No.のみで探し、

関連する Run No.をカンマ繋ぎ（カンマの後に半角スペース含む）で全て出力する。

出力例：00001-01, 00001-02

②③ Bag No.及びその量

a. labag テーブルより、「② Run No.」に関連する Bag No.及びその量を出力する。

b. Bag No.が複数ある場合にはカンマ繋ぎ（カンマの後に半角スペース含む）で全て出力する。

出力例：BG88003-2.8, BG88004-12.5

②④ パッケージ No.及び封入年月日

a. 「② 装填年月日」と同様の手順で検索を行い、関連したパッケージ No.及び封入年月日

日

b. パッケージ No.及び封入年月日が複数ある場合にはカンマ繋ぎ（カンマの後に半角スペース含む）で全て出力する。

出力例：AP003001, AP004002

2020/10/3, 2020/10/20

10. α 固体廃棄物A廃棄物パッケージ封入・保管記録

- ① 基準基準日（対象：封入年月日）
 - a. α 固体廃棄物A情報出力画面にて入力された条件を、基準年月日（範囲）として出力する。
- ② パッケージ No.
 - a. lapac_1 テーブルの封入年月日が基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）にあるデータについて、パッケージ No.を出力する。
- ③ 総重量
 - a. lapac_2 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する重量を出力する。
- ④ 封入年月日及び封入担当者
 - a. lapac_1 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する封入年月日及び封入担当者を出力する。
 - b. 年月日は Excel の日付形式、担当者はコード表から一致する No.の担当者名を出力する。
- ⑤ 装填年月日及び装填担当者
 - a. lapac_1 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する装填年月日を出力する。
- ⑥ 内容器 No.及び容器（ドラム缶） No.
 - a. lapac_1 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する内容器 No.及び容器_ドラム缶 No.を出力する。
- ⑦ 固化素材（セメント（kg）、砂利（kg）、砂（kg）及び水（kg））
 - a. lapac_1 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する固化素材セメント、固化素材砂利、固化素材砂及び固化素材水を出力する。
- ⑧ 調合回数及びパッケージ個数
 - a. lapac_1 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する調合回数及びパッケージ個数を出力する。
- ⑨ 線量当量率（上面、側面、下面及び 1m 位置、単位：μSv/h）
 - a. lapac_2 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する線量当量率_上面、線量当量率_側面、線量当量率_下面及び線量当量率_1m 位置を出力する。
- ⑩ 移管年月日、移管施設、移管アドレス及び移管担当者
 - a. lapac_2 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する移管年月日、移管施設、移管

アドレス及び移管担当者を出力する。

⑪ 移動年月日、移動施設、移動アドレス及び移動担当者（現在～四つ前）

a. lapac_2 テーブルより、「② パッケージ No.」に関連する移動年月日、移動施設、移動アドレス及び移動担当者（現在～四つ前）を出力する。

b. 出力を行うに当たり、データが設定されている項目を対象に項目名称の連番が大きい項目から小さい項目の順に、現在～四つ前へ値を出力する。

現在 : 連番が一番大きい項目

↓

四つ前 : 連番が一番小さい項目

11. α 固体廃棄物 A 在庫表〔作業エリア〕

① 基準年月日

- a. α 固体廃棄物 A 情報出力画面にて入力された日付を、基準年月日として出力する。

② α 一時格納庫 (Tag)

- a. 基準年月日を起点として、α 一時格納庫に保管されている廃棄物について、以下の内容にて個数を出力する。

- a) latag テーブルの回収・受取年月日が基準年月日以前のデータを取得する。

※ 回収・受取年月日が未設定のデータは対象外とする。

- b) a) で取得したデータの Batch No.を用いて、labat テーブルから関連する搬入年月日を取得する。

- c) まだ搬入されていない（搬入年月日が未登録又は基準年月日の翌日以降）データの区分・データ数を取得する。

※ 「搬入年月日が未登録 = Batch No.が未設定のデータ」とする。

- d) c) で取得したデータ数を燃性（区分）別に集計し、可燃・不燃・フィルタ別に出力する。

③ α ホール (Lot)

- a. 基準年月日を起点として、α ホールに搬入し分類された廃棄物について、以下の内容にて圧縮処理、装填処理及び焼却処理*が行われていない Lot No.及び個数を出力する。

* 不燃廃棄物を分類した際に、不燃廃棄物を梱包していたカートンボックスが可燃廃棄物として発生（新たに Lot No.を付与）する。

- a) labat テーブルの Batch No.の頭文字が「H」かつ当該 Batch No.の分類年月日が基準年月日以前の Batch No.を取得する。

- b) a) で取得した Batch No.を用いて、lalot テーブルから関連する Lot No.・Lot 内全数を取得する。（基準年月日時点での登録されている Lot 情報の取得）

- c) 以下の内容にて処理済量（Lot 内処理個数）を取得する。

・ Lot No.が、lapac_1 テーブルの「装填 Lot No.」又は「圧縮 Lot No.」に存在し、同処理に係る装填年月日又は圧縮年月日が基準年月日以前のデータ

・ Lot No.が、larun テーブルの「Lot No.」に存在し、同処理に係る焼却年月日が基準年月日以前のデータ

- d) b) で取得した Lot No.・Lot 内全数及び c) で取得した処理済量を用いて、Lot No.ごとに未処理個数（Lot 内全数 - 処理済量）を算出し、未処理個数が 1 以上の Lot No.・未処理個数・個数（Lot 内全数）を出力する。

出力例：LP88003-4/7

i ii iii

i : Lot No.

ii : 未処理個数

iii : 個数 (Lot 内全数)

e) Lot No.が複数ある場合にはカンマ繋ぎ (カンマの後に半角スペース含む) で出力する。

出力例 : LP88003-4/7, LP00002-10/15, LP00003-3/10

④ 分類ボックス (Lot)

a. 基準年月日を起点として、分類ボックスに搬入し分類された廃棄物について、以下の内容にて焼却処理が行われていない Lot No.及び個数を入力する。

a) labat テーブルの Batch No.の頭文字が「S」かつ当該 Batch No.の分類年月日が基準年月日以前の Batch No.を取得する。

b) a) で取得した Batch No.を用いて、lalot テーブルから関連する Lot No.・Lot 内全数を取得する。(基準年月日時点での登録されている Lot 情報の取得)

c) 以下の内容にて処理済量 (Lot 内処理個数) を取得する。

・ Lot No.が、larun テーブルの「Lot No.」に存在し、同処理に係る焼却年月日が基準年月日以前のデータ

d) b) で取得した Lot No.・Lot 内全数及び c) で取得した処理済量を用いて、Lot No.ごとに未処理個数 (Lot 内全数 - 処理済量) を算出し、未処理個数が 1 以上の Lot No.・未処理個数・個数 (Lot 内全数) を出力する。

出力方法は「③ α ホール (Lot)」と同様。

e) Lot No.が複数ある場合にはカンマ繋ぎ (カンマの後に半角スペース含む) で出力する。

出力方法は「③ α ホール (Lot)」と同様。

⑤ α 焼却灰 (Bag)

a. 基準年月日を起点として、α 焼却装置に保管されている焼却灰を梱包した Bag について、以下の内容にて個数を入力する。

a) labag テーブルの回収年月日が基準年月日以前の Bag No.・Bag 重量を取得する。(基準年月日時点での登録されている Bag 情報の取得)

b) 以下の内容にて処理済量 (Bag 重量) を取得する。

・ Bag No.が、lapac_3 テーブルの「Bag No.」に存在し、同処理に係る装填年月日が基準年月日以前のデータ

c) a) で取得した Bag No.・Bag 重量及び b) で取得した処理済量を用いて、Bag No.ごとに未処理個数 (Bag 重量 - 処理済量の合計) を算出し、未処理量が 0 より大きい Bag No.・未処理量・全量 (同一 Bag No.の Bag 重量の合計) を出力する。

出力例 : BG88003-2.8/7.5

i ii iii

i : Bag No.

ii : 未処理量

iii : 全量 (同一 Bag No.の Bag 重量の合計)

d) Bag No.が複数ある場合にはカンマ繋ぎ (カンマの後に半角スペース含む) で出力する。

出力例 : BG88003-2.8/7.5, BG88004-12.5/14.7, BG88005-3.0/12.0

⑥ パッケージ

a. 基準年月日を起点として、パッケージの封入は行われ、移管がされていないパッケージについて、以下の内容にて出力する。

a) lapac_1 テーブルの封入年月日が基準年月日以前のパッケージ No.を取得する。

b) a) で取得したパッケージ No.の中から、まだ移管されていない (移管年月日が未登録又は基準年月日の翌日以降の) パッケージ No.を出力する。

c) パッケージ No.が複数ある場合にはカンマ繋ぎ (カンマの後に半角スペース含む) で出力する。

出力例 : AP003001, AP99X107, AS013001

⑦ 合計 (受入可能量)

a. 以下の内容にて出力する。

α 一時格納庫欄の上段 : 可燃・不燃・フィルタの個数の合計値

α 一時格納庫欄の下段 : 受入可能量を、latag テーブルの「容量_集計用」から、容器種類ごとの保管個数と容器容積を乗じて保管容量を集計し、受入上限値 150 m³ から当該保管容量を差し引いた値

なお、登録値の単位がℓのため、m³に単位換算 (算出値 / 1000) を行う。

算出方法 : 150 - (容量_集計用の合計 / 1000)

α ホール (Lot) : 出力した Lot No.の個数 (Lot No.の数)

分類ボックス (Lot) : 出力した Lot No.の個数 (Lot No.の数)

α 焼却灰 (Bag) : 出力した Bag No.全量 (kg) の集計値

パッケージ : 出力したパッケージ No.の個数 (パッケージ No.の数)

12. α 固体廃棄物 A 処理記録〔処理装置別〕

① 基準年月日

- a. α 固体廃棄物 A 情報出力画面にて入力された日付を、基準年月日（範囲）として出力する。

② α 焼却装置－受入廃棄物

- a. 基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）で、焼却装置にて処理された受入廃棄物について、以下の内容にて処理量を出力する。
- a) larun テーブルの焼却年月日が基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）に該当する Run No.に関連する Lot No.・Lot 内処理個数・Lot 内全数を取得する。
- b) a) で取得した Lot No.を用いて、labat テーブルから当該 Lot No.に関連する Batch No.を取得する。
- c) b) で取得した Batch No.の頭文字が「S」の Lot No.について、Batch No.を用いて latag テーブルから容量（容量_集計用）及び重量を取得し、Lot No.ごとに廃棄物量（数量、容量及び重量）を以下の内容にて算出し、算出した値を合計して当該 Run No.の処理量として出力する。

なお、容量は登録値の単位が ℓ のため、m³に単位換算（算出値 / 1000）を行う。

数量：Lot 内処理個数の値

容量：容量（容量_集計用）×（Lot 内処理個数 / Lot 内全数） / 1000

※ 小数点以下 3 桁で四捨五入し、小数点以下 2 桁で算出する。

重量：重量 ×（Lot 内処理個数 / Lot 内全数）

※ 小数点以下 2 桁で四捨五入し、小数点以下 1 桁で算出する。

③ α 焼却装置－二次廃棄物

- a. 基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）で、焼却装置にて処理された二次廃棄物（不燃廃棄物を分類して発生した可燃廃棄物で、不燃廃棄物を梱包していたカートンボックスが該当）について、以下の内容にて処理量を出力する。
- a) larun テーブルの焼却年月日が基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）に該当する Run No.に関連する Lot No.を取得する。
- b) a) で取得した Lot No.を用いて、labat テーブルから当該 Lot No.に関連する Batch No.を取得する。
- c) b) で取得した Batch No.の頭文字が「H」の Lot No.について、個数（Lot No.の数）を集計して出力する。
- d) 二次廃棄物は発生個数を管理することが目的であるため、容量及び重量は 0（ゼロ）とする。

④ α 焼却装置－合計

- a. 基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）で、焼却装置にて処理された受入廃棄

物量及び二次廃棄物量の合計並びに焼却灰発生量、減容比及び減重比を以下の内容にて出力する。

処理数量、処理容量及び処理重量：受入廃棄物及び二次廃棄物の処理量（数量、容量及び重量）の合計値を出力する。

焼却灰発生量：labag テーブルの回収年月日が基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）で、当該 Bag No.に関連する Bag 重量の合計値を出力する。

減容比：受入廃棄物と二次廃棄物の処理容量を合計し、単位換算した焼却灰発生量を除した値を出力する。単位換算は、焼却灰のかさ比重を 0.2 t/m³（参考値）として計算する。

$$\text{減容比} = \frac{\text{処理容量 (m}^3\text{)}}{(\text{焼却灰発生量 (kg)} \times 10^{-3}) / 0.2}$$

減重比：集計した処理重量を焼却灰発生量で除した値を出力する。

※ 減容比、減重比共に、最終的な算出値を小数点以下 3 桁で四捨五入し、小数点以下 2 桁にて出力する。

⑤ α ホール設備－圧縮処理

a. 基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）で、圧縮装置にて処理された廃棄物について、以下の内容にて処理量を出力する。

a) lapac_1 テーブルの圧縮年月日が基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）に該当する圧縮 Lot No.・Lot 内処理個数・Lot 内全数を取得する。

b) a) で取得した Lot No.を用いて、labat テーブルから当該 Lot No.に関連する Batch No.を取得する。

c) b) で取得した Batch No.を用いて、latag テーブルから容量（容量_集計用）及び重量を取得し、Lot No.ごとに廃棄物量（数量、容量及び重量）を以下の内容にて算出し、算出した値を合計して処理量として出力する。

なお、容量は登録値の単位が l のため、m³に単位換算（算出値 / 1000）を行う。

数量：Lot 内処理個数の値

容量：容量（容量_集計用）×（Lot 内処理個数 / Lot 内全数） / 1000

※ 小数点以下 3 桁で四捨五入し、小数点以下 2 桁で算出する。

重量：重量 ×（Lot 内処理個数 / Lot 内全数）

※ 小数点以下 2 桁で四捨五入し、小数点以下 1 桁で算出する。

b. パッケージ発生数は、lapac_1 テーブルの圧縮年月日が基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）に該当する、圧縮 Lot No.が入力されているパッケージ No.の本数を集計して出力する。

⑥ α ホール設備－固化処理

a. 基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）で、固化処理された廃棄物（焼却灰を梱包した PVC バッグが該当）について、以下の内容にて処理量を集計する。

- a) lapac_3 テーブルの固化年月日が基準年月日（開始日及び終了日を含む）に該当する Bag No.・Bag 重量を取得する。
- b) a) で取得した Bag No.を用いて、labag テーブルから同一 Bag No.の全重量・Run No.を取得する。
- c) b) で取得した Run No.を用いて、larun テーブルから関連する Lot No.・Lot 内処理個数・Lot 内全数を取得する。
- d) c) で取得した Lot No.を用いて、lalot テーブルから関連する Batch No.を取得する。
- e) d) で取得した Batch No.を用いて、latag テーブルから容量（容量_集計用）及び重量を取得し、Lot No.ごとに以下の内容にて算出し、算出した値を合計して廃棄物量（数量、容量及び重量）とする。

数量：Lot 内処理個数の値

容量：容量（容量_集計用）×（Lot 内処理個数 / Lot 内全数）

重量：重量 ×（Lot 内処理個数 / Lot 内全数）

- f) a) で取得した Bag 重量及び b) で取得した同一 Bag No.の全重量から Bag 重量割合（Bag 重量 / 同一 Bag No.の全重量）を算出し、廃棄物量に乗じて、処理量として出力する。

なお、容量は登録値の単位が ℓ のため、m³に単位換算（算出値 / 1000）を行う。

処理量（数量）：廃棄物量（数量）× Bag 重量割合

処理量（容量）：廃棄物量（容量）× Bag 重量割合 / 1000

※ 小数点以下 3 桁で四捨五入し、小数点以下 2 桁で算出する。

処理量（重量）：廃棄物量（重量）× Bag 重量割合

※ 小数点以下 2 桁で四捨五入し、小数点以下 1 桁で算出する。

- b. パッケージ発生数は、lapac_3 テーブルの固化年月日が基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）に該当する、パッケージ No.の本数を集計して出力する。

⑦ α ホール設備—装填処理（受入廃棄物）

- a. 基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）で、装填処理（詰替処理）された廃棄物について、以下の内容にて処理量を出力する。

- a) lapac_1 テーブルの装填年月日が基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）に該当する装填 Lot No.・Lot 内処理個数・Lot 内全数を取得する。

- b) a) で取得した Lot No.を用いて、labat テーブルから当該 Lot No.に関連する Batch No.を取得する。

- c) b) で取得した Batch No.を用いて、latag テーブルから容量（容量_集計用）及び重量を取得し、Lot No.ごとに廃棄物量（数量、容量及び重量）を以下の内容にて算出し、算出した値を合計して処理量として出力する。

なお、容量は登録値の単位が ℓ のため、m³に単位換算（算出値 / 1000）を行う。

数量：Lot 内処理個数の値

容量：容量（容量_集計用）×（Lot 内処理個数 / Lot 内全数） / 1000

※ 小数点以下 3 桁で四捨五入し、小数点以下 2 桁で算出する。

重量：重量 × (Lot 内処理個数 / Lot 内全数)

※ 小数点以下 2 桁で四捨五入し、小数点以下 1 桁で算出する。

- b. パッケージ発生数は、lapac_1 テーブルの装填年月日が基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）に該当する、装填 Lot No.が入力されているパッケージ No.の本数を集計して出力する。

⑧ α ホール設備－装填処理（焼却灰）

- a. 基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）で、装填処理（詰替処理）された焼却灰（PVC バックに梱包されたもの）について、以下の内容にて処理量を出力する。

a) lapac_1 テーブルの装填年月日が基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）に該当するパッケージ No.を取得する。

b) a) で取得したパッケージ No.を用いて、lapac_3 テーブルから固化年月日が入力されていない全パッケージ No.の Bag No.の個数（Bag No.の数）・Bag 重量を集計し、処理数量・処理重量へ出力する。

※ Bag No.は、延べ数を算出する。

c) 処理容量は、焼却灰のかさ比重を 0.2 t/m³（参考値）を用いて、焼却灰の処理重量より算出して出力する。

$$\text{処理容量 (m}^3\text{)} = \frac{\text{処理容量 (kg)} \times 10^{-3}}{0.2}$$

- b. パッケージ発生数は、上記の当該パッケージ No.の本数を集計して出力する。

⑨ α ホール設備－各項目の減容比

- a. 減容比は集計した処理容量を、概算によって求めたパッケージ容量で除した値を出力する。

パッケージ容量は、パッケージの内容積を 0.1 m³として、パッケージ本数に 0.1 を乗ずることによって算出する。

$$\text{減容比} = \frac{\text{処理容量 (m}^3\text{)}}{\text{パッケージ発生数} \times 0.1}$$

※ 小数点以下 3 桁で四捨五入し、小数点以下 2 桁で算出する。

⑩ α ホール設備－合計

- a. 基準年月日の範囲内（開始日及び終了日を含む）で、α ホール設備にて処理された廃棄物量、焼却灰量、パッケージ発生数並びに減容比について、以下の内容にて出力する。

処理量：圧縮処理、固化処理、装填処理（受入廃棄物及び焼却灰）の処理量（数量、容量及び重量）を合計し、出力する。

パッケージ発生数：圧縮処理、固化処理、装填処理（受入廃棄物及び焼却灰）のパッケージ発生数を合計し、出力する。

減容比：「㊟ α ホール設備－各項目の減容比」と同様に、合計した処理容量を概算によって求めた合計のパッケージ容量で除した値を出力する。

13. α 固体廃棄物A搬入・処理記録

(1) α 固体廃棄物A搬入記録（年度集計）

① 基準年月日（対象：回収・受取年月日）

a. α 固体廃棄物A情報出力画面にて入力された年度を、基準年度として出力する。

② 施設別・区分別廃棄物搬入量（個、m³及びkg）

a. latag テーブルの回収・受取年月日が基準年度の各四半期の範囲内（開始日及び終了日を含む）にあるデータについて、施設ごと及び区分ごと並びに四半期別に以下の内容にて廃棄物量を集計して出力する。

なお、容量は登録値の単位がℓのため、m³に単位換算（算出値 / 1000）を行う。

数量（個）：取得データ数

容量（m³）：容量_集計用の合計値 / 1000

重量（kg）：重量の合計値

b. 施設ごと及び区分ごと並びに四半期別の集計結果を基に、さらに北地区計、南地区計及び合計を出力する。

c. 4 四半期分の集計を合計して年度累計を出力する。

d. 施設は Job No.を基に、以下の内容で割り振りする。

施設	Job No.（コード）
廃棄物管理施設	825
燃料研究棟	826
その他 北地区	534、741、812、813、814、815、816、817、818、819、824、837、842、843、844、872
AGF	AGF
DCA	DCA
FMF	FMF
MMF	MMF
WDF	WDF
その他 南地区	FSI、JOY、NAB、NAZ、RCB
所外	NFD、TUC

(2) α 固体廃棄物A処理記録（年度集計）

① 基準年度（対象：分類年月日）

a. α 固体廃棄物A情報出力画面にて入力された年度を、基準年度として出力する。

② 施設別・区分別廃棄物処理量（個、m³及びkg）

a. labat テーブルの分類年月日が基準年度の各四半期の範囲内（開始日及び終了日を含む）にあるデータについて、施設ごと及び区分ごと並びに月別に以下の内容にて廃棄物量を

集計して出力する。

a) 当該 Batch No.を用いて、latag テーブルから Tag No.を取得する。

b) a) で取得した Tag No.に関連する廃棄物量を集計して出力する。

なお、容量は登録値の単位がℓのため、m³に単位換算（算出値 / 1000）を行う。

数量（個）：取得データ数

容量（m³）：容量_集計用の合計値 / 1000

重量（kg）：重量の合計値

b. 施設ごと及び区分ごと並びに四半期別の集計結果を基に、さらに北地区計、南地区計及び合計を出力する。

c. 4 四半期分の集計を合計して年度累計を出力する。

d. 施設は Job No.を基に、以下の内容で割り振りする。

施設	Job No. (コード)
廃棄物管理施設	825
燃料研究棟	826
その他 北地区	534、741、812、813、814、815、816、817、818、819、824、837、842、843、844、872
AGF	AGF
DCA	DCA
FMF	FMF
MMF	MMF
WDF	WDF
その他 南地区	FSI、JOY、NAB、NAZ、RCB
所外	NFD、TUC

14. α 固体廃棄物A廃棄物パッケージ記録

- ① パッケージ No.
 - a. α 固体廃棄物A情報出力画面にて入力されたパッケージ No.を出力する。

- ② 総重量
 - a. lapac_2 テーブルより、「① パッケージ No.」に関連する重量と単位 (kg) を出力する。

- ③ 封入年月日
 - a. lapac_1 テーブルより、「① パッケージ No.」に関連する封入年月日を和暦で出力する。

- ④ (封入) 担当者
 - a. lapac_1 テーブルより、「① パッケージ No.」に関連する封入担当者 (コード表から一致する No.の担当者名) を出力する。

- ⑤ 容器種類
 - a. lapac_1 テーブルより、「① パッケージ No.」に関連する容器種類名 (コード表から一致する容器種類名) を出力する。

- ⑥ 廃棄物量 (kg)
 - a. 「① パッケージ No.」の前2文字が「AS」の場合は、lapac_3 テーブルより、「① パッケージ No.」に関連する Bag No.及びその量について、各 Bag No.のその量を合計して出力する。
 - b. 「① パッケージ No.」の前2文字が「AP」の場合は、lapac_1 テーブルより、「① パッケージ No.」に関連する装填 Lot No.及び個数、圧縮 Lot No.及び個数について、lalot テーブル及び latag テーブル (Batch No.で紐付け) から Lot の処理個数当たりの廃棄物重量を集計し、各 Lot No.の廃棄物重量の合計を出力する。

- ⑦ 固化素材量 (kg)
 - a. 「- (ハイフン)」を表示する。
 ※ 固化素材に関する情報は「⑩の封入概要」に出力するため。

- ⑧ 廃棄物の種類とその割合
 - a. 「① パッケージ No.」の前2文字が「AS」の場合は、廃棄物の種類「焼却灰」及び割合「100」を表示する。
 - b. 「① パッケージ No.」の前2文字が「AP」の場合は、lapac_1 テーブルより、「① パッケージ No.」に関連する装填 Lot No.及び個数、圧縮 Lot No.及び個数について、lalot テーブル及び latag テーブル (Batch No.で紐付け) から、以下の手順で全 Lot No.当たりの内容物名ごとの重量割合を集計し、上位5種類の内容物について、廃棄物の種類及

び割合を出力する。

なお、廃棄物の種類はコード表から一致する内容物名を出力する。

- a) 各 Tag No.について、内容物名当たりの重量割合 (内容物重量 × 割合) を計算する。
- b) a) を基に、Batch No.について、内容物名当たりの重量割合 (Σ (内容物重量 × 割合)) を計算する。
- c) b) を基に、Lot No.について、Lot の処理個数割合を考慮した内容物名当たりの重量割合 (Σ (内容物重量 × 割合 × Lot の処理個数割合)) を計算する。
- d) c) を基に、各 Lot No.の内容物名当たりの重量割合を合計し、パッケージにおける内容物名当たりの重量割合を計算する。

その後、重量割合を内容物の全重量で除することによって、内容物名当たりの割合とする。

- ※ Lot の処理個数割合は、分類後の Lot No.を実際に処理した Lot の個数割合を指すものであって、不燃 (フィルタ) 分類時のカートンボックス分の不燃 (フィルタ) の Lot 個数の減少は考慮しない。
- ※ 最終的な算出値を小数点以下 2 桁で四捨五入し、小数点以下 1 桁にて出力する。
- ※ 端数処理や内容物の種類が多い場合は合計 100%とならない可能性がある。

⑨ 発生経歴

- a. 「① パッケージ No.」の前 2 文字が「AS」の場合、以下の内容にて出力する。
 - a) 装填年月日及び装填担当者を、lapac_1 テーブルより「① パッケージ No.」に関連するものを出力する。
 - b) 固化年月日及び固化担当者を、lapac_3 テーブルより「① パッケージ No.」に関連するものを出力する。
 - ※ 値が設定されていない場合は出力しない。
 - c) Bag No.及びその量を、lapac_3 テーブルより「① パッケージ No.」に関連するものを全て出力する。
 - ※ Bag No. (昇順)、Bag 重量 (昇順) の順で出力。
 - d) 出力する Bag No.が 6 個以上存在した場合、5 個目の Bag No.に"その他"を出力する。

出力例)

○固化年月日設定なしの場合

年月日	担当者
装填 R2.9.30	廃棄太郎
Bag No.	BG96002-12.5
	BG96003-11.3
	BG99003- 6.1

○固化年月日設定ありの場合

年月日	担当者
装填 R2.10. 3	廃棄太郎
固化 R2. 9.30	廃棄花子
Bag No.	BG96002-12.5
	BG96003-11.3
	BG99003- 6.1
	BG99004- 3.1
	その他

- b. 「① パッケージ No.」の前 2 文字が「AP」の場合、以下の内容にて出力する。
- a) 装填年月日及び装填担当者を、lapac_1 テーブルより「① パッケージ No.」に関連するものを出力する。
- b) 圧縮年月日及び圧縮担当者を、lapac_1 テーブルより「① パッケージ No.」に関連するものを出力する。
- ※ 値が設定されていない場合は出力しない。
- c) Batch No.を、lalot テーブルより d) の Lot No.及び個数に関連するものを出力する。
- d) Lot No.及び個数を、lapac_1 テーブルより「① パッケージ No.」に関連する装填 Lot No.及び個数、圧縮 Lot No.及び個数を出力する。
- ※ Lot No. (昇順)、ロット種類 (装填→圧縮の順) の順で出力。
- e) 出力する Batch No.が 4 個以上存在した場合、3 個目の Batch No.に"その他"を出力、出力する Lot No.が 5 個以上存在した場合、4 個目の Lot No.に"その他"を出力する。

出力例)

○圧縮年月日設定なしの場合

年月日	担当者		
装填 R2.9.30	廃棄太郎		
Batch No.	H06047	Lot No.	LP06047-03/03
	H06048		LP06048-07/14
	その他		LP06049-03/03
			その他

○圧縮年月日設定ありの場合

年月日	担当者		
装填 R2.10.3	廃棄太郎		
圧縮 R2.9.30	廃棄花子		
Batch No.	H89021	Lot No.	LP89021-02/05
			LP89021-03/05

⑩ 主要核種及びその量 (Bq)

- a. 主要核種及びその量は、別紙 1「 α 固体廃棄物 A (可燃廃棄物) の放射エネルギーの算出方法について」及び別紙 2「 α 固体廃棄物 A (不燃廃棄物) の放射エネルギーの算出方法について」を基に計算し、出力する。
- b. 核種及び量は、核種重量の上位 4 核種について核種名及び放射エネルギーを出力し、それ以外は"その他"でまとめて放射エネルギーの合計のみ出力する。
- ただし、"その他"でまとまる核種が 1 核種の場合のみは、そのまま核種名を出力する。
- c. b.において、核種名"OTHER"が存在した場合は強制的に"その他"として算出を行い、核

種が 5 核種以内であっても"その他"として出力する。

⑪ 封入概要

- a. lapac_1 テーブルより、「① パッケージ No.」に関連する固化概要及び固化素材（登録されている場合のみ）を出力する。
- b. 固化素材は固化概要の下に、以下の内容にて出力する。
- | | | | |
|------------|-------|---|-------|
| ポルトランドセメント | 〇〇 kg | 砂 | 〇〇 kg |
| 砂利 | 〇〇 kg | 水 | 〇〇 kg |

⑫ 線量当量率（上面、側面、下面及び 1m 位置、単位： μ Sv/h）

- a. lapac_2 テーブルより、「① パッケージ No.」に関連する線量当量率_上面、線量当量率_側面、線量当量率_下面及び線量当量率_表面から 1m 位置を出力する。

⑬ 測定担当者

- a. lapac_1 テーブルより、「① パッケージ No.」に関連する封入担当者（コード表から一致する担当者名）を測定担当者として出力する。

⑭ 表面密度 (Bq/cm^3)

- a. $\beta\gamma$ に「<0.4」を表示する。 ※ 帳票へ固定表示とし、実際に出力は行わない。
- b. α に「<0.04」を表示する。 ※ 帳票へ固定表示とし、実際に出力は行わない。

⑮ 移管年月日、移管施設、移管アドレス及び移管担当者

- a. lapac_2 テーブルより、「① パッケージ No.」に関連する移管年月日、移管施設、移管アドレス及び移管担当者を出力する。

⑯ 移動年月日、移動施設、移動アドレス及び移動担当者

- a. lapac_2 テーブルより、「① パッケージ No.」に関連する移動年月日、移動施設、移動アドレス及び移動担当者を出力する。
- ※ 移動項目に設定されているうち、連番が一番大きい項目を対象として出力する。

⑰ 備考（記録票一左）

- a. 「① パッケージ No.」の前 2 文字が「AP」の場合、以下の内容にて出力する。
- a) lapac_1 テーブルより、「① パッケージ No.」に関連する装填 Lot No.及び圧縮 Lot No.について、lalot テーブル及び latag テーブル（Batch No.で紐付け）から内容物その他が登録されているものをデータごとに改行して、以下の内容にて出力する。
- ただし、内容物その他が複数存在した場合、同一の値は省略し、Job No.（昇順）、Tag No.（昇順）の順に改行して出力する。

出力例)

内容物 (その他)
 可燃 02.酢酸ビニル、04.その他：タイベックスーツ
 紙 (ダンボール) 、ポリビン以外 (ポリ袋)

- b. 「⑩ 主要核種及びその量 (Bq)」に"その他"が存在した場合、以下の内容にて出力する。
 - a) 「⑩ 主要核種及びその量 (Bq)」の"その他"としてまとめられた核種名を出力する。ただし、核種"OTHER"は除外する。
 - b) 「⑩ 主要核種及びその量 (Bq)」の"その他"の核種量と本項の備考その他を「* (アスタリスク)」で紐付け表示する。ただし、"その他"としてまとめられた核種が"OTHER"のみの場合は除外する。
 本項へ出力する「* (アスタリスク)」は、核種種別が判別できるよう、「*β・γ」「*α」として出力する。出力順は「*β・γ」→「*α」の順とする。
 - c. 上記 a.の内容物その他と上記 b.の核種その他が共に存在する場合、内容物その他→核種その他の順に、間に空白行を設けて出力する。
- ⑱ 備考 (記録票一右)
- a. lapac_1 テーブルより 「① パッケージ No.」に関連する内容器 No.及び容器_ドラム缶 No.を出力する。
 出力例) 内容器 (保管容器) No. : ○○○-○○○
 ドラム缶 No. : ○○-○○○
- ⑲ 廃棄物パッケージ比重
- a. 「⑤ 容器種類」が 21, 22, 23 及び 24 の場合は容器の容量を 200 として、「② 総重量」を 200 で除した値を小数点以下 1 桁 (2 桁目を四捨五入) にて表示する。
 - b. 上記以外の容器種類の場合は、計算は行わず廃棄物パッケージ比重を「- (ハイフン)」で表示する。
- ⑳ Job No.及び Tag No.
- a. 「① パッケージ No.」に関連する Job No.及び Tag No.を、「⑧ 廃棄物の種類とその割合」と同様の手順で各テーブルを紐付けして検索し、検索された Job No.及び Tag No.を全て出力する。
 - b. 可燃廃棄物で Job No.及び Tag No.が大量にあり、全てをシステム上出力しきれない場合は、出力可能な範囲で出力する。
 - c. システム設計上の出力上限は Job No.及び Tag No.それぞれで 162 個とする。
- ㉑ Tag 合計枚数
- a. 「㉑ Job No.及び Tag No.」で抽出された Tag No.の合計個数を集計し、出力する。

⑳ Job No.別 Tag 枚数

- a. 「⑳ Job No.及び Tag No.」で抽出された Job No.及び Tag No.について、Job No.ごとに Tag 枚数 (Tag No.の個数)を集計し、出力する。

付録 2 (別紙 1) α 固体廃棄物 A (可燃廃棄物) の放射エネルギーの算出方法について

1. はじめに

α 固体廃棄物 A 管理システムにおける可燃廃棄物 (焼却灰) 封入パッケージの放射エネルギーは、廃棄物情報を管理する Tag No.、各種処理情報及び二次廃棄物情報を管理する Batch No.、Lot No.、Run No.、Bag No.、そして廃棄物パッケージ情報を管理するパッケージ No. の 6 種類の管理番号が紐付けされながら算出される。

本紙では、可燃廃棄物 (焼却灰) 封入パッケージの放射エネルギーの算出過程をまとめた。

2. 管理番号同士の関連

受入廃棄物 (Tag No.) から廃棄物パッケージ (パッケージ No.) までの焼却灰の処理プロセスの関係は以下の番号で関連付けられている。

- ① Tag No. と Batch No. の関連 (latag テーブル)
- ② Batch No. と Lot No. の関連 (lalot テーブル)
- ③ Lot No. と Run No. の関連 (larun テーブル)
- ④ Run No. と Bag No. の関連 (labag テーブル)
- ⑤ Bag No. とパッケージ No. の関連 (lapac_3 テーブル)

廃棄物パッケージごとの放射エネルギーを算出する場合は、上記⑤のプロセスから順に①へと管理番号を逆順で紐づけし、廃棄物情報 (Tag No.) の放射エネルギーを基にパッケージの放射エネルギーを算出する。

3. 具体的な手順

3.1 パッケージ No. と Bag No. の関連

lapac_3 テーブルにおいて、パッケージ No. と Bag No. が関連付けられている。また、lapac_3 テーブルと labag テーブルにおいて、Bag No. 及び Bag 重量が両テーブルに紐付けされる。その際、同一 Bag No. に対する Bag 重量は概ね一致するが、一部は Bag 重量の数値が一致しない。これは、年代によって処理のやり方 (考え方) に違いがあるためである。

Bag 重量における年代による考え方の違いについて

2000 年 3 月以前は、焼却灰はセメント固化を行っていたため、総重量が適切に管理できていればよかった。そのため、焼却灰の回収 (PVC バックへの袋詰め) に係る旧計算コードへのデータ入力時に、同一 Bag No. の PVC バックは、重量を合算して一つの Bag No. 及び Bag 重量として登録することもあった。ただ、焼却灰をセメント固化をしてドラム缶に封入する際には、同一 Bag No. に対しても個々の PVC バックとして Bag No. 及び Bag 重量を登録していた。これにより、2000 年以前は lapac_3 テーブルと labag テーブルで、一部 Bag No. の数や Bag 重量に差が発生した。

例 : labag テーブルが一つの Bag 番号「BG96003-54.6」で、lapac_3 テーブルが複数の Bag 番号「BG96003-11.3」、「BG96003-13.0」、「BG96003-15.7」、「BG96003-

6.0]、「BG96003-8.6」等。

2000年4月以降はセメント固化をやめ、焼却灰を封入したPVCバックをそのままドラム缶に装填する処理に変更され、 α -A旧計算コードも併せて改修された。2000年4月以降は、焼却灰を封入した各PVCバックの重量及び個数をより正確に管理するようになったため、lapac_3テーブルとlabagテーブルでBag No.及びBag重量は一致する。

以上のことから放射能計算時には、各テーブル間におけるBag重量の相違も考慮する必要がある。そこで本計算時には、labagテーブルで示す同一NoのBag重量の合算とlapac_3テーブルで示す同Noの個別のBag重量からBag重量割合を算出し（Bag重量割合 = Bag重量 (lapac_3) / Bag重量合算 (labag)）、放射能計算時に補正用の係数として用いている (Table A2-1.1)。

Table A2-1.1 パッケージ No.と Bag No.の相関 (例)

パッケージ No.	Bag No.	Bag 重量 (lapac_3)	Bag 重量合算 (labag)	Bag 重量割合
AS01Z011	BG99001	6.0	19	0.3158
AS01Z011	BG99001	13.0	19	0.6842
AS01Z011	BG98003	12.9	12.9	1.0000
AS01Z012	BG98001	8.6	8.6	1.0000
AS01Z012	BG97005	5.7	5.7	1.0000
AS01Z012	BG96001	12.4	21.3	0.5822

焼却灰のセメント固化処理について

焼却灰のセメント固化は次の手順で行われる。データ登録においてはここまで細かい情報は必要ないが、2000年当時の作業を知るための有益な情報として記しておく。

- ① 焼却灰を封入するPVCバックに小さな穴をあけ、水を入れて灰に十分吸収させる。
- ② PVCバックを開封し、焼却灰をペール缶に入れる。
- ③ セメントに水を入れ、その後ペール缶に入れる。
- ④ 適宜ペール缶に水を入れながら、攪拌機で焼却灰とセメントを混練する。
- ⑤ 混練後、ペール缶内の固形物を100 Lドラム缶に詰め替え、一杯になるまで同様の処理を行う。
- ⑥ 固形物が固まった100 Lドラム缶を200 Lドラム缶に入れる。その後アスファルトを充填し保管体とする。

3.2 Bag No.、Run No.及び Lot No.の関連

labag テーブルにおいて、Run No.と Bag No.が関連付けられている。また、larun テーブルにおいて、Run No.と Lot No.が関連付けられている。Lot No.には、Lot 内処理個数及び Lot 内全数があり、当該処理において Lot 全数が一度に処理されるとは限らない。そのため、3.1 節と同様に Lot 個数についても、Lot 全数に対して実際に処理した個数分の割合を、放射能計算の際の補正係数にすることとした (Lot 個数割合 = Lot 内処理個数 / Lot 内全数。Table A2-1.2)。

Table A2-1.2 Bag No.、Run No.及び Lot No.の相関 (例)

Bag No.	Run No.	Lot No.	Lot 内 処理個数	Lot 内 全数	Lot 個数 割合
BG97005	97005-01	LS97046	06	06	1.0000
BG97005	97005-01	LS97045	18	41	0.4390
BG97005	97005-02	LS97045	09	41	0.2195
BG97005	97005-03	LS97045	14	41	0.3415

3.3 Batch No.と Lot No.の関連

lalot テーブルにおいて、Batch No.と Lot No.が関連付けられている。Batch No.の「S」は焼却設備を「H」は α ホール設備を表し、Lot No.の「LS」は可燃を「LP」は不燃を表す。

可燃廃棄物の焼却処理は、純粋な可燃廃棄物と不燃廃棄物を梱包していたカートンボックスの 2 種類が行われる。α ホール設備での不燃由来のカートンボックスは分類作業時に発生し、新たに Lot No.及び個数が付与される (個数は 01 で固定)。そして、不燃由来のカートンボックスは、放射能計算時の分配は行わない。

判別の方法として、Batch No.の頭文字が「H」で Lot No.の頭文字が「LS」の場合は不燃廃棄物由来のカートンボックスであるので、放射能計算の対象から除外する (放射能量は全て不燃 (「LP」) の方に移行したと想定)。

なお、不燃廃棄物の分類作業 (H97048) で発生した Lot No.一個数の LS97045-41 及び LP97048-47 は上記のルール (LS = 01) から逸脱する。なぜ不燃廃棄物 (Tag 個数 : 88 個) の分類を可燃 (LS) = 41 個及び不燃 (LP) = 47 個としたかは不明であるが、本システム製作においては、[H] & [LS] = 01 は計算除外のルールを適用し、LS : 41 個は放射能分配しないこととした。

3.4 Tag No.と Batch No.の関連

latag テーブルにおいて、Tag No.と Batch No.が関連付けられている。

また、核種コード及び核種量も紐づけできることから、複数列に配置された核種コード及び核種量を Table A2-1.3 の通り整理した。

Table A2-1.3 Tag No.、Batch No.、核種コード及び核種量の相関整理（例）

Job No	Tag No.	Batch No.	核種種別	核種コード	核種量
FMF	970013	S97018	$\beta \gamma$	15	8900000
FMF	970013	S97018	α	44	180000
FMF	970018	S97018	$\beta \gamma$	15	7400000
FMF	970018	S97018	α	44	150000

3.5 パッケージ当たりの核種量の算出

3.1 節から 3.4 節に基づき、パッケージ No.、Bag No.、Run No.、Lot No.、Batch No.及び Tag No.のリレーションを構築し、廃棄物パッケージごとの核種量を算出する。核種量の算出に際しては、Bag 重量割合及び Lot 個数割合を補正係数として乗ずる。

付録2 (別紙2) α 固体廃棄物A (不燃廃棄物) の放射エネルギーの算出方法について

1. はじめに

α 固体廃棄物A管理システムにおける不燃廃棄物封入パッケージの放射エネルギーは、廃棄物情報を管理する Tag No.、各種処理情報及び二次廃棄物情報を管理する Batch No.、Lot No.、そして廃棄物パッケージ情報を管理するパッケージ No.の4種類の管理番号が紐付けされながら算出される。

本紙では、不燃廃棄物封入パッケージの放射エネルギーの算出過程をまとめた。

2. 管理番号同士の関連

受入廃棄物 (Tag No.) から廃棄物パッケージ (パッケージ No.) までの不燃廃棄物の処理プロセスの関係は以下の番号で関連付けられている。

- ① Tag No.と Batch No.の関連 (latag テーブル)
- ② Batch No.と Lot No.の関連 (lalot テーブル)
- ③ Lot No.とパッケージ No.の関連 (lapac_1 テーブル)

廃棄物パッケージごとの放射エネルギーを算出する場合は、上記③のプロセスから順に①へと管理番号を逆順で紐づけし、廃棄物情報 (Tag No.) の放射エネルギーを基にパッケージの放射エネルギーを算出する。

3. 具体的な手順

3.1 パッケージ No.と Lot No.の関連

lapac_1 テーブルにおいて、パッケージ No.と Lot No.が関連付けられている。

Lot No.には、Lot 内処理個数及び Lot 内全数があり、当該処理において Lot 全数が一度に処理されるとは限らない。そのため、Lot 全数に対して実際に処理した個数分の割合を、放射能計算の際の補正係数にすることとした (Lot 個数割合 = Lot 内処理個数 / Lot 内全数。Table A2-2.1)。

Table A2-2.1 パッケージ No.と Lot No.の相関 (例)

パッケージNo.	処理区分	Lot No.	Lot 内処理個数	Lot 内全数	Lot 個数割合
AP902009	装填	LP90009	08	10	0.8000
AP902010	装填	LP90009	02	10	0.2000
AP951001	装填	LP95001	01	01	1.0000
AP02O037	圧縮	LP02037	15	15	1.0000

3.2 Batch No.と Lot No.の関連

lalot テーブルにおいて、Batch No.と Lot No.が関連付けられている。

Tag 個数と Lot 内全数は基本一致するが、Table A2-2.2 に示すものについては、Tag 個数と Lot 内全数が一致しない。これは廃棄物 (Lot) をドラム缶 (PG) に封入する際、Tag 個数では分けられない配分で分配する場合であり、Lot で個数を再定義したものである。LP89032 及び LP90009

について、Table A2-2.2 と Table A2-2.3 を見比べると Tag 個数では分配できない割合で Lot 個数を分配していることがわかる。

Table A2-2.2 Tag 個数と Lot No.の個数が一致しない例

Batch No.	Tag 個数	Lot No.及び個数
H89032	5	LP89032-20
H90009	1	LP90009-10
H92065	27	LP92065-30
H97046	4	LP97046-12
H97060	10	LP97060-40
H98008	5	LP98008-40

Table A2-2.3 パッケージ No.と Lot No.の相関テーブル抜粋 (LP89032 及び LP90009)

パッケージNo.	区分	Lot No.	Lot 内処理個数	Lot 内全数	Lot 個数割合
AP896078	装填	LP89032	05	20	0.2500
AP896079	装填	LP89032	05	20	0.2500
AP896080	装填	LP89032	05	20	0.2500
AP896081	装填	LP89032	05	20	0.2500
AP902009	装填	LP90009	08	10	0.8000
AP902010	装填	LP90009	02	10	0.2000

不燃廃棄物の処理において、不燃廃棄物を梱包していたカートンボックスは可燃廃棄物と共に焼却処理に回される。そして、分類作業で不燃廃棄物とカートンボックスを分ける際、カートンボックスにも新たに Lot No.及び個数が付与され、カートンボックスの Lot 個数は 01、不燃廃棄物の Lot 個数は (全 Lot 個数 - 01) となる。そのため、このまま不燃廃棄物の放射エネルギーを算出するとカートンボックスに Lot 個数 01 を付与した分だけ過小評価された計算となる (不燃廃棄物の Lot 内全数 / Tag 個数 < 1 となり、この係数が Tag ごとの放射エネルギーに乗ぜられるので過小評価になる)。実際に、 α -A 旧計算コードの廃棄物パッケージ記録では、不燃廃棄物の放射エネルギーが過小評価されているものが見受けられた。そのため、不燃廃棄物の放射エネルギーが過小評価されないようにする必要がある。

判別の方法として、Batch No.の頭文字が「H」で、同一の Batch No.で「LS」始まりと「LP」始まりの Lot No.があるものは、分類作業が行われた廃棄物である。「LS」及び Lot 個数 = 01 の Lot No.は放射能分配させず、全て「LP」の方に放射能は移行したものとして計算する。

なお、不燃廃棄物の分類作業 (H97048) で発生した Lot No.一個数の LS97045-41 及び LP97048-47 は上記のルール (LS = 01) から逸脱する。なぜ不燃廃棄物 (Tag 個数 : 88 個) の分類を可燃 (LS) = 41 個及び不燃 (LP) = 47 個としたかは不明であるが、本システム製作においては、[H] & [LS] = 01 は計算除外のルールを適用し、LS : 41 個は放射エネルギー分配しないこととした。

注意事項

カートンボックスで梱包された全ての不燃廃棄物が、不燃廃棄物とカートンボックスに分類されてシステムに登録されているわけではない。実際、分類してカートンボックスに新たに Lot No.を付与する現行のやり方になったのは 1996 年以降のことである。これは当時の処理方法は圧縮がメインであったため、カートンボックスを不燃廃棄物と分類せず一緒に圧縮していたためである (Fig. A2-2.1)。装填処理しか行っていないものでも新たに Lot No.を付与していないものもあるので、当時どこまで統一的な処理を行っていたかは不明であるが、現在は新たに Lot No.を付与する形で統一しているので、本システム製作においても現行のやり方に合わせたシステムとする。

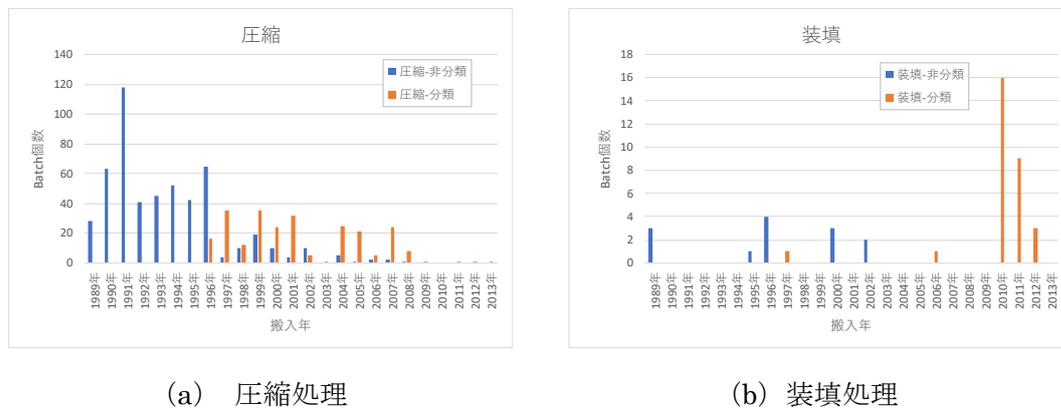


Fig. A2-2.1 カートンボックスで梱包された不燃廃棄物を処理する際の分類の実施状況

3.3 Tag No.と Batch No.の関連

latag テーブルにおいて、Tag No.と Batch No.が関連付けられている。

また、核種コード及び核種量も紐づけできることから、複数列に配置された核種コード及び核種量を Table A2-2.4 の通り整理した。

Table A2-2.4 Tag No.、Batch No.、核種コード及び核種量の相関整理 (例)

Job No	Tag No.	Batch No.	核種種別	核種コード	核種量
FMF	970013	S97018	$\beta \gamma$	15	8900000
FMF	970013	S97018	α	44	180000
FMF	970018	S97018	$\beta \gamma$	15	7400000
FMF	970018	S97018	α	44	150000

3.4 パッケージ当たりの核種量の算出

3.1 節から 3.3 節に基づき、パッケージ No.、Lot No.、Batch No.及び Tag No.のリレーションを構築し、廃棄物パッケージごとの核種量を算出する。核種量の算出に際しては、Lot 個数割合を補正係数として乗ずる。

付録3 α 固体廃棄物Aの払出し方法の改善について

従来、α 固体廃棄物Aの払出しに係る廃棄物発生施設と廃棄物管理施設での廃棄物情報のやり取りは、カーボン複写式の廃棄物記録票（紙媒体の記録）により行われていた。カーボン複写式の記録票は、書き間違いのリスクや手書きの労力があるため、これまで廃棄物発生施設より電子化の要望が出されていたが、現在まで改善には至らなかった。その大きな要因として、廃棄物管理施設保安規定の第35条第3項第6条に、「別表第5-2に掲げる事項*が容器等に表示されていること。」と規定されており、払い出す放射性廃棄物の容器に、廃棄物記録票を添付する運用としていたためである。

* 放射性廃棄物の性状に係る表示として、本編 Table 2.4 に掲げる事項を表示する必要がある。

実際の運用として、Fig. A3-1（従来）に示す通り、カーボン複写式の廃棄物記録票（3枚又は4枚綴り）の1枚（処理票）を廃棄物容器に添付し、別の1枚（依頼票）を廃棄物管理施設に提出、廃棄物管理施設の方では受け取った廃棄物記録票を基に、手入力で電子情報化していた。

そこで今回、α 固体廃棄物A管理システムの構築に併せて、廃棄物情報のやり取りを電子化し、廃棄物記録票も複写式の紙記録に手書きするのではなく、パーソナルコンピュータ上で入力・印刷する方法に改善した。

具体的には、廃棄物記録票を作成するための専用の登録フォーム（Excel）を廃棄物発生施設に配付し、廃棄物発生施設側で廃棄物情報の入力を行う。本フォームより廃棄物記録票を出力・印刷し廃棄物容器に添付すると共に、廃棄物情報が記録された CSV ファイルを出力し、廃棄物管理施設に提出する。廃棄物管理施設の方では、α 固体廃棄物A管理システム内の CSV ファイル読み込み機能により、廃棄物情報の読み込みを行う（Fig. A3-1）。

以上、α 固体廃棄物Aの払出し方法の改善により、廃棄物発生施設においては、廃棄物記録票を手書きする必要がなくなり、廃棄物管理施設においては、廃棄物情報をシステムに手入力する手間がなくなり利便性が向上した。

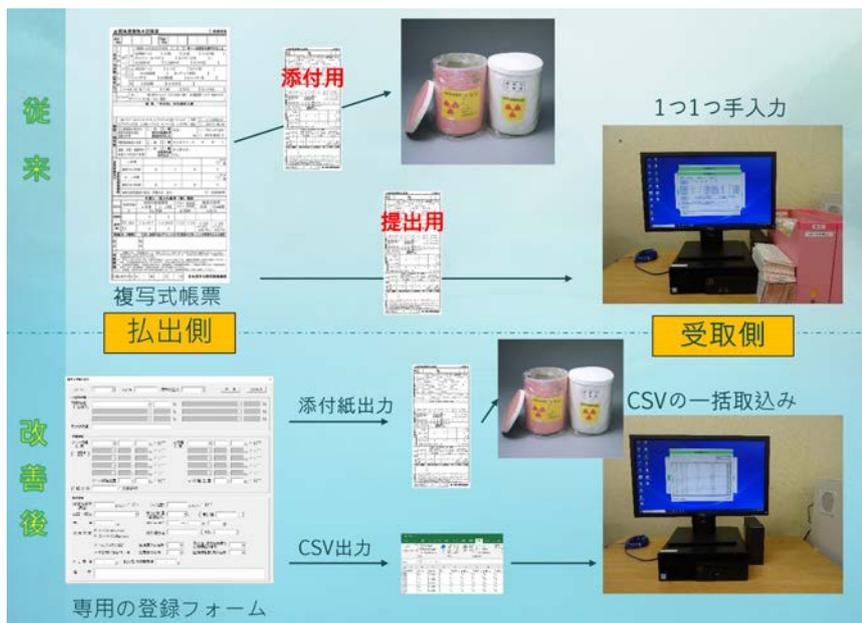


Fig. A3-1 α 固体廃棄物Aの払出し方法の改善

